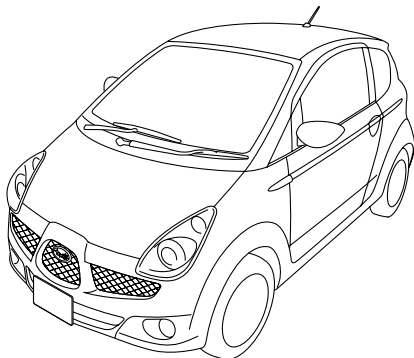
このたびは「Ｒ１」を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は車両の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
また、法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任がうたわれております。別冊の「メンテナンスノート」と併せてお読みください。

- 交通ルール・マナーを守り運転しましょう。
- 自然環境保護にも気をくばりましょう。
- スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- 装備については販売店でカタログをご請求ください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますので
ご了承ください。

R1 RJ1-017001～018400,RJ2-011001～011400

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや車体が損傷する可能性があることを回避法とともに示しています。

	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。

⚠注 意	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。

禁止行為はイラストに禁止マークが入っています。

	イラストに左記のマークを記載して禁止事項を示しています。

その他の表示

	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと

	グレード等により異なる装備については よつばマークがついています。

本文の見かた

このページはサンプルページです。記載されている内容は実際のお車とは異なります。

検索について

本書では、色々な方法で目的のものを検索できるようにしてあります。

タイトルから探す

本書の構成

ツメタイトル

各章の目次

場所から探す

イラスト目次...............0ー1ページ

名称から探す

さくいん............さくいんー1ページ

本書の目次

イラスト目次

インストルメントパネル周辺

ハンドル周辺

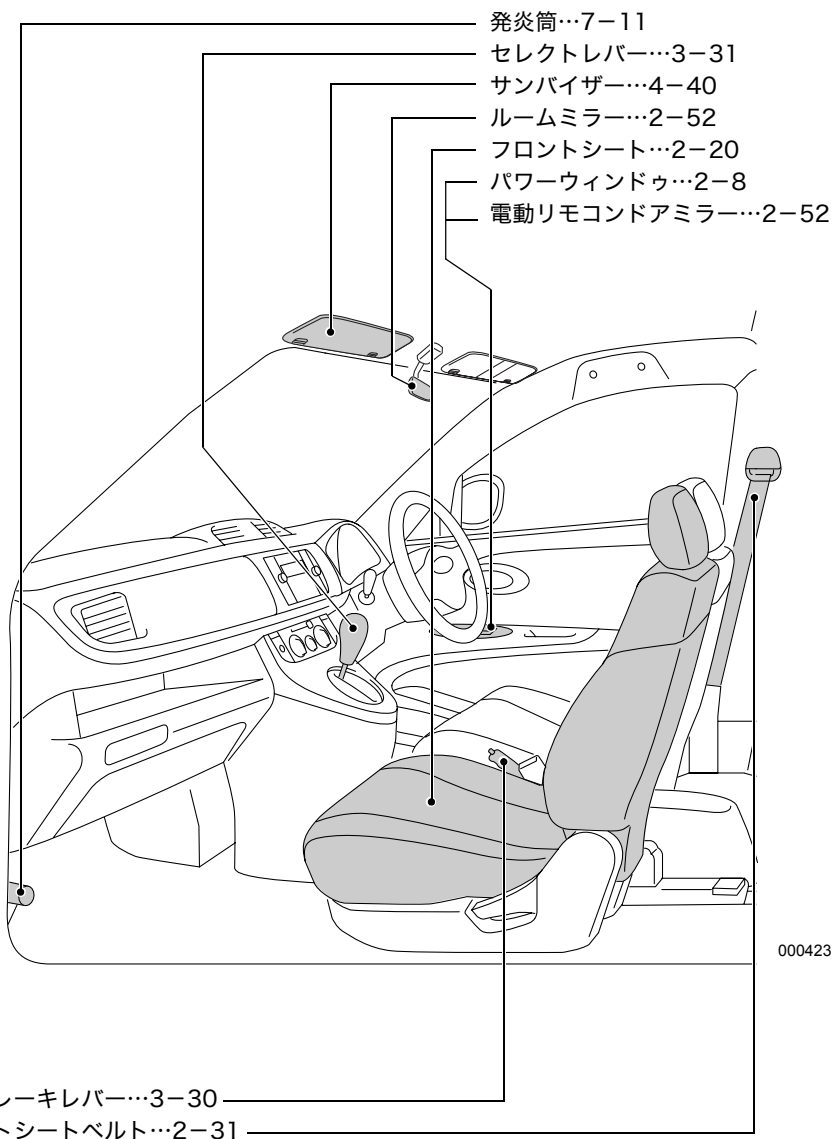
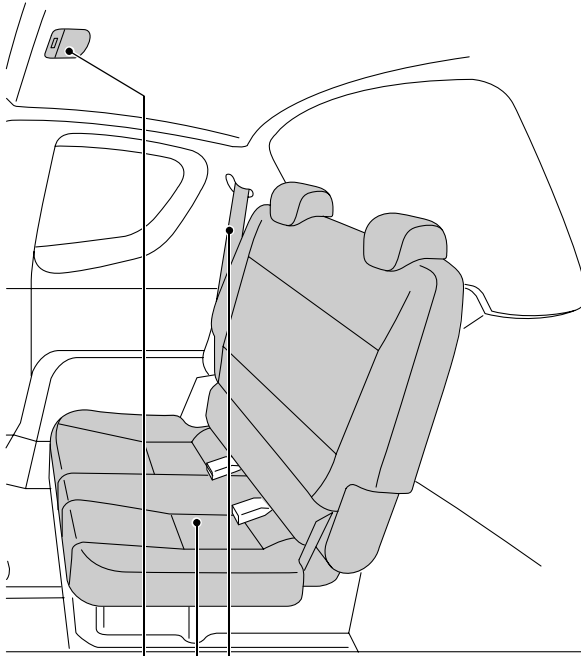
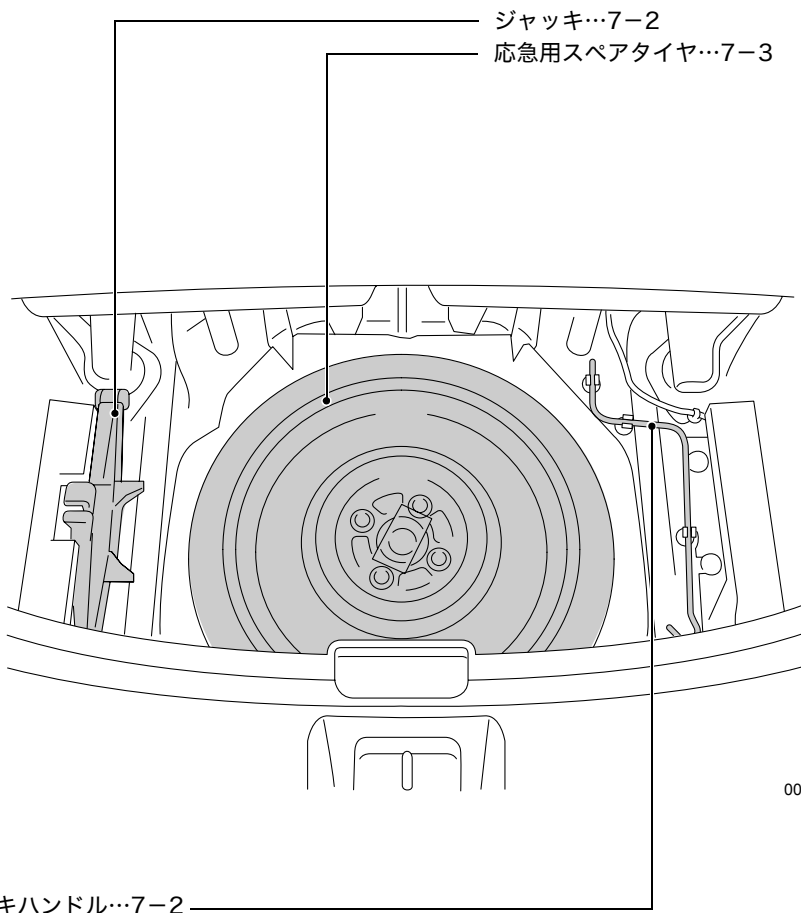
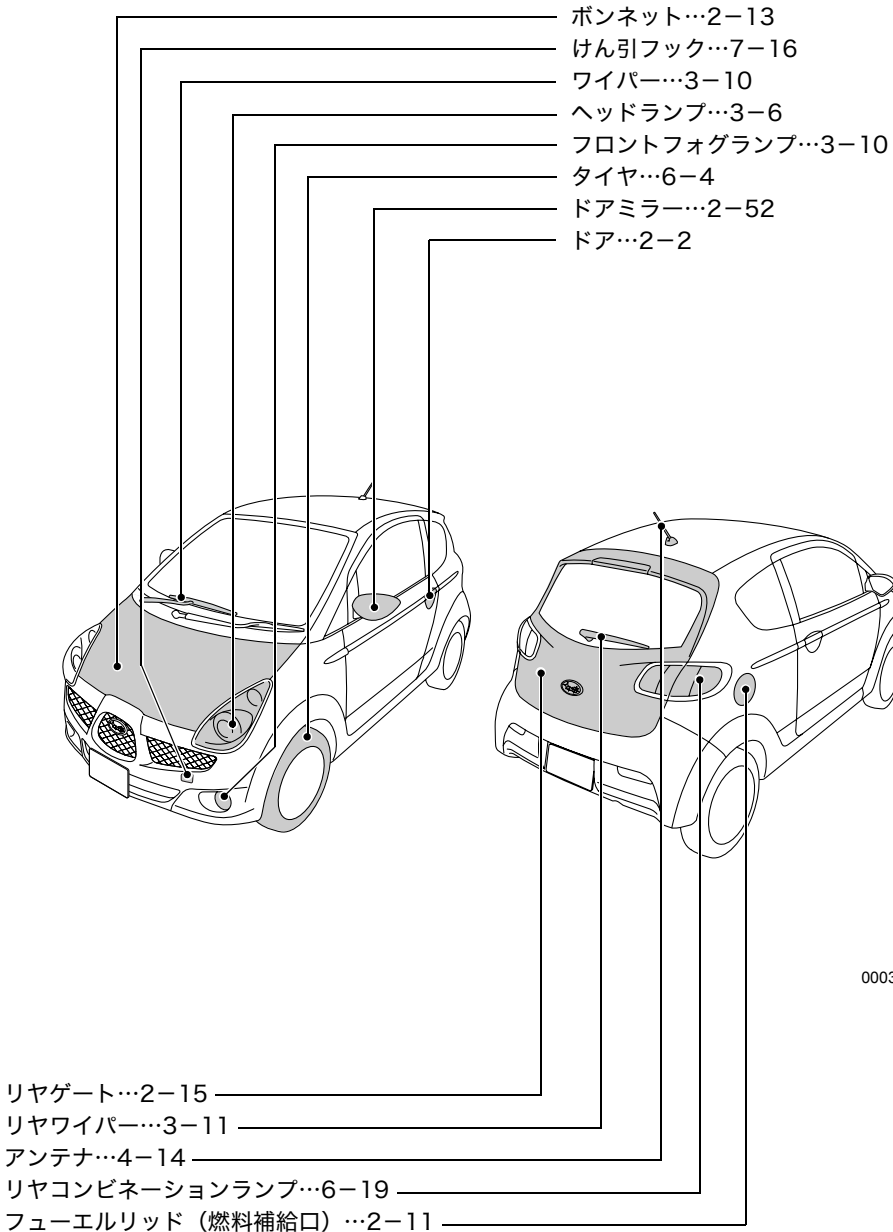
イラスト目次

メーター・表示灯

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

警告灯

※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

室内・前側

発炎筒…7－11
セレクトレバー…3－31
サンバイザー…4－40
ルームミラー…2－52
フロントシート…2－20
パワーウィンドゥ…2－8
電動リモコンドアミラー…2－52
000423
駐車ブレーキレバー…3－30
フロントシートベルト…2－31

室内・後側

荷室

外観

ボンネット…2−13
けん引フック…7−16
ワイパー…3−10
ヘッドランプ…3−6
フロントフォグランプ…3−10
タイヤ…6−4
ドアミラー…2−52
ドア…2−2
000387
リヤゲート…2−15
リヤワイパー…3−11
アンテナ…4−14
リヤコンビネーションランプ…6−19
フューエルリッド（燃料補給口）…2−11

1 必読！安全で快適な運転のポイント

■ユーザーカスタマイズ機能

お客様のお好みにより、以下の機能の設定を変更することができます。スバル販売店にて変更することができますので、詳しくはスバル販売店にご相談ください。

項目	機能の内容	設定	初期設定	参照ページ
キーレスエントリー	ハザードアンサーバックの作動	作動あり／作動なし	作動あり	☆2−4ページ
	自動施錠の作動	30秒後作動／15秒後作動／7秒後作動／作動なし	30秒後作動	☆2−4ページ
	ルームランプアンサーバックの作動※	ロック操作時徐々に消灯／1回点滅／作動なし	徐々に消灯	☆2−4ページ
		アンロック操作時自動施錠の設定時間点灯／2回点滅／作動なし	自動施錠の設定時間点灯	☆2−4ページ
キー閉じ込み防止	キー閉じ込み防止の作動	作動あり／作動なし	作動なし	☆2−7ページ
ルームランプ	ルームランプオフディレイの作動	ドア連動30秒点灯後徐々に消灯／徐々に消灯／30秒点灯後消灯／消灯	30秒点灯後徐々に消灯	☆4−38ページ

※「ロック操作時」と「アンロック操作時」は別々に設定することができません。

お出かけ前には

■点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。

☆別冊の「メンテナンスノート」参照

■タイヤ空気圧を点検して

タイヤ空気圧の点検は法律で義務づけられています。タイヤ空気圧は応急用スペアタイヤも含め、空気圧ゲージを使用してドライブの前や、定期的（最低月１回程度）に点検・調整してください。タイヤ空気圧が不足したまま走行すると走行不安定やタイヤのバースト（破裂）を招き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆6−4、8−6ページ参照

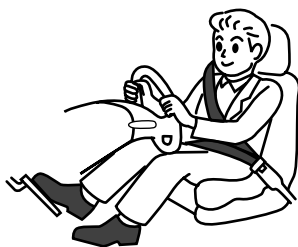
■バッテリーの液量はときどき点検して

バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ない時は上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

☆別冊のメンテナンスノート参照

■正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。

☆2−18、2−52ページ参照

100028

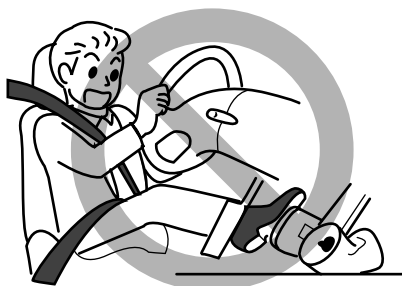
■シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ず全員がシートベルトを正しく着用してください。
- 後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRS エアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

☆2－28ページ参照

100029

■運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで固定してください。
  アクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

100230

■サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■室内に荷物を積むとき

荷物はできるだけ低くし、背当ての高さ以上に積まないでください。ブレーキを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながることがあります。

100231

■ルーフに荷物を積むとき

- ルーフに荷物を積むときは、別売のスバル純正ルーフキャリアおよびアタッチメントを使用してください。スバル純正品以外を使いますと、車体に損傷を与えることがあります。
- 走行中荷物が落下すると危険ですので、確実に荷物を固定してください。
- 固定方法や最大積載量については、ルーフキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書を必ずお読みください。

100564

■インストルメントパネルの上やスイッチの近くに物を置かないで

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スイッチの近くに物を置かないでください。走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動したり、スイッチの押されかたによっては、故障や加熱・火災の原因になります。
- SRS エアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆2−43ページ参照

100232

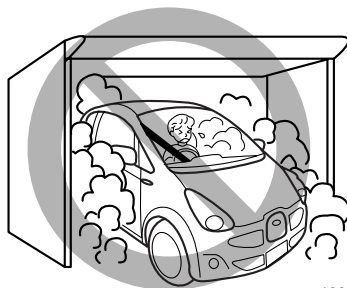
■危険物の持ち込みはやめて

燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは炎天下で車内が高温になったとき火災の原因につながるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。

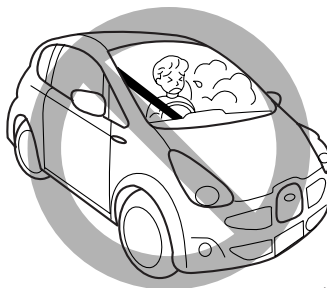
100233

R1 RJ1-017001～018400, RJ2-011001～011400

■排気ガスの換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不充分になり、車内や車庫などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

100565

■車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら

すみやかに窓を開け、換気してください。
そのまま放置すると、排気ガスにより一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

101023

■車の後ろに気をつけて

- お子さまや障害物など、車のまわりの安全を充分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。

100566

■こんなとき、スバル販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音やにおいや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき
- 各警告灯が点灯・点滅したままのとき

■燃料には無鉛ガソリンを

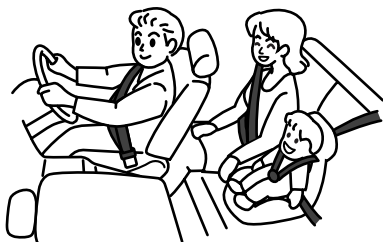
- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 粗悪なガソリンや軽油、アルコール燃料等の不適切な燃料やガソリン添加剤は、エンジンの各部に悪影響を与えますので使用しないでください。
- 無鉛レギュラーガソリンを使用してください。

☆1－25ページ参照

お子さまを乗せるときの気くばり

■お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置にさわって思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席にすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができない場合はチャイルドシートを助手席側の後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

☆2－41ページ参照

200509

100234

■チャイルドシートを使用して

- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまの場合、チャイルドシートを使用してください。
- 法律により6歳未満のお子さまを対象に、チャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまは必ずチャイルドシートを使用してください。

〈選択の目安〉

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重（目安）	9 kg以下	9～18 kg	18～36 kg
身長（目安）	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢（目安）	0か月～9か月頃まで	4か月～4歳頃まで	4歳～12歳頃まで

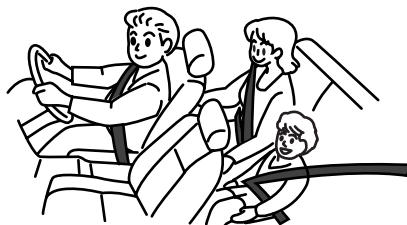
- チャイルドシートは助手席側の後席のみ取り付け可能です。
- チャイルドシートを取り付けるときは、助手席の背当てを折りたたみ、シートを最前位置で固定してください。助手席が確実に固定されていることを確認してください。

☆2－22ページ参照

- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていない時でも確実にシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけた時などにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用させてください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまにはチャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていても、衝突したとき充分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグの前やシートの上に立たせた状態では走行しないでください。

100234

100037

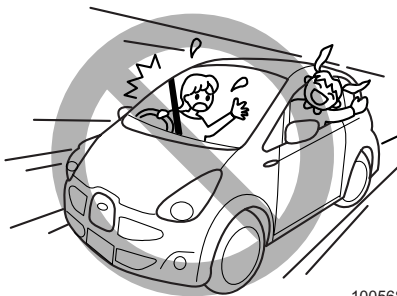
■ドアの開閉に注意して

- ドアの開閉、施錠は必ず大人が行ってください。ドアを開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。
- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないようにご注意ください。

☆2－2ページ参照

100913

■窓から顔や手を出させないで

走行中、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。

100568

■パワーウインドゥに気をつけて

- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので、閉める前にお子さまが窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときにはパワーウインドゥのロックスイッチをロックにしておいてください。
  お子さまがウインドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2－8ページ参照

100235

■車から離れるときはご一緒に

- とくに乳児など小さなお子さまや介護を必要とする方は車内に残さないでください。炎天下の車内は高温となり熱射病などにつながるおそれがあります。
  エアコンを作動させていても途中で止まることがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキ等、運転装置のいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

100569

i-CVT車の特徴と運転上の注意

☆3−31ページの「i-CVT車の運転」も併せてお読みください。

■クリープ現象があります

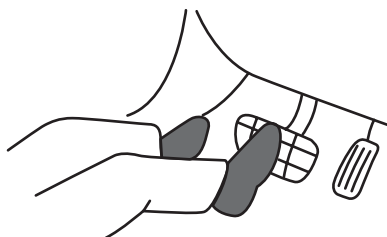
- エンジンがかかっているとき、アクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象をクリープ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が上がるため、(アイドルアップ) クリープ現象が強くなることがありますのでブレーキペダルを確実に踏んでください。
  必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。

100570

■強い加速を必要とするときキックダウンができます

- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤ比へ変速します。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。
- スポーツシフト装着車でマニュアルモード選択時は、キックダウンは行われません。キックダウンを行う必要のあるときは、Dに戻してください。

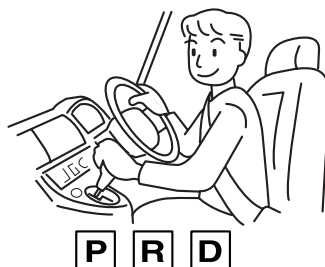
■ブレーキペダルは右足で

- エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応がおくれることがあり危険です。

100042

■セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルを踏まずにブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないとPから動かないようになっております。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため後退した後は、すぐRから一度Nに戻す習慣をつけてください。

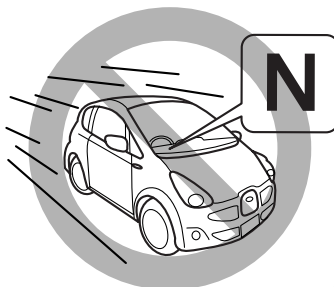
■セレクトレバー位置は目で確認

エンジンをかけるときはP、前進するときはD（後退はR）の位置にあることを目で確認してください。

100043

■発進時アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時はゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

■走行中はセレクトレバーをNにしないで

エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

100571

■走行中（前進時）は、Rにしないで

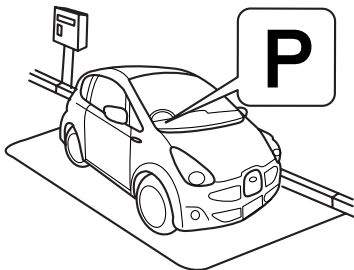
トランスミッションの損傷の原因になります。

■車が完全に止まらないうちにPに入れないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

■駐車するときはPにして、駐車ブレーキを確実に

車が動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーをPにし、駐車ブレーキも必ずかけてください。

☆1－22ページ参照

100572

■停車中は空吹かしをしないで

思わぬ事故につながるおそれがありますので、空吹かしをしないでください。

100573

■車から離れるときはエンジンを止めて

- クリープ現象で車がひとりでに動いたり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーをPにして駐車ブレーキを確実にかけエンジンを切ってください。

100574

R1 RJ1-017001～018400,RJ2-011001～011400

■ R に入れるとブザーが鳴ります

R に入れるとブザーが鳴り、R であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。

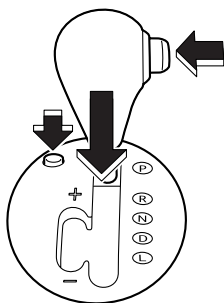
■ シフトロックシステムがついています

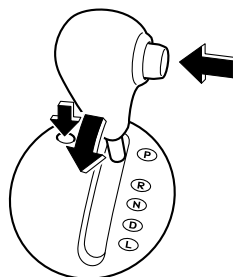
- P からのレバー操作は、エンジンスイッチを ON にし、ブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- セレクトレバーを P から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを手前に引いてからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバーを操作してください。
- P 以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。（P 以外ではキーをAccからLOCKに回せません。）

■ P からのレバー操作ができないとき

- エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でも操作できないときは、次の手順でシフトロックを解除してください。

①駐車ブレーキレバーを引きます。
②ブレーキペダルを踏みます。
③シフトロック解除ボタンを押しながらセレクトレバーを操作します。

＜スポーツシフト装備車＞

100001

＜スポーツシフト装備車以外＞

100000

この場合は、シフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

走行するときには

■タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷につながるおそれがあり危険です。また、操作性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

☆6－4、7－3ページ参照

■走行中異常があったら

- 警告灯が点灯したら、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡してください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3－22ページ参照

- ボンネット内部は高温になっています。ボンネットを開けてチェックするときは、高温部に触れないでください。やけどをすることがあります。エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- オーバーヒートしてエンジンルームから水蒸気が吹き出しているときは絶対にボンネットを開けないでください。

☆7－19ページ参照

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルを確実に握り、急ブレーキをかけずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を止め、ブレーキ液や燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように点検してください。損傷や異常がある場合は、スバル販売店に連絡してください。

■ペダルに足をのせたまま運転しないで

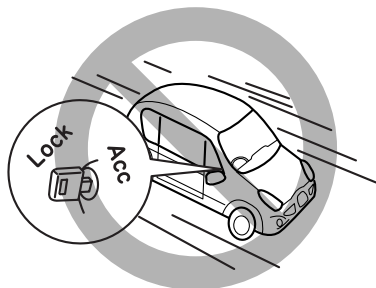
ブレーキペダルに足をのせたまま運転しないでください。ブレーキの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。

100236

■走行中はエンジンスイッチを切らないで

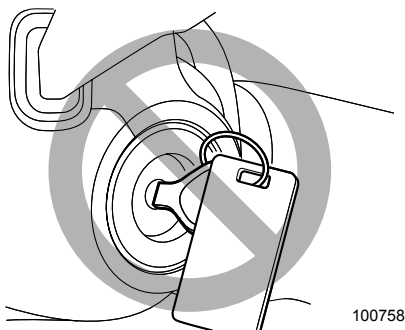
- 走行中エンジンを止めるとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

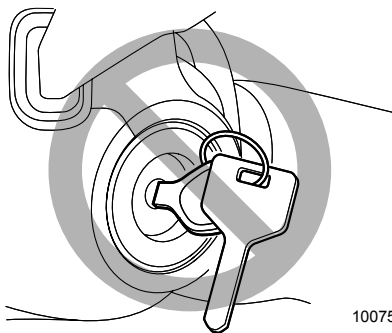
☆3−46ページ参照

- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。
- 走行中「LOCK」にしないでください。キーが抜けるとハンドルが固定され、操作ができなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

100576

■キーホルダーや他のキーに気をつけて

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。
  大型のキーホルダーをキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。また、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき

100758

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

100759

■ABSを過信しないで

ABSは必ずしも制動距離を短くするものではありません。
下記の道路などではABSが作動した場合、ABSが付いていない車よりも制動距離が長くなることがあります。充分な車間距離をとって安全運転に心がけてください。

- マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
- 道路のつなぎ目などの段差
- 凹凸路、石畳などの悪路
- 下り坂での旋回
- 路肩に草や砂利が多い道路
- 砂利道
- 雪道（新雪路、圧雪路、凍結路など）

☆3−44ページ参照

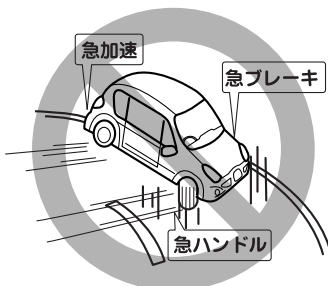
■洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効き確認を

水たまり走行後や洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。ブレーキの効きが悪い場合は前後の車に充分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。

100577

■ぬれた路面や滑りやすい路面での走行は慎重に

とくに雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転が急上昇するような急なシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆1－21ページ参照

100578

■雨天の走行は速度を落として

- 路面がぬれると滑りやすくなります。
  通常より注意して安全運転に心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。とくに摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン損傷や車両事故につながるおそれがあります。

■下り坂ではエンジンブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
- シフトダウンせずにエンジンの低回転領域でブレーキを使用し続けると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）のアシスト力（補助力）が弱くなり、ブレーキペダルを踏むとき通常より強い力が必要となる場合があります。

☆3－46ページ参照

〈エンジンブレーキとは〉

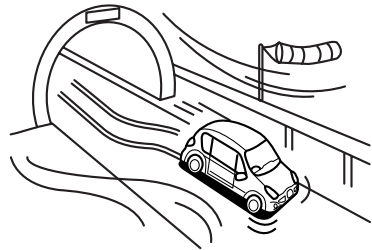
走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。

〈シフトダウンとは〉

- セレクトレバーを[L]にすると低速側に切り替わります。
  また、スポーツシフト付車で、マニュアルモード選択時は、マニュアル車同様7→6、6→5、5→4、4→3、3→2、2→1のように低速ギヤ比へ変速します。
- シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、進路状況や車間距離に注意して行ってください。

☆3－40ページ参照

■横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転しましょう。
走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。

100579

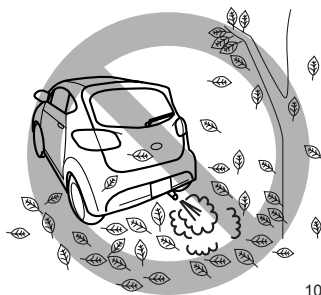
■高速道路に入る前には

- 燃料は充分補給してください。とくに高速道路上での燃料切れは危険です。
- タイヤ空気圧を確認してください。空気圧不足の状態で高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。

☆6－4、8－6ページ参照

- 万一のために停止表示板（または停止表示灯）を車に備えておいてください。
  停止表示板（または停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。（別売り）

■燃えやすいものの上は走らないで

排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。

■こんなことにも注意してください

- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は充分とってください。
- スタック（立ち往生）したときなどはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。

■適切なエンジン回転数で運転を

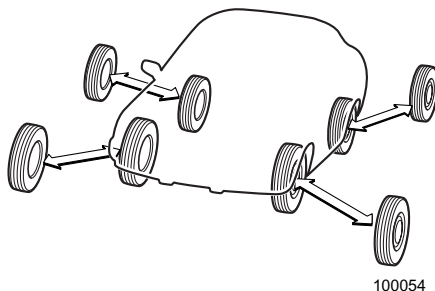
- 新車の慣らし運転中（約1,000 kmまで）はエンジン回転をなるべく抑えてご使用ください。慣らし運転後はタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン未満でご使用ください。
- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや急加速などをしないでください。

雪道走行するときには

■4輪とも冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）で

- 雪道走行が予想される場合は冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を用意してください。
  一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4輪とも必ず指定空気圧および指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。

☆1－15ページ参照

100054

■控えめな運転に心がけて

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは、避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、車の進路をコントロールできなくなる場合があります。

☆5－8ページ参照

■タイヤチェーンは非常のときのみ前輪に

- タイヤチェーンは前輪に取り付けてください。

☆5－2ページ参照

- タイヤチェーンを取り付けると、前後輪の接地力バランスが変わるため、後輪が滑りやすくなります。後輪が滑り出すと、ハンドルで車の進路をコントロールすることが難しくなります。
  急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。

100581

駐・停車するときには

■燃えやすいものの近くに車を止めないで

- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、火災につながるおそれがあります。

■停車中は空吹かしをしないで

排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

100573

■坂道に駐車するときは

無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。安全のため次の処置をしてください。

①駐車ブレーキを充分にかけ、車が動き出さないことを確認します。

☆5−8ページ参照

②セレクトレバーを[P]に入れます。

③輪止め（石やタイヤストッパー）をします。

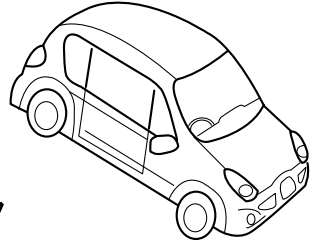
なお、急な坂での駐車は避けてください。

101035

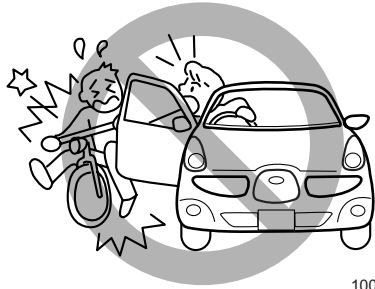
■車の移動はエンジンをかけて

必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンをかけないで坂道を利用した移動は、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

■車から離れるときは必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを切り、必ず施錠を

- 無人で車が動き出したり、車両盗難や貴重品盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまや介護が必要な方を車内に残したままにしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

100583

■いきなりドアを開けないで

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。後ろから車、オートバイ、自転車などがきている場合があり思わぬ事故につながるおそれがあります。

100584

■仮眠するときは必ずエンジンを止めて

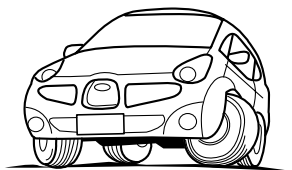
仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

100059

■雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

■ハンドルをいっぱいに切った状態を長く続けないで

車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。(5秒以上続けないでください。)ハンドル操作が重くなることがあります。

100585

SRSエアバッグシステムについて

■SRSエアバッグシステムとは

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

- 運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

＜運転席SRSエアバッグ＞

100061

＜助手席SRSエアバッグ＞

100062

■シートベルトは必ず着用して

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRS エアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☆2−28ページ参照

■お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは助手席側の後席のみ取り付け可能です。
- チャイルドシートを取り付けるときは、助手席の背当てを折りたたみ、シートを最前位置で固定してください。助手席が確実に固定されていることを確認してください。

☆2−22ページ参照

- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまには、スバル純正チャイルドシートを使用してください。
  スバル純正チャイルドシートの使用方法は付属の取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆1−7、2−36ページ参照

燃料補給時の注意

■指定燃料を必ずご使用ください

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 給油時に指定されている燃料であることを確認してください。

☆指定燃料の種類：1−7ページ参照

- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンや燃料系統部品を損傷するおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

■燃料補給時には次のことを必ずお守りください

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- 燃料給油時は火気厳禁です。
  タバコを吸うなどの火気を絶対に近づけないでください。引火して火災を引き起こすおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
- 燃料の取り扱いは屋外で行ってください。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
  キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がしたときは、その音が止まってからゆっくり開けてください。急に開けると給油口より燃料の吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作は必ずお一人で行ってください。
  給油口に他の人を近づけないでください。
- 給油するときは給油口に給油ガンのノズルを確実に挿入してください。
  ノズルを浮かしたり、浅く挿入し継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油中、ふたたび車内のシートに戻らないでください。（座ることで再帯電することがあります）
- 給油のときは、給油ガンが自動停止した時点でお止めください。気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料補給後はフューエルキャップを“カチッ、カチッ”と音がするまで右に回し、確実に締まっていることを確認してください。キャップが確実に締まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。
- 車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。
  こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。

■給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください

燃料の成分には、有害な物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

こんなことにも注意を

■AWD車は万能車ではありません

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

二輪駆動車に比べて滑りやすい路面、積雪路などではより安定した走行ができますが、急ブレーキ、急ハンドル時は差がありません。安全な速度で走行してください。

☆3－42ページ参照

■走行中は携帯電話を使わないで

法律により、自動車の運転者が走行中に携帯電話等を手で保持して通話したり、メールの送受信等のために画面を注視することは禁止されています。

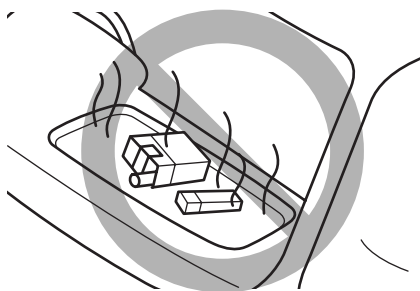
100237

■アクセサリーの取り付けに注意

ウインドゥにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、助手席SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

100238

■車内にガスライター、スプレー缶等を放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にガスライターやスプレー缶等を放置しないでください。車室内が高温になるためライターやスプレー缶等が爆発するおそれがあります。

100239

■排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずスバル販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

100586

■リヤゲートを確認して

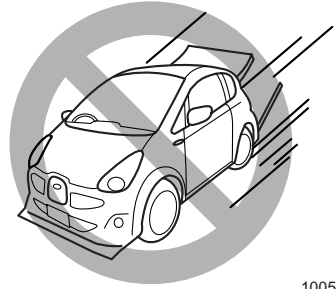
リヤゲートが閉まっていることを確認してください。確実に閉まっていないまま走行すると排気ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

■ラジエターが熱いときキャップを外さないで

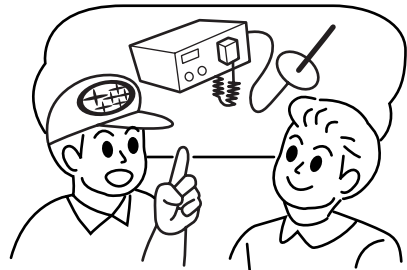
ラジエターやリザーバータンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。

100588

■不正改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。火災など思わぬ事故につながることがあります。
- スバルが国土交通省に届け出をした部品以外のものを取り付けると不正改造になることがあります。スバル販売店にご相談ください。（タイヤ、ホイール、マフラーなど）

100587

■電装品、無線機を取り付けるときには

取り付け、取り扱いを誤ったり、スバル純正以外の部品を使用すると、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
スバル販売店にご相談ください。

100069

■純正部品をお奨めします

- マフラー、エアクリーナーエレメント、オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合があるばかりか、故障の原因になることもあります。例えば、マフラーやエアクリーナーエレメントの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。
- 詳しくは「保証書・メンテナンスノート」をご覧ください。

100070

■点検整備をするときは

- スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ね備えております。お客様が安心してお車をお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検を行うときは、エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分ご注意ください。思わぬけがをすることがあります。
- AWD車でエンジンを回したまま点検を行うときは、車が動かないようにするため、必ず4輪ジャッキアップ、または4輪ローラー上で行い、空吹かしや急制動はしないでください。

保証書・メンテナンスノートについて

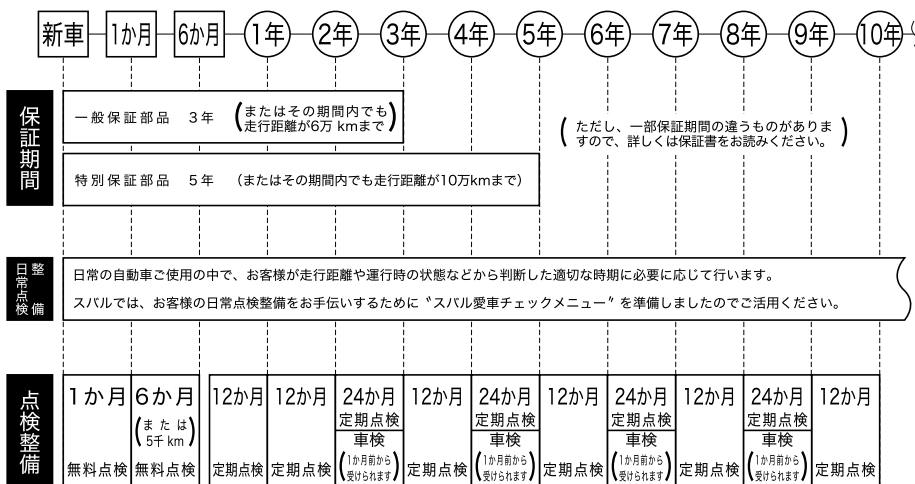
別冊の「メンテナンスノート」には、保証の内容および点検・整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

■保証について

保証書には、万一故障が起きたときに無料で修理が受けられる条件や範囲が記載してあります。
一度お読みになり、条件や範囲などについてご確認ください。

■点検・整備について

- 法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。
- メンテナンスノートには点検・整備の時期ややりかたなどが記載してあります。
よく読んで必ず行ってください。
- 日常点検整備や他の点検整備を行ったときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入しておいてください。
- 納車してから1か月後および6か月後
（ただし、6か月以内に走行距離が5千 kmを超える場合は5千 km時点）に新車時点検を無料で実施しております。

保証期間と点検整備時期

環境にやさしい運転

■環境にやさしい運転をするには

常にタイヤの空気圧を適正にしましょう。

走行する前に、不必要な荷物は降ろしましょう。

長時間停車するときは、エンジンを止めましょう。

空吹かしはやめましょう。

エアコンの使用は、少し控えましょう。

発進や加速はスムーズにしましょう。

経済速度で走行しましょう。

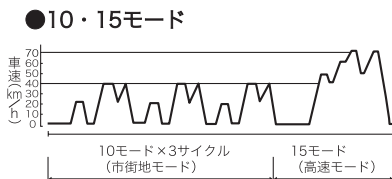
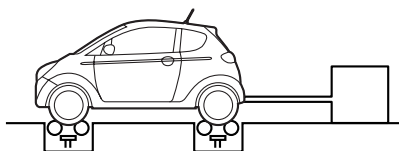
- 一般道路や有料道路では、法定速度で走行すると燃費が良くなります。
- 下り坂や減速時には、エンジンブレーキを使いましょう。燃料噴射が停止し、燃費向上につながります。

アドバイス

10・15モード燃費とは

車両カタログに記載されている「10・15モード燃費」とは、一定条件にしたがって測定した燃費です。
このモードは、市街地モード（10モード）と高速モード（15モード）の２パターンを測定したものです。
測定方法は、10の走行パターンを想定したテスト（市街地モード）を3回行い、続けて15の走行パターン（高速モード）を想定したテストを1回行います。

平均速度：約23 km/h
走行距離：約4.2 km

この測定は実走行ではなく、測定装置（シャシーダイナモメーター）上に車両をのせて行います。

100639

100645

「10・15モード燃費」は、都市内走行状態を想定して測定したもので、実際の走行とは異なる場合が多くあります。
例えば、天候や路面、車両重量、運転等に応じて燃費が異なります。

2 運 転 す る 前 に

各部の開閉

シート

シートベルト

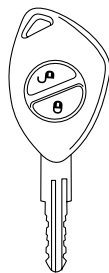
SRSエアバッグシステム

ミラーの調整

各部の開閉

キー

キーはドアの施錠、解錠、エンジンの始動、停止に使います。

- リモコンキーを使うと、ドアやリヤゲートの施錠、解錠がボタンで操作できます。
- キーナンバーは盗難防止のため、キーナンバープレートに打刻してあります。

アドバイス

- キーナンバープレートは、合いかぎを作る際に必要となりますので、大切に保管してください。
- 盗難防止のため、キーナンバープレートは車内に置かないでください。
- 万一に備えてキーナンバーをメモしておいてください。
- キーを作るときは、スバル販売店にご相談ください。
- 万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、直ちにスバル販売店にご相談ください。

ドア

■ドアの開閉

ドアを開けるときは、ドアハンドルを引き上げ、手前に引きます。
ドアを閉めるときは、確実に閉め、半ドアになっていないことを確認してください。

⚠ 注 意

- ドアを開けるときは周囲の安全を充分に確認してください。不用意に開けると後続車、自転車、オートバイなどにぶつかることがあり危険です。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは開くことがあり危険です。
- ドアを閉めるときは、指や手を挟まないように注意してください。

アドバイス

- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、ドアを施錠する前にキーを持っていることを確認してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- 以下の状態でドアを開けるとブザーが鳴ります。
  - キーを差したままのとき
  - ライトが点灯したままのとき

  ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

☆3－4、3－6ページ参照

- 乗車中の施錠、解錠については次のような特徴がありますので選択しご使用ください。

施錠している場合

- お子さまなどの同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- 停車時、車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- シートベルトの着用と併せ、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

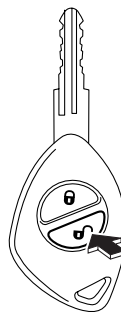
解錠している場合

- 万一の事故の場合、車外からの救援活動が受けやすくなります。

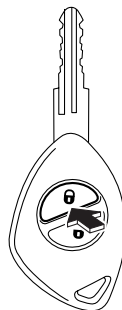
■電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠

電波により、車から離れたところ（約１ｍ）から全ドア（リヤゲートを含む）の施錠・解錠ができます。

●解錠

車のまわりからリモコンキーの🔓ボタンを押すと全てのドア（リヤゲートを含む）が解錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

200022

●施錠

車のまわりからリモコンキーの ボタンを押すと全てのドア（リヤゲートを含む）が施錠します。このとき非常点滅灯（ハザードランプ）が1回点滅します。

200023

> **アドバイス**
>
> 車から離れるときは、ドアハンドルを引き、半ドアになっていないことを確認してください。

●非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅の解除

解錠時や施錠時に点滅する非常点滅灯を作動しないようにすることができます。
スバル販売店でキャンセルすることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
☆1－2ページ参照

●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。
スバル販売店で自動施錠の秒数の設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
☆1－2ページ参照

●ルームランプ連動

ルームランプスイッチがDOOR位置にあるとき、リモコンにより解錠またはドアの開閉を行うとルームランプが約30秒間点灯し、徐々に消灯します。
点灯中以下の操作をするとルームランプは徐々に消灯します。

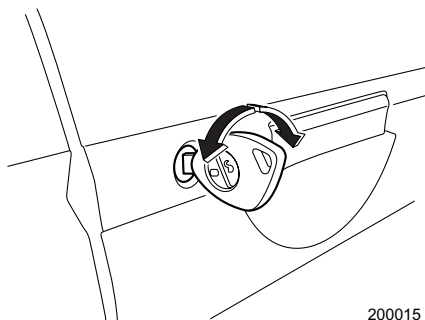
- リモコンの ボタンを押して、ドアを施錠した場合
- エンジンスイッチにキーを差し込んだ場合

スバル販売店でルームランプ連動の条件の設定を変えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
☆1－2、4－38ページ参照

アドバイス

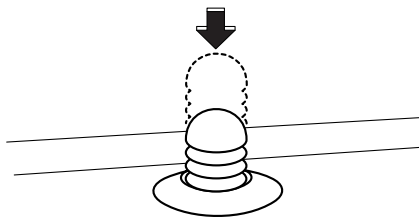
- リモコンキーは車の周囲約1m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV 塔や発電所、放送局、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき、ドアもしくはリヤゲートが開いているときまたは半ドアの場合、作動しません。
- リモコンキーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ダッシュボードの上など直射日光が当たり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
  - 強い衝撃を与えないでください。
  - 電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショートおよび⊕、⊖の方向に注意してください。
  - 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、充分に乾かしてください。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。
- リモコンキーを紛失した場合は盗難などを防ぐため、リモコンの再登録をお奨めします。リモコンの再登録をするときはスバル販売店にご相談ください。

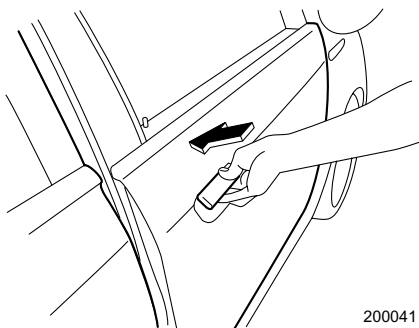
■車外からキーによる施錠・解錠

キーを確実に差し込んで車の後ろ側に回すと施錠され、前側に回すと解錠されます。

200015

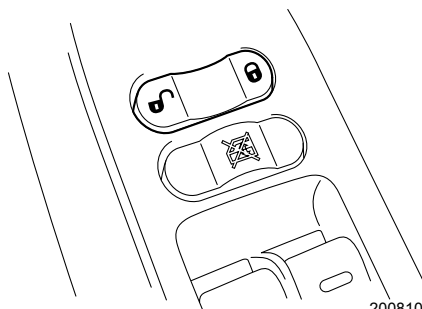
車外から施錠・解錠できるのは運転席ドアだけです。

■キーを使わない車外からの施錠

①ドアを開けドアロックノブを下げます。

200036

②ドアハンドルを引き上げたままドアを閉めます。

200041

■車内から集中ドアロックによる施錠・解錠

運転席ドアの集中ドアロックスイッチの🔒側を押すと全てのドアが施錠されます。🔓側を押すと全てのドアが解錠されます。
リヤゲートも同時に施錠・解錠されます。

200810

⚠ 注 意

ドアロックノブで運転席ドアを施錠または解錠しただけでは集中ドアロックは作動しません。必ず集中ドアロックスイッチで施錠または解錠してください。

●キー閉じ込み防止機能

エンジンスイッチにキーが差し込まれている場合、ドアを施錠しないように働き、キーが車内に残したままになることを防止する機能です。
この機能の初期設定は非作動となっております。スバル販売店にて作動を切り替えることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
☆1−2ページ参照

▼キー閉じ込み防止機能が作動するとき

- ドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチの側を押した場合、キー閉じ込み防止機能が作動します。

▼キー閉じ込み防止機能が作動しないとき

- ドアロックノブで施錠し、ドアを閉めたとき、機能は作動せず施錠されます。
- 車外から合いかぎを使い施錠した場合、機能は作動せず施錠されます。

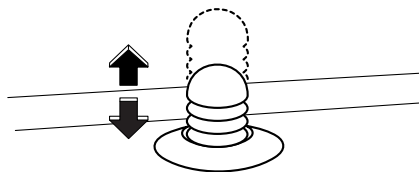
車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■車内からドアロックノブによる施錠・解錠

ドアロックノブを下げると施錠され、上げると解錠します。

200510

運転する前に

パワーウインドゥ

パワーウインドゥは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。このとき運転席ウインドゥの作動表示灯が点灯します。
運転席ウインドゥスイッチの作動表示灯が点滅しているときパワーウインドゥの初期設定をしてください。
☆2－10ページ参照

■スイッチの操作

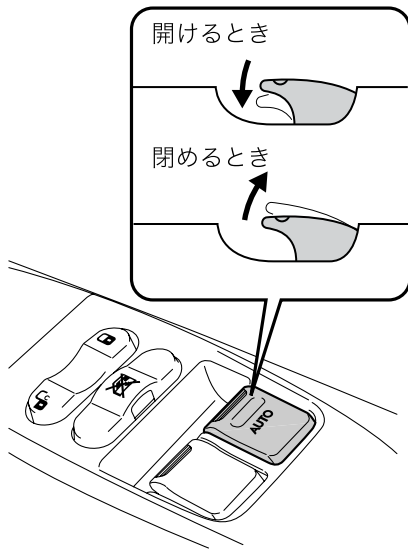
●運転席ウインドゥの開閉操作方法

スイッチを軽く操作している間、作動します。強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

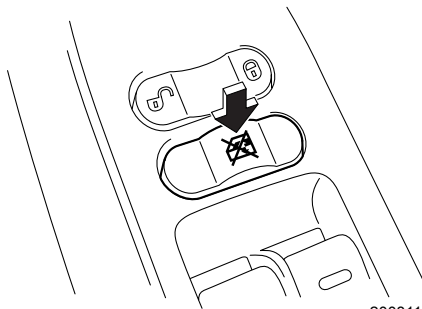
アドバイス

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドゥの初期設定をしてください。
初期設定がされないと運転席ウインドゥは自動で全開（全閉）しません。
☆2－10ページ参照

開けるとき：
- スイッチを軽く押します。押している間ウインドゥが下降します。
- スイッチを強く押すと自動で全開になります。途中でウインドゥの下降を停止させるときは、スイッチを軽く引き上げます。

閉めるとき：
- スイッチを軽く引き上げます。引き上げている間ウインドゥが上昇します。
- スイッチを強く引き上げると自動で全閉になります。途中でウインドゥの上昇を停止させるときは、スイッチを軽く押します。

201332

●**ロックスイッチの操作方法**

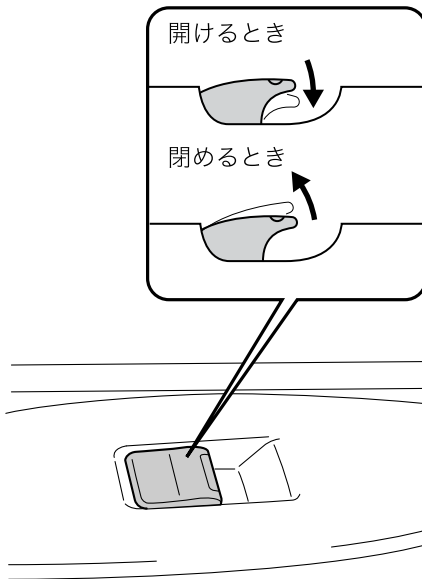
ロックスイッチを押すと助手席のウインドゥは開閉できなくなります。
もう一度スイッチを押すとロックは解除されます。

200811

●**助手席ウインドゥの操作方法**

スイッチを操作している間作動します。

開けるとき：スイッチを押します。
閉めるとき：スイッチを引き上げます。

201333

■ウインドゥ反転機能

運転席のウインドゥが自動全閉中、窓枠とウインドゥとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインドゥの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

⚠ 注 意

- ウインドゥを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないように注意してください。
- ウインドゥ反転機能は自動全閉時のみ作動します。
  スイッチを引き続けた状態では作動しません。指など挟まないように注意してください。

アドバイス

- 環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドゥに加わるとウインドゥ反転機能が作動することがあります。
- 故障などでウインドゥ反転機能が作動してしまい運転席ウインドゥを閉めることができない場合、スイッチを引き続けると閉めることができます。
- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドゥの初期設定をしてください。
  初期設定がされないと、ウインドゥ反転機能が作動しません。

■パワーウインドゥの初期設定

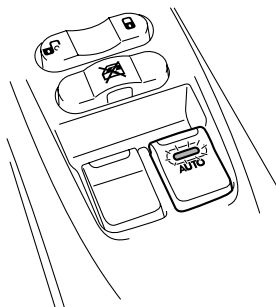
バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドゥの初期設定を行ってください。パワーウインドゥの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

- 運転席ウインドゥの自動全開（全閉）

☆2－8ページ参照

- ウインドゥ反転機能

このとき運転席ウインドゥスイッチの作動表示灯が点滅します。

AUTO

200742

●初期設定のしかた

①ドアを閉め、エンジンスイッチをONにします。
②運転席ウインドゥスイッチを下に押し、半分くらいまでウインドゥを開けます。
③運転席ウインドゥスイッチを上に引き続け、ウインドゥを全閉にします。全閉後、約1秒間スイッチを上に引き続けてください。

初期設定が完了すると作動表示灯が点滅から点灯に切り替わります。

⚠ 警 告

- パワーウインドゥが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには操作させないでください。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロックにしておいてください。お子さまがウインドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

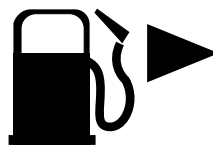
☆2−9ページ参照

⚠ 注 意

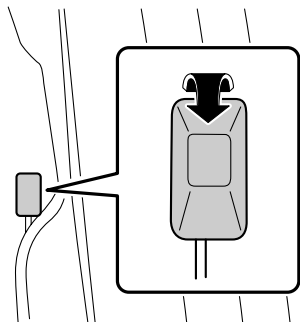
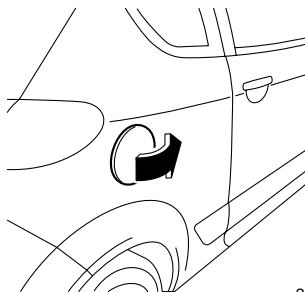
ウインドゥの全閉、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因になります。

フューエルリッド（燃料補給口）

メーターの燃料計にフューエルリッド（燃料補給口）が右側にあることをお知らせする表示があります。

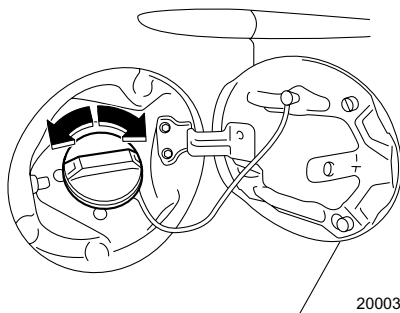
- 使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
- タンク容量：約30ℓ

200115

■フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

開けるときは、運転席右下にあるフューエルリッドオープナーレバーを引きます。

201153

200521

閉めるときは、ロックするまでフューエルリッド（燃料補給口）を手で押し付けてください。

■フューエルキャップの開閉

開けるときは、フューエルキャップを左に回します。燃料補給後、閉めるときは、「カチッ、カチッ」と２回以上音がするまで右に回します。

200030

⚠ 警 告

燃料補給時には必ず次のことをお守りください。

- ガソリンは非常に着火しやすいため、燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- エンジンは必ず止めてください。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。
- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップは車に合ったスバル純正品を使用してください。

☆1－25ページ参照

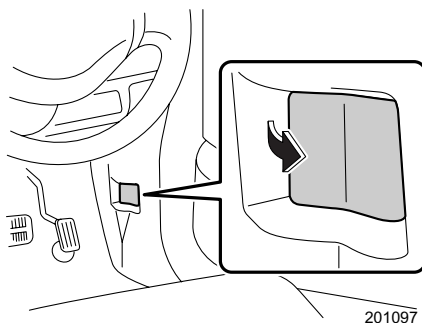
⚠ **注 意**

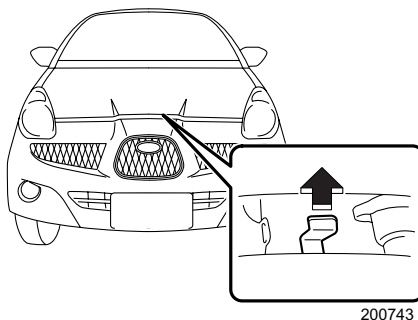
セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点でお止めください。

ボンネット

■開けるとき

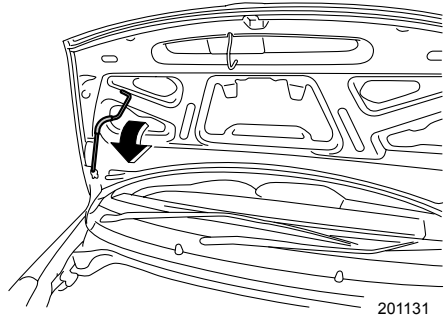
① ボンネットのオープナーレバーを引きます。レバーは運転席側のインストルメントパネル右下にあります。

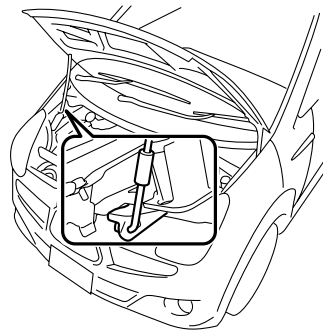
201097

② フロントグリルとボンネットのすき間からレバーを上に引き上げてロックを外し、ボンネットを開けます。

200743

次ページへ ⇒

⇒前ページより

③ ボンネットの裏にあるステーをホルダーから外します。

201131

④ ステーをフェンダー横のストッパー穴に入れ、確実に固定します。

200744

■閉めるとき

ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボディ近くなったら（約15 cm）手を離します。

⚠ 注 意

ボンネットを開閉するとき

- 走行後すぐに開けるときには、部品が熱くなっているので、やけどをしないように注意してください。
- ボディ近くまで降ろして手を離す際には指や他の物を挟まないよう充分注意してください。
- 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。
  確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。
- 風の強いときには充分注意して開けてください。突然ステーが外れて閉まることがあります。

アドバイス

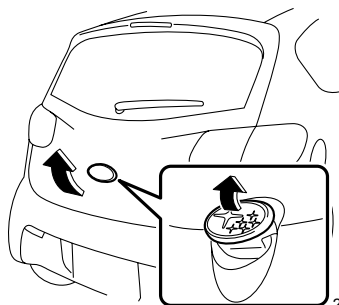
ボンネットを開けるときには
ワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。

ボンネットを閉めるときには
ボンネットを上から強く押しつけないでください。ボンネットがへこむことがあります。

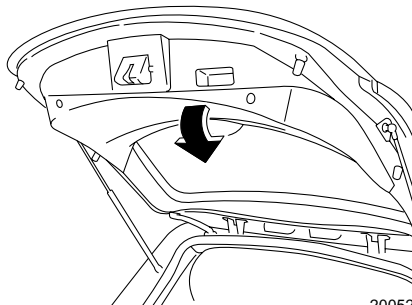
リヤゲート

リモコンキー、または集中ドアロックスイッチにて施錠、解錠ができます。

■開けるとき

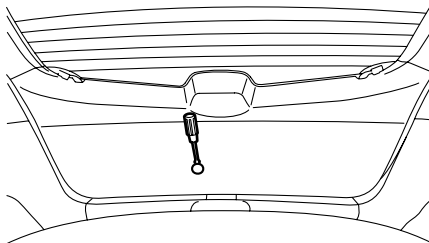
アウターハンドルを引いてリヤゲートを少し開けます。手で支えながらゆっくりと最上部（全開位置）まで持ち上げます。

200522

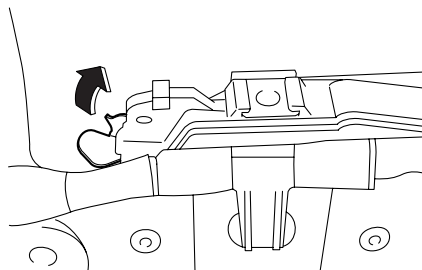
■閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえつけるように閉めます。
半ドアでないことを確かめます。

200523

■リヤゲートの解錠ができなくなったとき

万一、バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障等でリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から解錠することができます。

①リヤゲートトリムのキャップを細いマイナスドライバーなどを使って外します。

200780

②レバーを矢印の方向に動かします。

200779

③車外からリヤゲートを開けます。

⚠ 注意

- 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
- 走行前リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。
- 走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（とくにお子さまには気をつけてください）や荷物を挟まないように注意してください。
- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。
- リヤゲートを支えているガスステー部に薄いビニール袋、テープ等が噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。

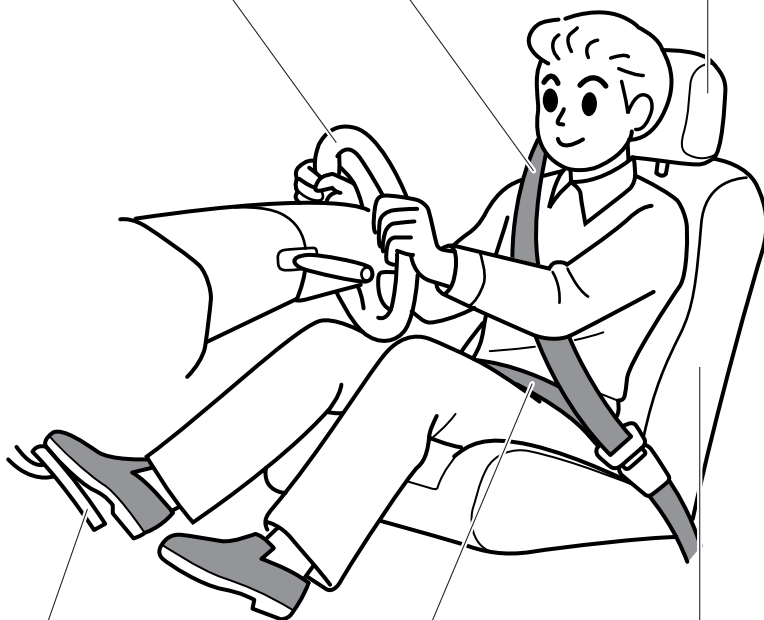
アドバイス

リヤゲートを開閉するとき

- アウターハンドルを操作するときは、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開けてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

シート

正しい運転姿勢

無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシートを調整します。ミラーも調整します。そしてシートベルトを正しく装着します。

⚠ 警告

シートなどの調整は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- シート調整は必ず走行を始める前にしてください。とくに運転席は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったり、運転への注意がそれ、運転ミスなどを起こし、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
- シートを調整した後はシートを軽くゆさぶり「確実に固定されていること」を確かめてください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が充分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて背当てを必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当てと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレストを外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

⚠ 注意

シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。挟まれたり、荷物を損傷したりすることがあります。

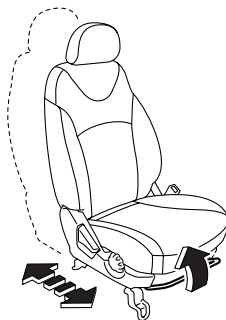
アドバイス

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）やフロアマットの汚れ防止フィルムは必ず取り外してから使用してください。

フロントシート

シートのドア側と下部のレバーとダイヤル操作で調整ができます。

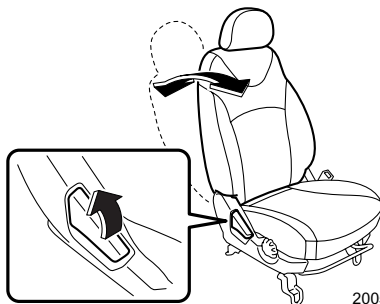
●スライド調整（前後の調整）

前席下部のレバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

200524

⚠ 注 意

後方にスライドする際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

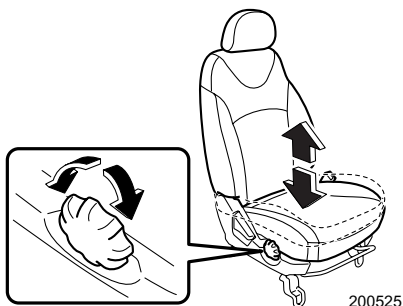
●リクライニング調整（背当て角度の調整）

シートのドア側レバーを完全に引き上げた状態で背当ての角度を調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

200526

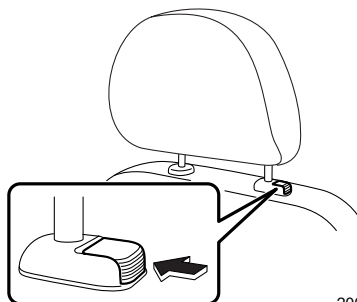
⚠ 注 意

調整する際には、レバーとレバーカバー内に指を挟まないよう気をつけてください。

●上下調整（運転席のみ）

ダイヤルを前側に回すとシートクッションが下がり、ダイヤルを後ろ側に回すとシートクッションが上がります。

200525

■ヘッドレストの高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押した状態で押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押した状態で引き抜きます。

200514

⚠ 警 告

運転するときには

ヘッドレストを確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。
ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。

アドバイス

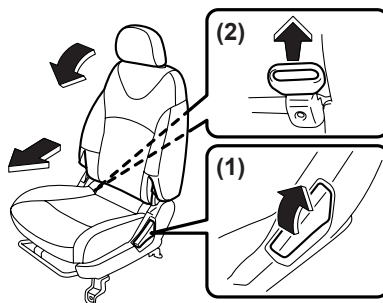
ヘッドレストが屋根に当たって取り外しにくいときは、背当てを倒すと取り外せます。

■ウォークイン機構

後席への乗り降りをしやすくする装置です。
背当てを倒し、助手席シート全体を前へ移動させて乗降できます。

●前方に動かすとき

- 乗り込むときは、ドア側レバー（1）を引き上げます。
- 降りるときは、プルハンドル（2）を引きます。

背当てが前方に倒れ、シート全体が前にスライドします。

200773

> ⚠ 注 意
>
> 操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足をはさまないように十分注意してください。

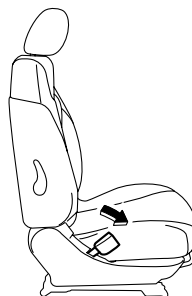
●元に戻すとき

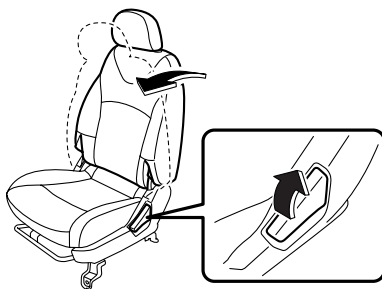
背当てを起こし、シートを後方に移動すると一定の位置に固定されます。背当てを倒したままではシートが固定されず前方に戻ってしまいます。必ずシートが固定されていることを確認してください。

■助手席マルチユーティリティシート（水平可倒機構）

助手席の背当てを前方に折りたたむことで、駐車中に小物を置くことができます。また、リヤシートの背当ても一緒に前方に倒すことで、長い荷物を積むことができます。

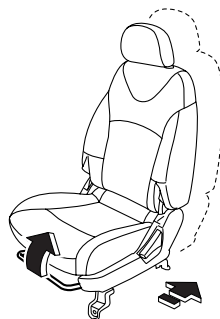
●背当てを折りたたむとき

① シートベルトのバックルを一番前に倒します。

200770

②ドア側レバーを引き上げた状態で、背当てを最前傾のロック位置に起こします。レバーを下ろし、ロックを確認します。

200796

アドバイス

背当てを最前傾のロック位置よりも前に倒してしまったとき（このとき前席下部のレバーを引き上げなくてもシート全体が前後にスライドします）、背当てをゆっくりと後方に起こして背当てが最初にロックする位置（最前傾のロック位置）まで戻します。

③前席下部のレバーを引き上げて、シートを後端付近まで動かします。

200797

④背当て側面のレバーを前に倒し、背当てを前に折りたたみます。

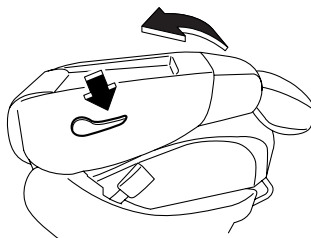
200771

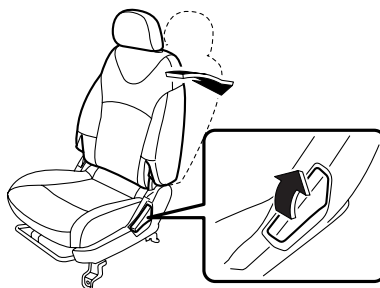
⑤シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確かめます。

アドバイス

このとき背当てを上下に軽くゆさぶると背当てが上下に少し動きますが、異常ではありません。

●元に戻すとき

①背当て側面のレバーを下に押しながら、背当てを起こしロックします。

200798

②ドア側レバーを引き上げた状態で、背当てをお好みの位置に調整します。

200799

⚠警告

- 折りたたんだ背当ての上に人を乗せて走行しないでください。ブレーキをかけたときや衝突のときなどに、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 背当てを折りたたんで荷物を運ぶときは、荷物を確実に固定してください。ブレーキをかけたときや衝突のときなどに、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

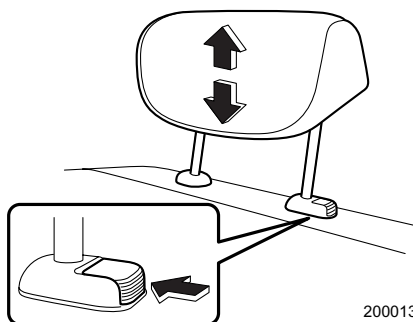
- 操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足をはさまないように充分注意してください。
- 背当てを折りたたむときは、シート上の荷物等をはさまないように注意してください。シートが損傷するおそれがあります。
- 背当てを折りたたんでいるときは、ドア側レバーやプルハンドルを操作しないでください。背当てのロックが外れて、背当てに載せた飲み物がこぼれたり、物が落下するおそれがあります。
- 折りたたんだ背当ての上に乗ったり、重いものを置くなどして無理な力をかけないでください。思わぬけがやシートを損傷するおそれがあります。

アドバイス

- 背当てを折りたたんだ状態では、ドア側レバーを引き上げても背当てを起こせません。背当てを起こすときには、「●元に戻すとき」で操作します。
- 背当てが最前傾のロック位置より後ろのロック位置にあるときには、背当て側面のレバーを操作しても水平に折りたためません。
- シート前後位置が前方にあるときには、背当て側面のレバーを操作してもヘッドレストがインストルメントパネルに当たり、背当てを折りたたんだり戻すことができません。
- 背当てを折りたたむときに誤ってプルハンドルを引いてしまった場合は、シート前後位置を後端付近まで戻し、背当てを最前傾のロック位置に戻してから、「●背当てを折りたたむとき」で操作してください。
- 背当てを折りたたむ前にシートベルトのバックルを前方に倒しておかないと、折りたたんだときシートにバックルの跡が残ることがあります。

リヤシート

■ピローの高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押した状態で押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押した状態で引き抜きます。

200013

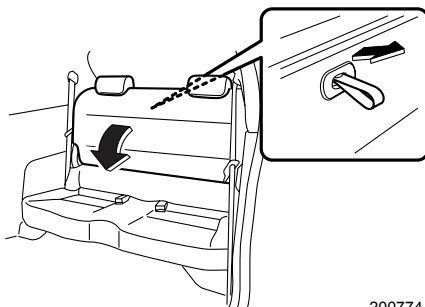
アドバイス

後部座席に乗員がいないときは、ピローを下げておくと視界を妨げません。

■荷室として使用するとき

リヤシートの背当てを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。

●背当てを倒すとき

背当ての後ろにあるバンドを引いて、背当てを前に倒します。
一番前に倒れた状態でロックします。

200774

●背当てを元に戻すとき

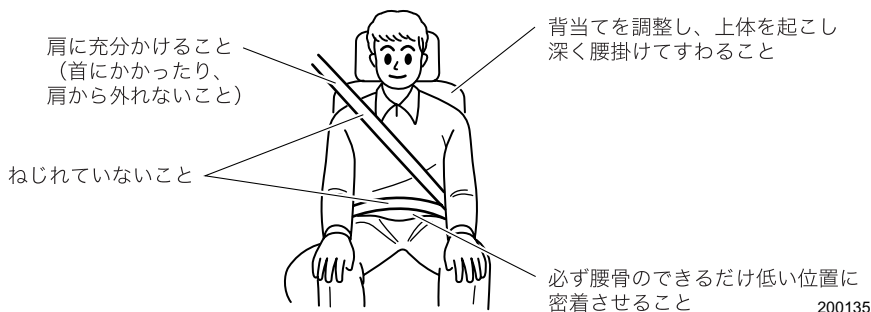
背当て後ろにあるバンドを引いたまま、背当てを起こし、確実にロックします。

⚠ 警告

- 背当てを倒して荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長いものをのせたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし重大な傷害を受けることがあります。
- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物が飛びだすなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトが背当てに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背当てに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルト

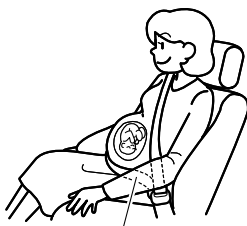
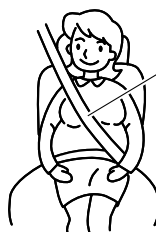
シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

⚠ 警 告

シートベルトの着用は、次の事項を必ずお守りください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかけてください。肩に充分にかかっていないと上半身が拘束されず充分な効果を発揮しません。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転姿勢」（2－18ページ）をご覧ください。
- シートの背当てを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるみをつけないでください。充分な効果を発揮しません。

⚠ 警告

- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用してください。局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。

201344

- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらなくなり、走行中に外れる場合があります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させてください。膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに充分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- 法律により6歳未満のお子さまを対象にチャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。
  6歳以上のお子さまでも、シートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるときには、スバル純正チャイルドシートを使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。
  スバル純正チャイルドシートの使用方法は付属の取扱説明書をご覧ください。

＜選択の目安＞

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重（目安）	9 kg以下	9～18 kg	18～36 kg
身長（目安）	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢（目安）	0か月～ 9か月頃まで	4か月～ 4歳頃まで	4歳～ 12歳頃まで

運転する前に

⚠ 警告

200364

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにチャイルドシート固定機構付シートベルトの場合は、シートベルトに体を巻きつけたりして遊んでいるときに、誤ってチャイルドシート固定機構が作動すると、ベルトが引き出せなくなり、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。
  万一、誤ってチャイルドシート固定機構を作動させてしまい、シートベルトを外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。
- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に働かず、充分な効果を発揮しません。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしないでください。衝突などのとき充分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤はシートベルトを弱めるため絶対に使用しないでください。

⚠ 注意

炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持ってシートベルトを着用してください。シートベルトの金属部が熱くなっている場合があり、やけどにつながるおそれがあります。

フロントシートベルト

身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとするとベルトが自動的にロックします。
(ELR機構)

■3点式シートベルト

●着用のしかた

①タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。

200119

②ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。

201005

③正しい姿勢で腰掛け、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

200121

●外すとき

外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

アドバイス

- ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときは、ショルダーアジャスターでベルトの高さを調整します。

☆2−33ページ参照

- ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。
  それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■シートベルト警報

- エンジンスイッチが ON で運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。
- 運転席シートベルト未着用のまま車速約 25 km/h 以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。
  上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

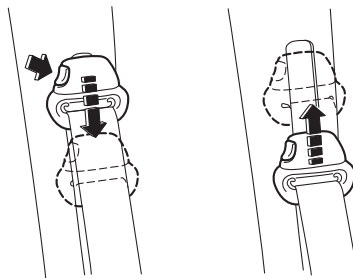
200122

アドバイス

このとき車速が約25 km/h以下になっても、上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

- 約 2 分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。
  警告灯は運転席シートベルトを着用するまで点灯します。

■シートベルトの高さ調整（ショルダーアジャスター）

① 上げるときはショルダーアジャスター本体を上に動かします。下げるときはボタンを押しながらショルダーアジャスターを動かして最適な位置を選びます。
② ショルダーアジャスターが固定されていることを確認します。

⚠ 警告

ショルダーアジャスターを調整するときは、次のことをお守りください。

守らないと衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に充分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認してください。

アドバイス

アジャスターが上がらない場合、ベルトが引き出せず固定された状態になっている場合があります。ベルトが引き出せる状態にしてから、アジャスターを操作してください。
☆2−33ページ参照

■プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、前方向からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで前席乗員をシートに確実に固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。
運転席のプリテンショナーは肩ベルトと腰ベルトに、助手席のプリテンショナーは肩ベルトに装着されており、シートベルトを着用していなくても作動します。

運転席側

助手席側

⚠ 注 意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。

- シートを正しい位置に調整する。

☆2－18ページ参照

- シートベルトを正しく着用する。

次のような作業をするときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき

アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
  プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

リヤシートベルト

3点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

フロントシートベルトと同じ方法で着用します。
☆2−31ページ参照

■チャイルドシート固定機構付シートベルト

後席にチャイルドシート固定機構付シートベルトが組み込まれています。
チャイルドシート固定機構を作動させると引き出し方向にベルトが動かないようにできるため、チャイルドシート取り付け時に便利です。
〔ISO-FIX方式において、本車両用に認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）チャイルドシートを専用のISO-FIX固定バーおよびテザーアンカーに取り付ける場合には、2−36ページの「ISO-FIX固定バー および テザーアンカー」をご覧ください。〕

⚠ 警 告

チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
（詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください）

アドバイス

- シートベルトを全て引き出した後、ベルトを巻き取らせていくときにチャイルドシート固定機構が働き、作動音がします。この場合、ベルトの巻き取りのみ可能です。
- とくに、お子さまのいたずらなどに気をつけてください。

●チャイルドシート固定機構の使いかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

①チャイルドシート（別売／スバル純正ISO-FIX方式を除く）を取り付けます。
②チャイルドシートが取り付けにくい場合には、リヤシートのピローを取り外します。
③シートベルトを引き出し、チャイルドシートにシートベルトを通して、タングをバックルに確実に差し込みます。
④肩ベルトをゆっくりと全部引き出します。
（自動的にチャイルドシート固定機構が作動します。）
⑤チャイルドシートに体重をかけ、座席に充分しずみ込ませた状態で、腰ベルトのたるみがなくなるまで肩ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートを確実に固定させます。
⑥チャイルドシートをゆさぶり、固定されていることを確認します。

●チャイルドシート固定機構の解除のしかた

①バックルの“PRESS”ボタンを押して、シートベルトを外します。
②シートベルトを全部巻き取らせると、チャイルドシート固定機構が解除します。

ISO-FIX固定バー および テザーアンカー

助手席側の後席のみ、乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスバル純正ISO-FIXチャイルドシートを固定するための専用のISO-FIX固定バーの装着が可能です。詳しい取り付け方法は、スバル販売店にお問い合わせください。
また、ISO-FIXテザー式の幼児用（チャイルド）として、前向きで使用する場合のみに使用するテザーアンカーが装備されております。

- ISO-FIX方式において、この車両で認可を取得した乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスバル純正ISO-FIXチャイルドシートは、専用のISO-FIX固定バーを使用して確実に、また、容易に固定することができます。
- ISO-FIXテザー式の幼児用（チャイルド）として前向きで使用する場合には、テザーアンカーを使用してチャイルドシートの上側を確実に固定することができます。

■ISO-FIX固定バー

詳しくはスバル販売店にお問い合わせください。

■テザーアンカー（前向き取り付け時のみに使用）

助手席側の後席背当て後ろ側にテザーアンカーがあります。取り付けをされる場合は、スバル販売店でリヤシートの加工が必要となります。詳しくはスバル純正ベースシートセットの取扱説明書をご覧ください。

⚠警告

- チャイルドシートは必ず助手席側のリヤシートに取り付けてください。
- 前向きに取り付ける場合には、必ずISO-FIX固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ISO-FIXチャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
  シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けた時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- 前向きに取り付ける場合は、テザーベルトは必ず助手席側のリヤシート背当て後ろ側にあるテザーアンカーに固定してください。
  ISO-FIX固定バーには絶対に固定しないでください。

- ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向きに取り付ける場合には、テザーベルトを使用しないでください。
  （詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）

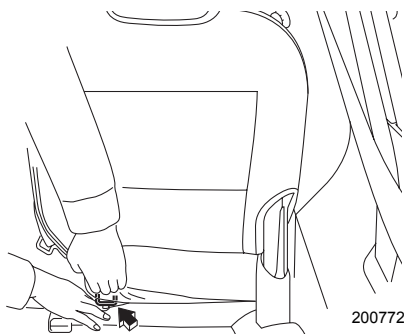
■スバル純正ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向き（乳児用）として使用する場合の取り付けかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO-FIX チャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

①助手席の背当てを折りたたみ、シートを最前位置で固定してください。助手席が確実に固定されていることを確認してください。

☆2−22ページ参照

②助手席側後席の背当てとシートクッションのすき間を少し広げ、ISO-FIX固定バーの位置を確認します。

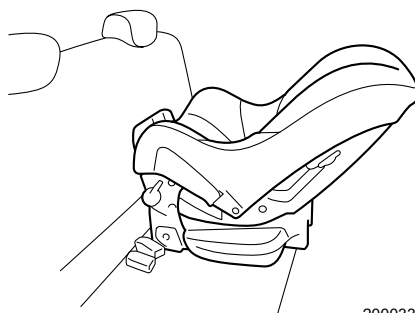
200772

③ベースシートをISO-FIX固定バーに確実に取り付けます。

④ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。

⑤ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を軽くゆさぶり、ISO-FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。

200033

R1 RJ1-017001～018400, RJ2-011001～011400

⚠ 警 告

- 助手席シートが確実にロックされていることを確認してください。
- ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を後ろ向きに取り付ける場合には、テザーベルトを使用しないでください。
- ISO-FIXチャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
  シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けた時に重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

■スバル純正ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を前向き（幼児用）として使用する場合の取り付けかた

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO-FIX チャイルドシート（テザー式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警 告

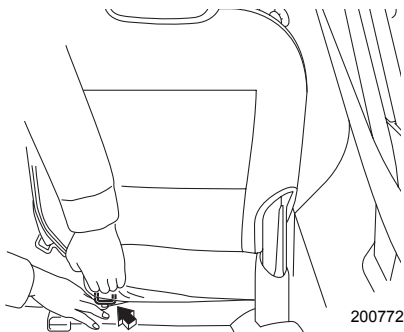
- 助手席シートが確実にロックされていることを確認してください。
- 前向きに取り付ける場合は、必ず ISO-FIX 固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合には、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
  （詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。）
- ISO-FIXチャイルドシートを取り付ける際は、固定専用のアンカー部およびベースシートのロック部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
  シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けた時に重大な傷害につながるおそれがあります。

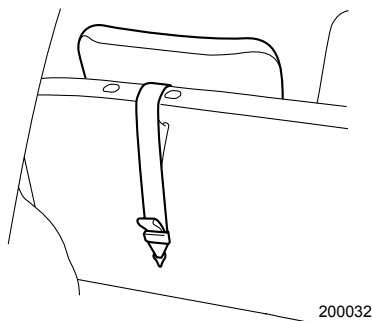
①助手席の背当てを折りたたみ、シートを最前位置で固定してください。助手席が確実に固定されていることを確認してください。

☆2－22ページ参照

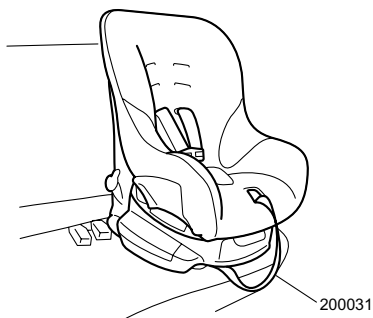
②助手席側のリヤシートのピローを取り外します。

③助手席側後席の背当てとシートクッションのすき間を少し広げ、ISO-FIX固定バーの位置を確認します。

200772

④ベースシートをISO-FIX固定バーに確実に取り付けます。
⑤ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）をベースシートに確実に取り付けます。
⑥ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）を軽くゆさぶり、ISO-FIX固定バーに確実に固定されていることを確認します。
⑦ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトをテザーアンカーに確実に引っかけます。
⑧ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトがピンと張る（5 kg程度）まで強く引っ張って、チャイルドシートの上側を確実に固定します。

200032

⑨ISO-FIXチャイルドシート（テザー式）のテザーベルトを軽く引っ張り、テザーアンカーに確実に固定されていることを確認します。

200031

⚠ 注 意

チャイルドシートを取り付ける際に、手を挟まないよう、気をつけてください。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。
全てのSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

- 運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

■シートベルトは必ず正しく着用してください

⚠ 警 告

- SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
  シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバックシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2−28ページ参照

- 正しい乗車姿勢になるようシート位置を調整してください。不適切な乗車姿勢ではSRSエアバッグシステムの効果を発揮させることができず命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2−18ページ参照

■乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください

⚠ 警 告

膝の上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せるときには、次の事項をお守りください

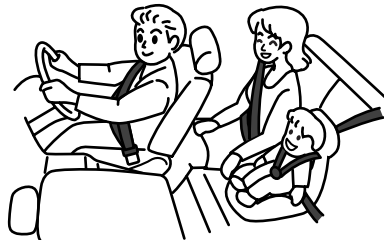
⚠ 警告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとってもっとも安全な乗車位置です。
- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しないでください。

200366

- 法律により 6 歳未満のお子さまを対象にチャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。6歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないときには、スバル純正チャイルドシートを使用してください。スバル純正チャイルドシートの使用方法は付属の取扱説明書をご覧ください。

100234

- チャイルドシートは助手席側の後席のみ取り付け可能です。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
  SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。チャイルドシートをお使いになるときは、必ず助手席側の後席に取り付けてください。

200509

■運転席SRSエアバッグ

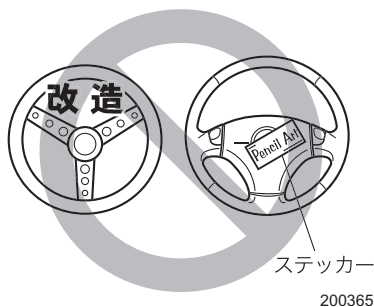
ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

200123

■運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警 告

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- ハンドルのSRSエアバッグ格納部に手を置いたり、パッド部を強打したり衝撃を加えたりしないでください。また、顔や胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200365

■助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。
助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。

200124

■助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

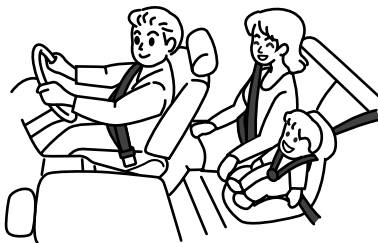
⚠ 警 告

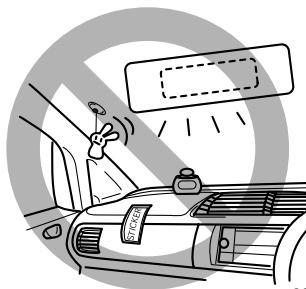
- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。
- 6歳未満のお子さまはスバル純正チャイルドシート（別売）をご使用ください。6歳以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシートを使用してください。

200366

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
  チャイルドシートをお使いになるときは、必ず助手席側の後席に取り付けてください。
  なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は付属の取扱説明書をご覧ください。

200509

- インストルメントパネルの上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

200515

- インストルメントパネル上面近くにテレビやナビゲーションシステムを取り付ける場合、スバル販売店にご相談ください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

⚠ 警告

- 運転席、助手席SRSエアバッグが展開すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。
  排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。

アドバイス

- 運転席、助手席SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。
- SRSエアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRS エアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
  ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、できるだけ早く水で洗い流してください。皮ふの弱い方などは、まれに皮ふを刺激する場合があります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用はできません。スバル販売店で交換してください。

■運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで、吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。
したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

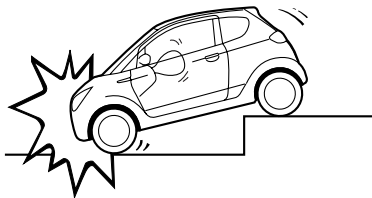
●作動するとき

- 次のようなときに作動します

20～30 km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき

200527

- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります

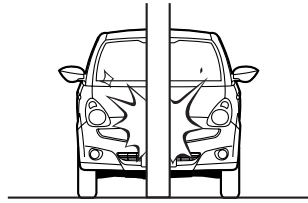
深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき

200528

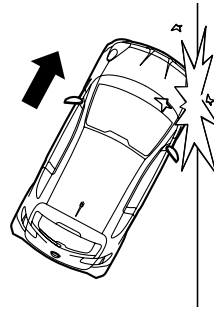
縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき

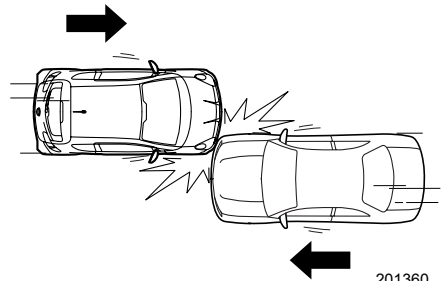
200529

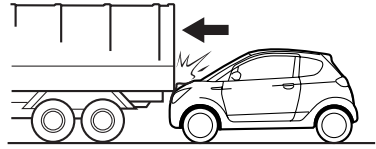
●作動しにくいとき

- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき

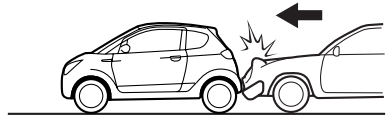
電柱などに衝突したとき

200533

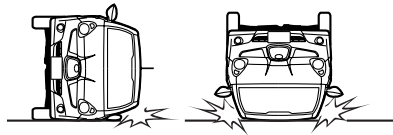
斜め前方への衝突のとき

200781

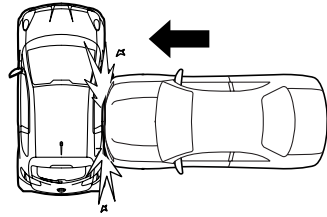
片側衝突（オフセット衝突）のとき

201360

トラックの荷台にもぐり込んだとき

200530

- 次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもありますが、本来の効果は発揮されません

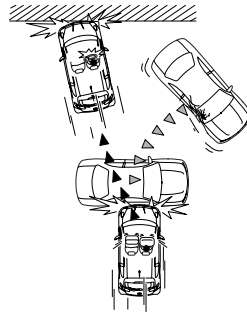
後ろから衝突されたとき

200531

横転や転覆したとき

200534

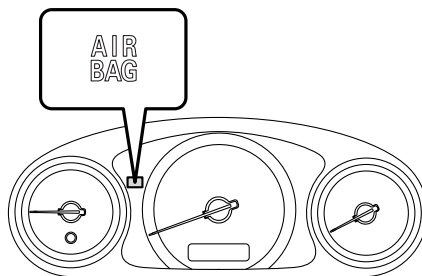
横方向から衝突されたとき

200782

●作動しない時

- 次のようなときは作動しません

一度SRSエアバッグが作動した後の衝突

200783

SRSエアバッグ警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。
SRS エアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトシステムに異常があると点灯します。

200537

⚠ 警 告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

アドバイス

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバックが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください

⚠ 警 告

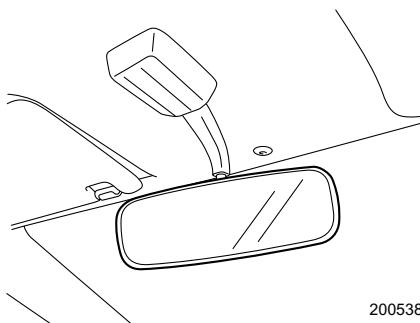
- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  これらの作業が必要なときは必ずスバル販売店にご相談ください。
- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。
  車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドル廻りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステムの交換をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車体前面（車体側面）の板金塗装および修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグが格納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずスバル販売店で交換してください。
  衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。
  無線機の電波などは SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

R1 RJ1-017001～018400,RJ2-011001～011400

ミラーの調整

ルームミラー

■ルームミラー

ミラー本体を動かして後方が充分確認できるように調整します。

200538

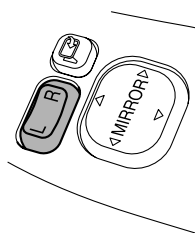
⚠ 注 意

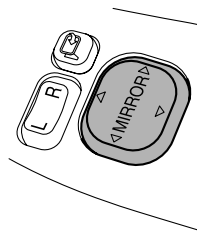
調整は必ず走行前に行ってください。

ドアミラー

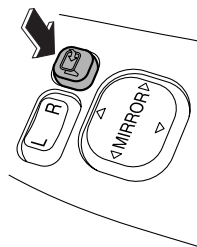
■電動リモコンドアミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、ミラーの調整ができます。

①調整するミラーを選びます。
　左右切り替えスイッチを押して選びます。
　「L」：左側ミラー、「R」：右側ミラー

200539

②「角度調整スイッチ」を上下左右に動かして
後方が充分確認できる位置に調整します。

200541

■電動格納式ミラー

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、左右のミラーを同時に格納できます。
スイッチを押しこむと格納します。
もう一度押すと元に戻ります。

200540

アドバイス

- 寒いときには、作動の途中で止まることがあります。もう一度スイッチを押してください。スイッチの操作で動かないときには、ドアミラーを手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して「格納⇔元に戻す」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。
- 格納状態から手動で元に戻すとドアミラーがグラグラすることがあります。必ず電動で元に戻してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてから電動で元に戻してください。

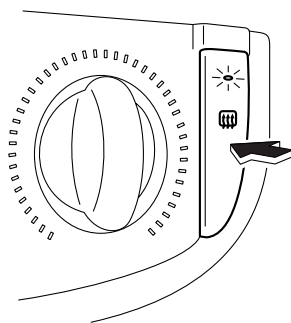
■ヒーテッドドアミラー

エンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの右横にあります。

ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使います。リヤウインドゥデフォッガーに連動して作動します。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯します。
  スイッチを押してから約 15 分で自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときはスイッチをもう一度押します。

☆3－14ページ参照

300908

アドバイス

消費電力が大きいので長時間の使用、または雪などを溶かすような使いかたは避けてください。

3 運転するとき

スイッチの使いかた

メーター、表示灯、警告灯の見かた

運転装置の使いかた

i-CVT車の運転

AWD車の運転

ブレーキ

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

■各位置の働き

300109

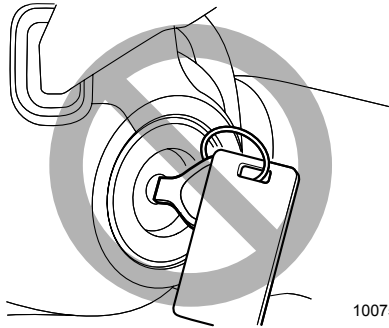
LOCK （ロック）	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます。
Acc （アクセサリー）	エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、電源ソケット
ON （オン）	エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます。
START （スタート）	エンジンを始動する位置

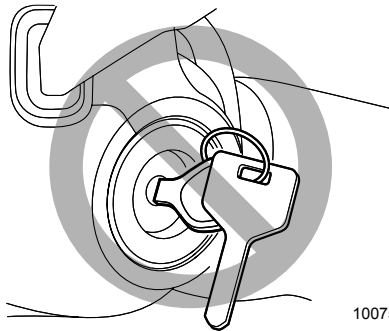
⚠ 警 告

走行中 LOCK にしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。
  大型のキーホルダーをキーに付けないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けないでください。また、重いものをキーに付けないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

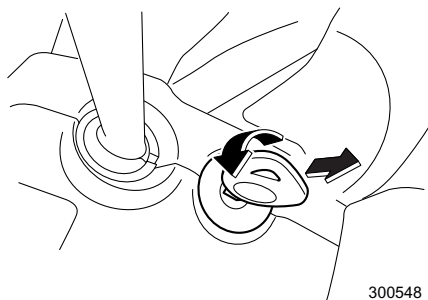
キーグリップにキーホルダーやアクセサリーがかさなっているとき

100758

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

100759

アドバイス

- エンジンを止めているときスイッチをLOCKにしてください。
  長時間ONにしたり、Accにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーが LOCK から Acc に回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

i-CVT 車は、セレクトレバーを P にしてキーをLOCKに回してください。

300548

アドバイス

- i-CVT 車でキーが抜けないときは、システムの故障が考えられますので、スバル販売店にご連絡ください。
- ルームランプをDOOR位置にしている場合、キーを抜くと一旦点灯し、徐々に消灯します。

☆4－38ページ参照

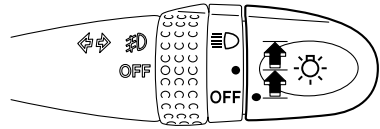
■キー抜き忘れ警報

キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。
ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。

アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

ライティングスイッチ

ハンドルの右側のレバーがライティングスイッチです。
レバー内のスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。

300018

スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯
OFF	消灯	
●	消灯	点灯
≣D	点灯	

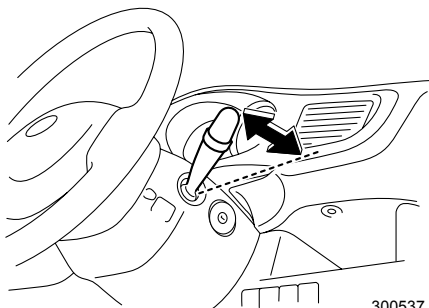
⚠ 注 意

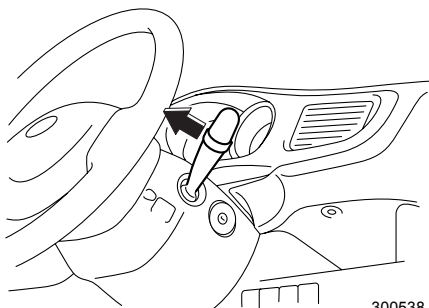
エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。
バッテリー上がりを起こします。

アドバイス

エンジンスイッチをLOCK、あるいはキーを抜いているときでも、ライト類を点灯させることができます。

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押すと上向きになります。
元に戻すと下向きになります。

■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引いている間、ヘッドランプは上向きになります。
ライティングスイッチがOFFでも使えます。

■ライト消し忘れ警報

キーを抜いたとき、ライティングスイッチが●または≣Dのまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。

アドバイス

この状態でキーをエンジンスイッチに差したままのときは、キー抜き忘れ警報が優先されます。
☆3－4ページ参照

オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）

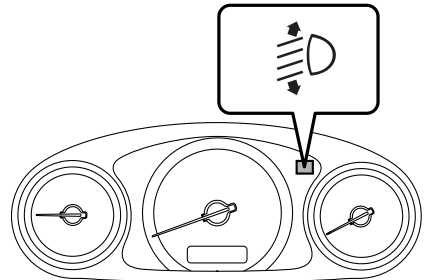
ヘッドランプにHID（高輝度放電式ランプ）が装着されている車には、自動光軸調整機構がついています。
HIDランプは従来のヘッドランプに比べて大変明るいため、照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者及び積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。

⚠ 警 告

HID バルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。バルブの脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

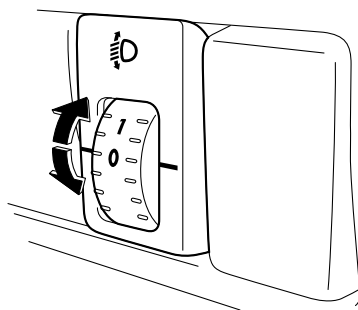
⚠ 注 意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- HIDバルブは、点灯、消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。信号待ちなど短時間の場合は、点灯したままの方がバルブが長持ちします。
- バルブが切れかかると、一般の蛍光灯と同じように、著しく明るさが低下したり、点滅したり、赤味を帯びた色になることがあります。そのような現象が現れるときは、スバル販売店にご相談ください。
- HIDランプは点灯するとき、安定するまでに若干明るさや色が変化することがあります。
- HIDランプは、発熱量が少ないため雪道走行の際、レンズ面に積もった雪が溶けにくい特性があります。雪を落として走行してください。

光軸調整ダイヤル

ヘッドランプにハロゲンバルブが装着されている車には、光軸調整機構がついています。エンジンスイッチがONのとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプが照らす向きは下側になります。
- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にしてダイヤル位置を調整してください。

300741

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは２名	０名	無
1	２名	２名	無
2	２名	２名	有※
	１名	０名	有※
3	―	―	―

※荷室満載にした場合

アドバイス

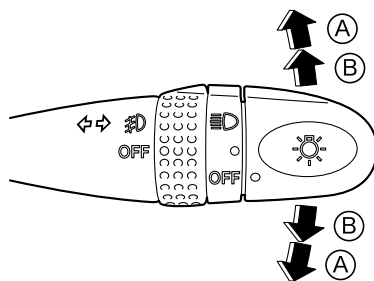
- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑となります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- 光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

方向指示レバー

ハンドルの右側のレバーが方向指示レバーです。

エンジンスイッチがONのとき、レバーをⒶの位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。

右折あるいは左折後、ハンドルを戻すとレバーは自動的に元の位置に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。

☆3－20ページ参照

300017

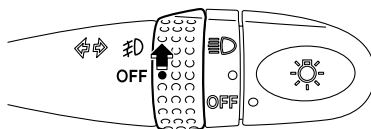
アドバイス

車線変更の合図をするには

レバーを変更しようとする方向に軽く押さえていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。（Ⓑ位置）

手を離すとレバーは元の位置に戻ります。

フロントフォグランプスイッチ

ライティングスイッチが●または≣Dのとき、レバー内のスイッチを ≢D の位置に回すとフロントフォグランプが点灯します。
点灯中はメーター内の表示灯が点灯します。
スイッチをOFFの位置に戻すと消灯します。

300019

アドバイス

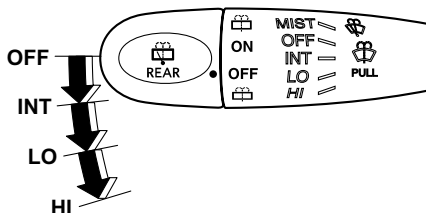
フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計されていますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときにだけ使用してください。

ワイパー＆ウォッシャースイッチ

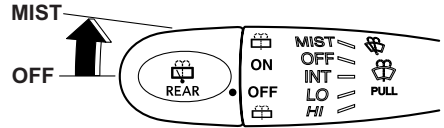
ハンドルの左側のレバーがワイパー＆ウォッシャースイッチです。
エンジンスイッチがAccまたはONのとき使用できます。

■フロントワイパーの作動

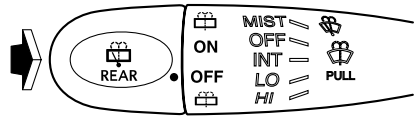
レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動

300024

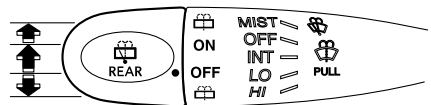
●ワイパーを1回だけ使いたいときには（MIST）

レバーを上に押し上げている間、ワイパーが動きます。

300022

●フロントウォッシャー

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射され、連動してワイパーも動きます。

300023

■リヤワイパー／ウォッシャーの作動

レバー内のスイッチを回すと作動します。

300036

次ページへ ⇒

⇒前ページより

（上側）	ワイパー作動中にウォッシャー液が噴射し、手を離すとONに戻ります。
ON	連続で作動
OFF	停止
（下側）	ウォッシャー液が噴射し、手を離すとOFFに戻ります。

アドバイス

- ワイパーアームを起こすときは、運転席側を先に起こしてから助手席側を起こします。戻すときは助手席側を先に戻してから運転席側を戻してください。逆の順序ではワイパーアーム同士が接触し、傷がつく可能性があります。
- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ガラスに拭き残しができるときにはブレードのラバーを交換してください。

☆6－14ページ参照

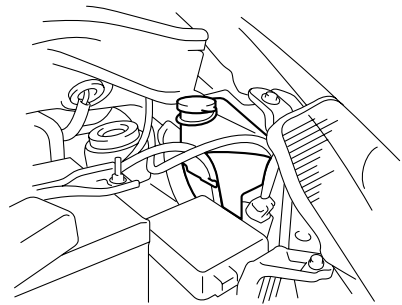
- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。
  ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止します。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
  - フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを（デフロスター）にしてください。
  - リヤガラスは、リヤウインドゥデフォッガーを使用してください。

☆3－14、4－7、4－12ページ参照

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチをAccまたはLOCKの位置にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
  モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。
  その場合には、車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチをOFFにしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- フロントウォッシャーノズルの噴出範囲の調整はスバル販売店にご相談ください。
- ゴミなどがつまる等、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

■ウォッシャータンク

運転前にウォッシャー液の量を点検してください。
ボンネットを開け、向かって右側にタンクがあります。フロントとリヤの共用になっています。

300037

⚠ 注 意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
  ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。

☆4−4、4−8ページ参照

- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

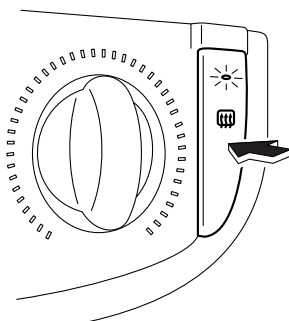
☆5−4ページ参照

- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないよう注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）スイッチ

リヤウインドゥデフォッガーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの右横にあります。リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。
電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。
- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯します。
- 作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）
- ヒーテッドミラー付車は約 15 分で自動的にOFFになります。

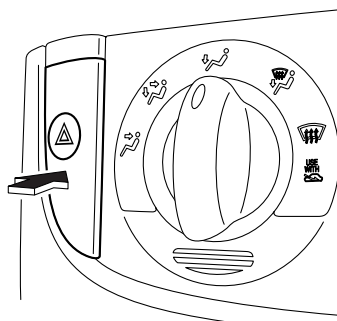
300908

⚠ 注 意

リヤウインドゥの曇りが取れたらスイッチを押し、OFF にしてください。バッテリー上がりの原因になります。

アドバイス

- 消費電力が大きいので長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の清掃時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。

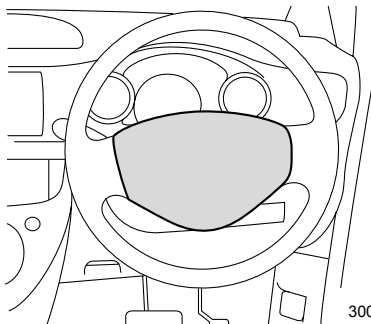
ハザードランプ（非常点滅灯）スイッチ

ハザードランプは、エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。やむを得ず路上に駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。スイッチはエアコン操作パネルの左横にあります。スイッチを押すと左右の方向指示器が点滅します。

300029

アドバイス

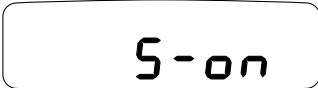
- 非常のとき以外は使わないでください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

ホーンスイッチ

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。

アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

■メーターの初期作動

メーターは、エンジンスイッチをONにするとメーターの指針が一度最大値を指し、すみやかに戻り、その後文字盤が点灯します。

●初期作動の設定のしかた

初期動作は次の操作により非作動、作動の設定ができます。

①エンジンスイッチをON以外の位置にします。
②オドメーター・トリップメーターをオドメーター表示に切り替えて、トリップ切り替え／トリップリセットノブを3秒以上押します。
③オドメーター・トリップメーターに現在の設定が表示されます。
④このときトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すたびに設定が切り替わります。
⑤3 秒間トリップ切り替え／トリップリセットノブの操作がない場合、設定を完了しオドメーターの表示に戻ります。

300536

> **アドバイス**
> キーを挿していない状態でも、初期作動の設定はできます。

■スピードメーター

車の走行速度を示します。

> **アドバイス**
> 速度警告装置はついていません。
> スピードを出し過ぎないようにしてください。

■タコメーター（エンジン回転計）

毎分のエンジン回転数を示します。

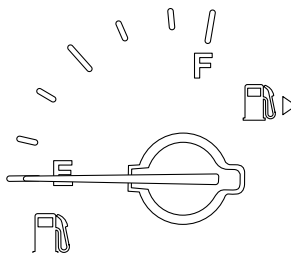
⚠ 注 意

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

アドバイス

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター（燃料計）

燃料の残量を示します。指針が「E」に近づいたら早めに給油をしてください。
☆2−11ページ参照

300393

⚠ 注 意

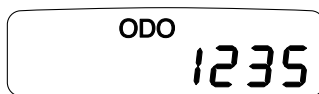
燃料給油は、必ずエンジンを止めて行ってください。
☆1−25ページ参照

アドバイス

- エンジンスイッチがONのとき、燃料の残量を示します。
- エンジンスイッチが ON 以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと約10秒間燃料の残量を表示します。
- 給油後の残量はエンジンを始動すると示します。また、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- 給油量が少ない場合（約10ℓ以下)、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。

■オドメーター（積算距離計）

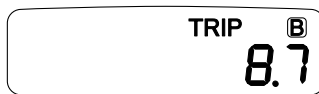
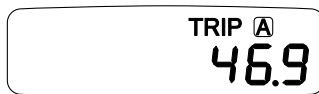
走行した総距離をkmで表示します。

ODO
1235

300394

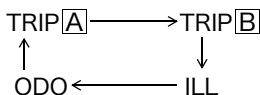
■トリップメーター (区間距離計)

ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。表示範囲は0.0 km～9999.9 kmです。AとB、2種類の設定ができます。

TRIP Ⓐ
46.9

TRIP Ⓑ
8.7

300395

●トリップA、B、オドメーター切り替え

トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

●トリップメーターA・Bを0に戻すとき

トリップAまたは、トリップBのリセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し続けると0に戻ります。

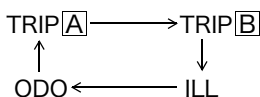
アドバイス

- エンジンスイッチが「ON」以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、約10秒間バックライトが点灯し、オド／トリップメーターを表示します。
- 液晶表示は偏光サングラスを使用すると見えにくくなる場合があります。

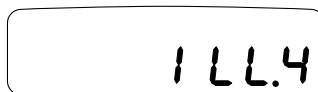
■メーターイルミネーションコントロール

メーターの明るさ（輝度）を5段階に調整することができます。

●調整のしかた

①トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

②ILL表示にすると現在の明るさ（輝度）が表示されます。
数字が大きくなるほど、明るく表示されます。

③ILL表示のとき、トリップ切り替え／トリップリセットノブを１秒以上押し続けると明るさ（輝度）が順次変化します。設定したい明るさ（輝度）でノブを離すと設定されます。

④もう一度トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すとオドメーターに切り替わります。

300535

アドバイス

- キーを挿していない状態でも、イルミネーションコントロールの設定はできます。
- ILL表示で10秒間操作がない場合、オドメーター表示に切り替わります。

表　示　灯

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。

アドバイス

方向指示器の電球やヒューズが切れたときあるいはワット数の異なった電球を使うと点滅の速さが異常になります。
すみやかに点検し、異常のある電球やヒューズを交換してください。
☆6－19ページ参照

■ハイビーム／パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きのとき点灯します。
また、パッシング時も点灯します。

■セレクトポジション表示灯（i-CVT車）

エンジンスイッチをONにしたとき点灯し、セレクトレバーの位置を示します。
☆3－31ページ参照

300586

■シフトポジション表示灯

マニュアルモード選択時、ギヤ位置を表示します。

☆3－39ページ参照

300654

> **⚠ 注 意**
>
> セレクトポジション表示灯に“E”が表示されたときは、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■SPORT（スポーツ）モード表示灯

SPORT

センターパネルの“SPORT”スイッチを押すとスポーツモードが選択され“SPORT”表示灯が点灯します。

☆3－39ページ参照

■Info-ECOモード表示灯

ECO

通常は点灯しています。

点灯中は燃費の良い走行状態であることを示しています。

急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、表示灯は消灯します。

☆3－38ページ参照

> **⚠ 注 意**
>
> エンジンスイッチをONにしたとき、点滅し続けるときは、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ライティングスイッチ表示灯

ライティングスイッチが●または≣D位置時に点灯します。

■フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプが点灯しているとき表示灯が点灯します。

アドバイス

フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計されていますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときにだけ使用してください。

警　告　灯

■ブレーキ警告灯

エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション（EBD）の電子制御システムに異常があるとき
  EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3－46ページ参照

注　意

- エンジン回転中に駐車ブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。
- ブレーキ液が正常で、ABS 警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム（ABS）に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。
  直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯

- エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。
- 運転席シートベルト未着用のまま車速約25km/h以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。
  上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

アドバイス

このとき車速が約25 km/h以下になっても、上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

- 約 2 分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。
  警告灯は運転席シートベルトを着用するまで点灯します。

☆2－28ページ参照

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
アンチロックブレーキシステム（ABS）の電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3－44ページ参照

注 意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。
- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速約10 km/hになったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■SRSエアバッグ警告灯

AIR BAG

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。
SRS エアバッグシステムまたはプリテンショナー付シートベルトシステムに異常があると点灯します。

☆2－34、2－40ページ参照

⚠ 警 告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

⚠ 注 意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■オイルプレッシャー警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。

⚠ 注 意

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。
オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■チャージ警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

⚠ 注 意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

■エンジン警告灯

エンジンスイッチONで点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジンまたはi-CVT電子制御システムに異常があると点灯します。

⚠ 注 意

エンジン回転中に点灯したときは、エンジンまたはi-CVT電子制御システムに異常があります。
急加速、急発進、高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■燃料残量警告灯

エンジンスイッチがONのとき、燃料残量が約5リットル以下になると点灯します。

⚠ 注 意

警告灯が点滅したときは、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■水温表示灯／水温警告灯

この警告灯は、水温の低温を示す表示灯（青）とオーバーヒートを示す警告灯（赤）があります。
エンジン始動後、ある一定の温度に達するまで表示灯は青く点灯し、ある一定の温度に達すると表示灯は消灯します。
エンジンがオーバーヒート状態になると警告灯が赤色に点灯します。

⚠ 注 意

- 赤色に点灯したときは、車を安全な場所に止め、オーバーヒートの処置を行い、スバル販売店で点検を受けてください。

☆7−19ページ参照

- エンジンスイッチをONにしたとき、赤色と青色が交互に点灯し続けたときは、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- エンジンスイッチをONにすると、約1秒間赤く点灯し、その後消灯あるいは青く点灯します。
- 走行状態により、再始動時しばらくの間赤く点灯する場合がありますが、消灯すれば異常ではありません。

■ステアリング制御警告灯

STEER-ING

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約２秒後に消灯します。
エンジン回転中、パワーステアリングの電子制御システムに異常があると点灯します。

⚠ 注 意

ステアリング制御警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合があります。気をつけて運転し、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

R1 RJ1-017001～018400, RJ2-011001～011400

アドバイス

次の場合に警告灯が点灯することがあります。

- 停車中に必要以上の空吹かしを続けた時、または外気温度が冷えている場合（0℃以下が目安ですが若干の差があります）で、約10分間の暖機運転後に、必要以上にエンジン回転数を上げると点灯することがあります。（点灯している状態ではハンドル操作力は重くなります）しかし、走行を開始すると（車速6 km/h以上）、警告灯は消え、正常の操作力になります。

次の場合にハンドル操作が重くなることがあります。

- エンジン始動直後10分間、停車中に必要以上にエンジン回転数を上げたとき。
  走行を開始すると（車速6 km/h以上）、正常の操作力になります。
- エンジンをかけた状態で、停車中にハンドル操作を繰り返したとき。
  しばらくすると正常の操作力になります。

■オートヘッドランプレベラー警告灯 ✂

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

注 意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

●エンジンをかける前に

①駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
②セレクトレバーが P であることを確認します。（N でも始動できますが、安全のため P で始動してください。）

●エンジンのかけかた

①運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
②エンジンスイッチにキーを差し込み“START”までスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

⚠ 警 告

車庫や屋内などの換気の悪いところで、エンジンをかけたままにしないでください。
車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠ 注 意

- エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けないでください。
  スターターが故障する原因になります。かからないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒位休んでからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回します。
- エンジンがかかった後は、アイドリング回転が高めに保たれます。

アドバイス

- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後はエンジン回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまでエンジンスイッチをSTARTに回します。

- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキがかかっていることを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンスイッチを START に回します。エンジンがかからない場合はアクセルペダルをいっぱいに踏み込んでエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を離してください。
  それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、ライティングスイッチ、A/Cスイッチ、リヤウインドゥデフォッガースイッチをOFFにした方が、容易に始動します。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合があります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- i-CVT 車は、P、Nでアクセルペダルを踏み込んでも高回転まで上がらないようになっています。
- 急発進、急加速時等、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■エンジンの停止

アイドリング回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。

アドバイス

車両が停止した直後は、エンジン回転がアイドリング回転数に戻るまで時間が多少かかることがあります。

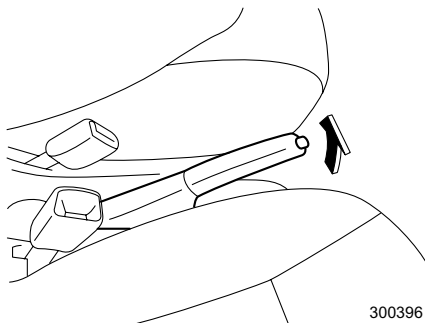
運転するとき

駐車ブレーキレバー

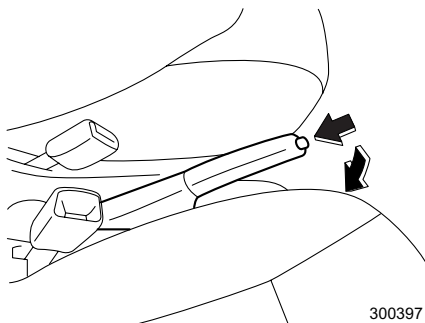
■使用するとき

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。

☆3－22ページ参照

300396

■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。

300397

⚠ 注 意

- 駐車するときは車が動き出さないようにレバーを確実に引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。レバーを引いたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

i-CVT車の運転

セレクトレバー

■各位置での働き

P （パーキング）	駐車およびエンジン始動位置	駐車のときは必ず駐車ブレーキをかけてPにしてください。
R （リバース）	後退位置	ブザーが鳴り、ドライバーにRであることを知らせます。
N （ニュートラル）	中立位置	
D （ドライブ）	通常走行位置	車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて自動的に変速します。
L （ロー）	登・降坂路走行位置	エンジンブレーキが必要なとき、追い越し、山岳走行を行うときに使用します。 この位置でも自動変速します。

☆「i-CVT車の特徴と運転上の注意」をご覧ください。（1－11ページ参照）

⚠ 警 告

発進時は絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- Pでエンジンをかけてください。
  Nでもエンジンはかかりますが、安全のためPでかけてください。
- P、Rに入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- 切り返しのとき、D→R、R→Dと何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルを確実に踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- Rに入れるとブザーが鳴り、Rであることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐにRからNに戻す習慣をつけてください。

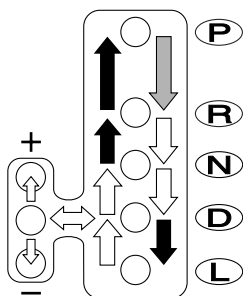
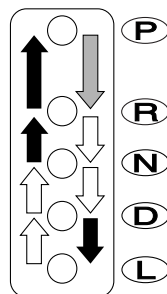
アドバイス

- i-CVT車は低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。（暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。）
- i-CVT 車は、P、Nでアクセルペダルを踏み込んでも高回転まで上がらないようになっています。

■セレクトレバーの操作方法

レバーは各位置で確実に止まるところまで確実に動かしてください。

〈スポーツシフト装備車〉

〈スポーツシフト装備車以外〉

記号	説明
⇩（灰色）	ブレーキペダルを踏まないと操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。
⇩（白）	ボタンを押さずに操作します。
⬇（黒）	ボタンを押したまま操作します。

アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごと、確実に行ってください。
- [P]の位置から他の位置にレバーを動かすときは、先にブレーキペダルを踏んでからレバーを動かしてください。
- エンジンスイッチがLOCKまたはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでもレバーを[P]から他の位置に動かすことはできません。

■シフトロックシステム

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- [P]からのレバー操作は、エンジンスイッチを ON にし、ブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- セレクトレバーを[P]から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを手前に引いてからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバーを操作してください。
- [P]以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。([P]以外ではキーをAccからLOCKに回せません。)

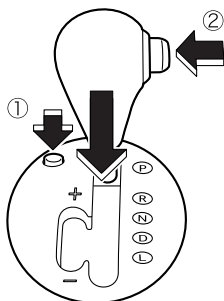
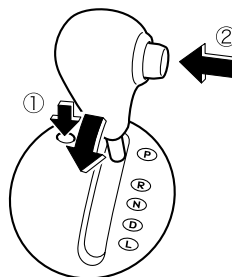
●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れ等で、セレクトレバーを[P]から動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

▼解除のしかた

①ブレーキペダルを踏みながら、シフトロック解除ボタンを押し続けます。

②シフトボタンを押しながらセレクトレバーを下側に動かします。

〈スポーツシフト装備車〉

〈スポーツシフト装備車以外〉

セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにスバル販売店に連絡してください。

運転手順

■エンジンをかける前に

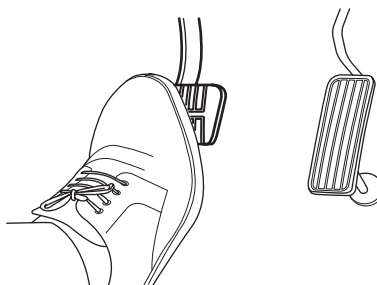
①正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、シートの位置を調整してください。

☆2－18ページ参照

②アクセルペダルの位置を右足で確認します。

③ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠注意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。（踏み間違いは事故につながるおそれがあります。）

300076

■エンジン始動

①駐車ブレーキレバーが確実に引いてあることを確認します。
②セレクトレバーが P であることを確認します。

⚠ 注 意

N でも始動できますが、安全のため P で行ってください。

③ブレーキペダルを右足で踏んだまま（アクセルペダルは踏まないこと）
④エンジンスイッチをSTARTに回し、エンジンを始動します。

アドバイス

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。

■発進

①ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

⚠ 警 告

確実にブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

②セレクトレバーを D（前進）または R（後退）に入れます。
③セレクトレバーの位置を確認します。
④駐車ブレーキレバーを戻します。
⑤右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。

⚠ 注 意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1－11ページ参照

- 後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し
① 駐車ブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを離し、アクセルペダルをゆっくり踏みます。
② 車が動き出す感覚を確認しながら、駐車ブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■走行

通常の走行時：

Dで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速時：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。
☆1－11ページ参照

下り坂のとき：

エンジンブレーキを併用してください。Lにするかマニュアルモードにしてシフトダウンします。

⚠ 警 告

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

アドバイス

- 急発進、急加速等、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 極低温時の後退時にエンジン回転数が一定回転以上あがらないことがありますが異常ではありません。

R1 RJ1-017001～018400, RJ2-011001～011400

■駐車

①車を完全に止めます。

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

②ブレーキペダルを踏んだままの状態で駐車ブレーキレバーを確実に引きます。
③セレクトレバーをPに入れます。
　セレクトレバーがPのときは車が動き出す心配がなくより安全です。
④エンジンを止めます。

☆1－22ページ参照

注 意

車から離れるときは、必ずセレクトレバーをPに入れ、エンジンを止めてください。

■停車

①Dのままブレーキペダルを確実に踏みます。

注 意

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

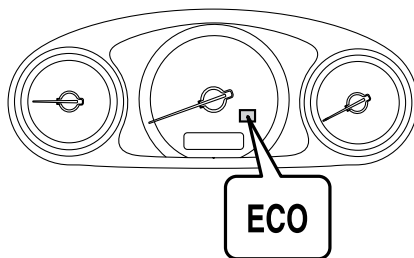
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でP、N以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

②必要に応じて駐車ブレーキレバーを引きます。
③長時間停車するときはPにします。
④停車後、再発進するときは、セレクトレバーがDにあることを確認して発進します。

⚠ 注 意

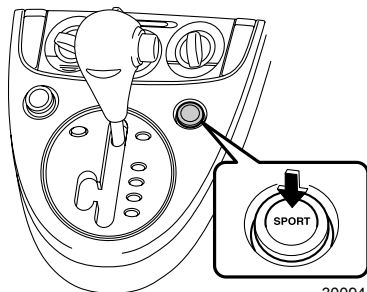
- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり車が後退することがあります。
  ブレーキペダルを踏み込み、確実に駐車ブレーキレバーを引いてください。

Info-ECOモード ✤

エンジンおよび i-CVT の最適な制御によって燃費を向上させるモードです。
“ECO” 表示灯が点灯中はi-CVTが低燃費走行に最適な変速制御をします。
急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、“ECO” 表示灯は消灯します。

アドバイス

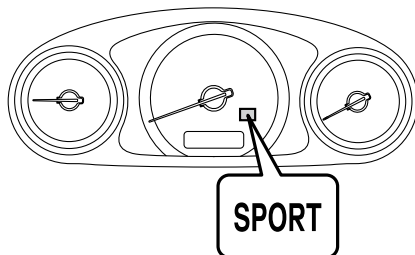
“ECO” 表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

スポーツモードスイッチ

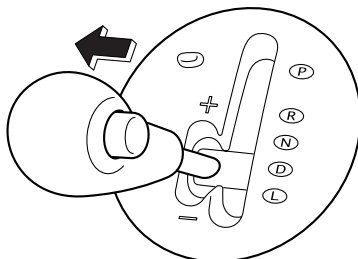
運転条件に応じて走行モード（ノーマルモード、スポーツモード）を選択するスイッチです。
スイッチはセレクトレバーの横にあります。

●ノーマルモード

通常の走行で使用するモードです。
「SPORT」スイッチがOFFで“SPORT”表示灯は消灯しています。

●スポーツモード

登坂時や加速を重視したいときに使用します。
スイッチを押すとメーター内の“SPORT”表示灯が点灯し、ノーマルモードよりも高い回転数で走行します。

スポーツシフト

■マニュアルモード

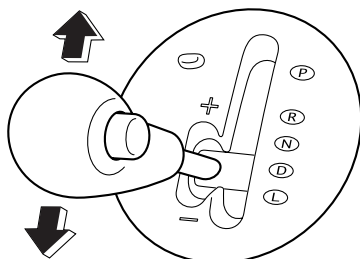
セレクトレバーを[D]の位置からマニュアルゲートに動かすとマニュアルモードになります。

■シフトポジション表示灯

マニュアルモードにすると、ギヤ位置を表示します。

300654

■シフトレ操作

●セレクトレバー

1 段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊕方向に押します。1 段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊖方向に引きます。

300110

●マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートからDの位置に移動させます。

⚠ 注 意

以下の状態では、シフトアップ／シフトダウン操作を行っても変速をしない場合や、シフトインジケーターの数字が変わらない場合があります。

- 低すぎる車速でシフトアップを行ったとき
- シフトダウンすることによりオーバーレヴ（エンジン回転がレッドゾーン以上になること）しそうなとき
- 滑りやすい路面でタイヤがスリップした状態でシフトダウン操作を行ったとき
- [D]からマニュアルモードに操作した直後の 1 回目のシフトアップまたはシフトダウン操作を行ったとき

オートアップ機能、オートダウン機能

- 加速時、エンジン回転数が規定の回転数に達すると、マニュアル操作をしなくとも自動的にシフトアップします。
- アクセルの踏み込み量が少ない状態または、ブレーキなどで速度が低下し、エンジンがアイドリング回転に近づくと自動的にシフトダウンします。
- 下り坂などでアクセルを踏み込まない状態で加速した場合には自動的にシフトアップすることがあります（エンジンブレーキを効かせるときは、シフトダウン操作をしてください）。
- 停止時には必ず1速となります。このように、エンジン回転の上限、下限が設定されています。

その他

連続して2回以上のレバー操作を行った場合には、2回目までの操作を記憶し1回目の変速動作終了後、2回目の動作を開始します。
（3→1、2→4というような「飛び段」は行いません）

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤが沈み込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
  やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
  この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WDより安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
  カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では充分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

⚠ 警 告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると､車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛びだすことがあります。

☆7−15ページ参照

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。
危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。
ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。

⚠ 注 意

- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABS を過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなることがあります。
  - マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
  - 道路のつなぎ目などの段差
  - 凹凸路、石畳などの悪路
  - 下り坂での旋回
  - 路肩に草や砂利が多い道路
  - 砂利道
  - 雪路（新雪路、圧雪路、凍結路など）
- タイヤチェーン装着時には ABS の付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
  とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

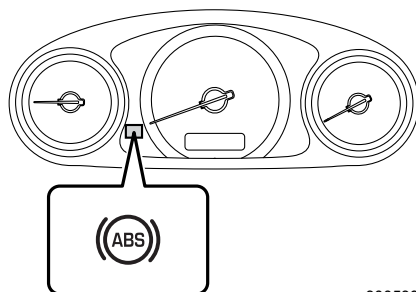
アドバイス

ABS が作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
  これはABSが作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルを確実に踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
  – エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
  – ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

⚠注 意

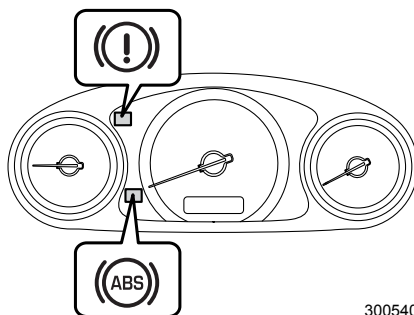
警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき。

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしては作動しません)

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。
- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

●エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション（EBD）

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。

⚠ 注 意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。
点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

アドバイス

- EBDが作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3−22ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

アドバイス

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。
エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

室内装備品の使いかた

エアコン

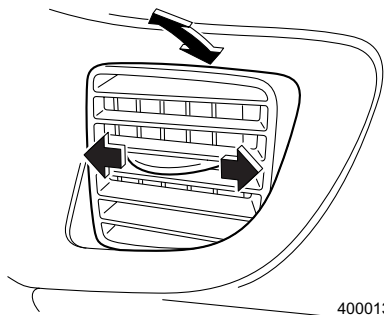
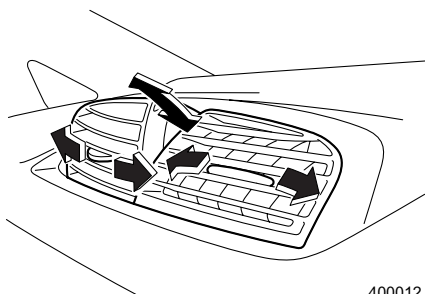
オーディオシステム

室内装備

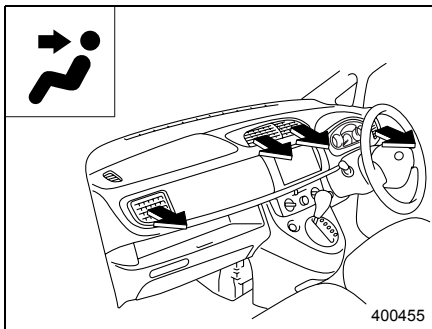
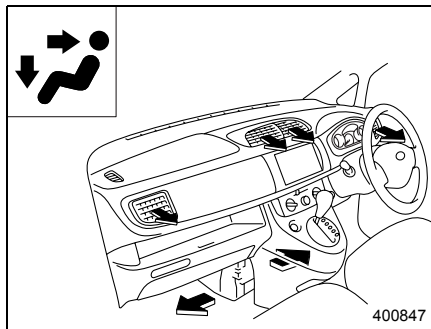
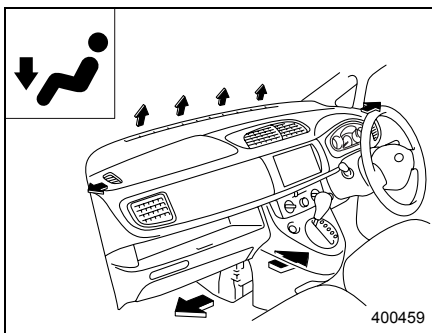
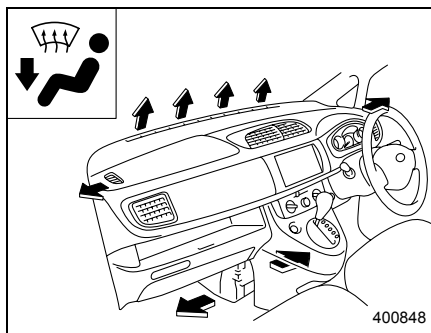
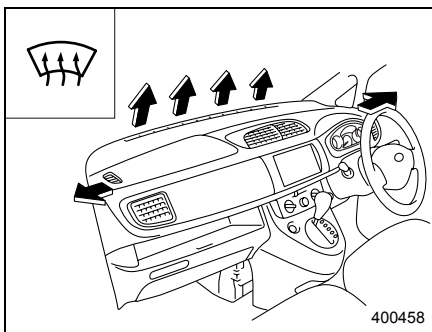
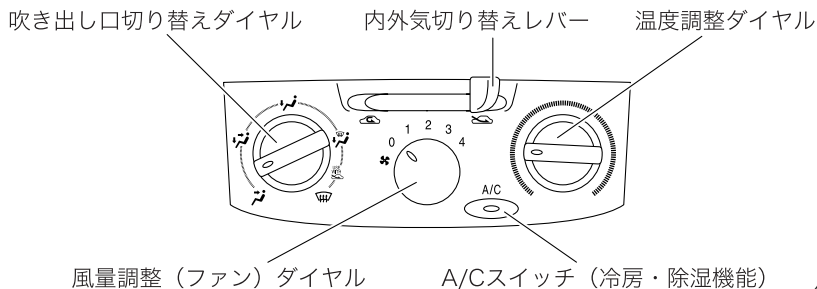
エアコン

吹き出し口の調整

●吹き出し口

吹き出し口のノブを左右に、また、吹き出し口全体を上下に動かして風向きを調整します。

吹き出し口表示と使用目的

使用目的に合わせて吹き出し口を選択してください。

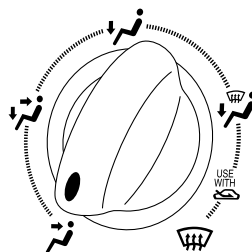
●上半身に送風したいとき

●上半身と足元に送風したいとき

●足元に送風したいとき

●足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき

●窓ガラスの曇りを取りたいとき

マニュアルエアコン

エンジンをかけているとき、風量調整（ファン）ダイヤルを「0」以外の位置にすると作動します。冷房・除湿をするときは、さらにA/Cスイッチを押します。風量調整（ファン）ダイヤルを「0」にすると止まります。

アドバイス

- エンジンがかかっているときにスイッチを操作してください。
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- 停車中の冷房効果を上げるため、アイドリング回転が高くなります。
  i-CVT車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキを確実に踏んでください。
- 炎天下に駐車したときには、冷房を使う前にウインドゥを全開にするなどして熱気を追い出してください。
- 室内のにおいが気になるときには消臭剤を使用して消してください。空気が汚れているときや、タバコを吸うときは換気してください。ほこりやタバコの煙が冷房装置に付いて、におうことがあります。
- 冷房中は乾燥ぎみとなり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。目が痛くなったときは外気を導入してください。
- 体が冷え過ぎないように適温に調整してください。冷え過ぎは健康を損ないます。
- 冷房・除湿機能は各部を潤滑するためにも月に2、3回程度作動させてください。
- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。お近くのスバル販売店で点検を受けてください。
- 次の場合、冷房・除湿機能は作動しません。
  ー 室内の温度が低いとき
  ー 外気温度が低いとき（0℃以下のとき）

■操作パネルの使いかた

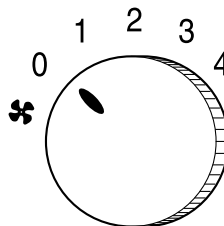
●吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。
USE WITH は、 使用時に外気導入に切り替えることをお奨めする表示です。
☆4－3ページ参照

400021

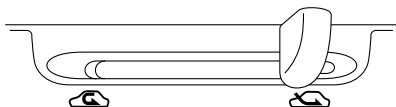
アドバイス

降雪時には
降雪時はフロントガラスの氷結を防止するため、 で走行することをお奨めします。

●風量調整（ファン）ダイヤル

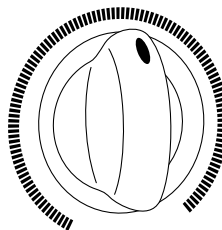
風量を４段階に調整できます。
数字が大きくなるほど強くなります。

400016

●内外気切り替えレバー

レバーを の位置に合わせると内気循環になり、の位置に合わせると外気導入になります。
早く冷房したいとき、または、冷房の効きを高めたいときには、内気循環をお使いください。

400025

> **⚠注 意**
>
> 内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと、万一、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂が生じた場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。また、ガラスが曇りやすくなりますので、内気循環で使用する場合は、A/Cスイッチを押して除湿機能を働かせて使用してください。

●温度調整ダイヤル

送風温度を調整します。
温度を上げるときは右へ、下げるときは左へ回します。

400022

●A/Cスイッチ

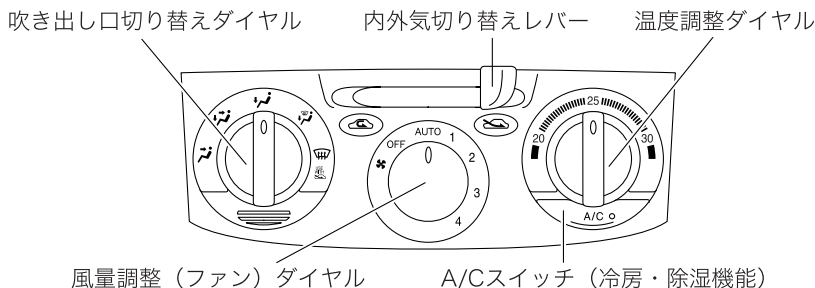
風量ダイヤルが「0」以外のとき、スイッチを押すと冷房・除湿機能が作動し、スイッチ内のランプが点灯します。もう一度押すと冷房・除湿機能は停止します。

400015

■マニュアルエアコンの使いかた

スイッチ	吹き出し口切り替え	風量調整	A/Cスイッチ	温度調整	内外気切り替え	アドバイス
冷房		希望位置	ON	希望位置（中間より左側）		• 早く冷やしたいときは、内外気切り替えレバーを内気循環にしてください。 • 冷房の効きを高めたいときは、内気循環をお使いください。
暖房		希望位置	ON または OFF	希望位置（中間より右側）		• ウインドゥにも少し送風されますが、これはウインドゥの曇りを防止するためのものです。 • 顔部が熱い場合は、温度調整ダイヤルを左側に動かし、適温に調整してください。
曇り除去と暖房		希望位置	ON または OFF	希望位置（中間）		• 温度調整ダイヤルの位置によっては曇り除去機能が低下する場合があります。
頭寒足熱		希望位置	ON または OFF	希望位置（中間）		• 温度調整ダイヤルを右または左いっぱいにすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります。
曇り除去		希望位置	ON	中間より右側		• 夏期においてウインドゥの曇りを除去する場合、温度調整ダイヤルは中間より左側でご使用ください。 • 外気温度と吹き出し風の温度差が大きいと、ウインドゥの外側が曇る場合があります。このときは風量調整ダイヤルを「0」にするか、温度調整ダイヤルを右に動かしてください。
換気		希望位置	OFF	希望位置		

室内装備品の使いかた

オートエアコン

■エアコンの使いかた

エンジンをかけているとき、風量調整（ファン）ダイヤルを「OFF」以外の位置にすると作動します。冷房・除湿をするときは、さらにA/Cスイッチを押します。風量調整（ファン）ダイヤルを「OFF」にすると止まります。

■オートでの使いかた

①温度調整ダイヤルで希望温度に設定します。
②吹き出し口切り替えダイヤルをお好みの位置に回します。
③風量調整（ファン）ダイヤルをAUTOに回します。
④A/Cスイッチを押してONにします。

アドバイス

- エンジンがかかっているときにスイッチを操作してください。
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- 停車中の冷房効果を上げるため、アイドリング回転が高くなります。
  i-CVT車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキを確実に踏んでください。
- 炎天下に駐車したときには、冷房を使う前にウインドゥを全開にするなどして熱気を追い出してください。
- 室内のにおいが気になるときには消臭剤を使って消してください。空気が汚れているときや、タバコを吸うときは換気してください。ほこりやタバコの煙が冷房装置について、におうことがあります。
- 冷房中は乾燥ぎみになり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。目が痛くなったときは外気を導入してください。

- 体が冷え過ぎないように適度に温度を調整してください。冷え過ぎは健康を損ないます。健康上、外気温度と室内温度の差は5〜6 ℃が適当です。
- 冷房・除湿機能は各部を潤滑するためにも月に2、3回程度作動させてください。
- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。お近くのスバル販売店で点検を受けてください。
- 次の場合、冷房・除湿機能は作動しません。
  - 室内の温度が低いとき
  - 外気温度が低いとき（0 ℃以下のとき）

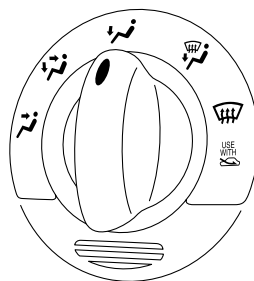
■操作パネルの使い方

●吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的に合わせて吹き出し口を切り替えます。

ダイヤルを にしたときは、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）がONになります。

USE WITH は、 使用時に外気導入に切り替えることをお奨めする表示です。

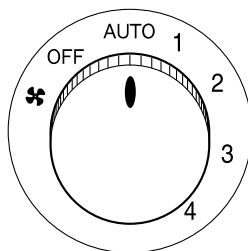
☆4−3ページ参照

400018

アドバイス

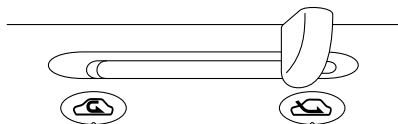
降雪時は

降雪時はフロントガラスの氷結を防止するため で走行することをお奨めします。

●風量調整（ファン）ダイヤル

風量を調整し固定するときあるいはAUTOにしたいときに使います。
風量はAUTOを含め5段階に調整できます。

400019

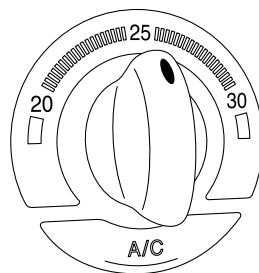
●内外気切り替えレバー

一時的に外気を遮断したい場合に使います。
レバーを [内気循環マーク] の位置に合わせると内気循環になり、[外気導入マーク] の位置に合わせると外気導入になります。
早く冷房したいとき、または冷房の効きを高めたいときには、内気循環をお使いください。

400024

⚠ 注 意

内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと、万一、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂が生じた場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。また、ガラスが曇りやすくなりますので、内気循環で使用する場合は、A/Cスイッチを押して除湿機能を働かせて使用してください。

●温度調整ダイヤル

室内温度を調整するとき使います。
温度設定は20.0～30.0 ℃の範囲で変更できます。ただし、20.0 ℃または30.0 ℃を設定したときは最大冷房または最大暖房となります。

400023

●A/Cスイッチ

風量ダイヤルが「OFF」以外のとき、スイッチを押すと冷房・除湿機能が作動し、スイッチ内のランプが点灯します。もう一度押すと冷房・除湿機能は停止します。

400020

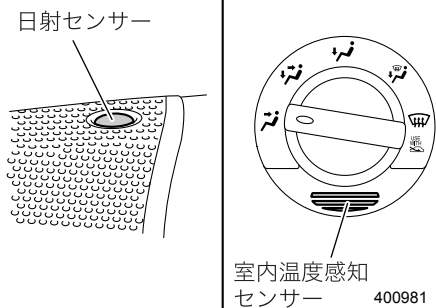
■オートエアコンの使いかた

スイッチ	吹き出し口切り替え	風量調整	A/C スイッチ	温度調整	内外気切り替え	アドバイス
冷房		希望位置	ON	希望位置（中間より左側）		• 早く冷やしたいときは、内外気切り替えレバーを内気循環にしてください。 • 冷房の効きを高めたいときは、内気循環をお使いください。
暖房		希望位置	ON または OFF	希望位置（中間より右側）		• ウインドゥにも少し送風されますが、これはウインドゥの曇りを防止するためのものです。 • 顔部が熱い場合は、温度調整ダイヤルを左側に動かし、適温に調整してください。
曇り除去と暖房		希望位置	ON または OFF	希望位置（中間）		• 温度調整ダイヤルの位置によっては曇り除去機能が低下する場合があります。
頭寒足熱		希望位置	ON または OFF	希望位置（中間）		• 温度調整ダイヤルを右または左いっぱいにすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のみの吹き出しになります。
曇り除去		希望位置	ON	中間より右側		• 夏期においてウインドゥの曇りを除去する場合、温度調整ダイヤルは中間より左側でご使用ください。 • 外気温度と吹き出し風の温度差が大きいと、窓の外側が曇る場合があります。このときは風量調整ダイヤルを「OFF」にするか、温度調整ダイヤルを右に動かしてください。
換気		希望位置	OFF	希望位置		

注）吹き出し口切り替えダイヤルを にすると、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）がONになります。

■感知センサー

オートエアコンには次のセンサーが付いています。

- 日射センサー
  （左側フロントスピーカー部分）
- 室内温度感知センサー
  （吹き出し口切り替えダイヤルの下側）

> **⚠ 注 意**
>
> センサーに衝撃を与えたり、水をかけたり、物を置いたりしないでください。
> 温度制御にずれが発生する原因となります。

オーディオシステム

あらかじめ知っておいていただきたいこと

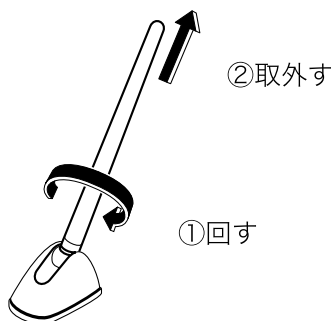
⚠注意

- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞いてください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。
- 運転者は車が止まっているときにラジオ・オーディオを操作してください。
- 内部に水や異物を入れないでください。故障の原因となります。
- お子さまがディスク挿入口に指を入れないようにしてください。けがの原因となるおそれがあります。

■ラジオ受信について

- 受信感度は周囲の状況、気象状況、送信局からの電波の強さ、送信局からの距離によって影響を受けます。山ろくや建物の近くでは電波がさえぎられたり、電波が反響して受信状態が悪くなることがあります。また、電車の架線や高圧電線の近くでは高圧電流の影響でノイズ（雑音）が入ったりするなど受信状態が悪くなることがあります。
- ラジオを聞いているとき、室内または車の近くで携帯電話や無線機を使うとノイズ（雑音）が入ることがあります。

■アンテナについて

- アンテナはルーフ後方の中央部に取り付けられています。
- アンテナのロッド部は前後方向に倒れます。ラジオを聞く際は、立てた状態にしてください。
- ロッドは根元を回すことで取り外しできます。

⚠注意

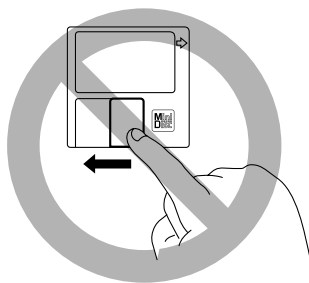
- 車庫、立体駐車場等、低い天井がある場所では、ロッドを倒してください。
- 洗車機で洗車する場合、ロッドを取り外してください。
  取り付けたままだと、ルーフに傷がつく場合があります。
- 外したロッドを取り付ける場合は、確実に締め付けてください。

■CDについて

400335

- 右図のマークがついている音楽 CD を使ってください。右図のマークがないものは使えません。
- 大きい傷、変形、ヒビ等のあるディスクやハート型などの特殊形状の CD は使用しないでください。誤作動や故障の原因となる場合があります。
- 寒いときや雨天のときは、プレーヤー内に露が生じ、正常に作動しないことがあります。この場合CDを取り出し、しばらく待ってから再度CDを挿入してください。
- 炎天下に長時間駐車した後などはプレーヤーの温度が高くなり、正常に作動しないことがあります。温度が下がるまでしばらく待ってください。
- 悪路走行などで激しく振動した場合、音飛びすることがあります。
- ディスクの記録部分に直接触れると音が悪くなる場合がありますので、手を触れないようにしてください。
- ディスクは熱に弱いので直射日光の当たる場所やヒーター吹き出し口などの近くに置かないでください。ディスクが変形して使用できなくなります。
- ディスクの記録部分にラベルを貼ったり、鉛筆やペンなどで傷をつけたりしないでください。
- ディスクはきれいなものをご使用ください。汚れている場合は、乾いた布で中心から外側に向かって拭いてください。硬い布やシンナー、ベンジン、アルコールなどは使用しないでください。

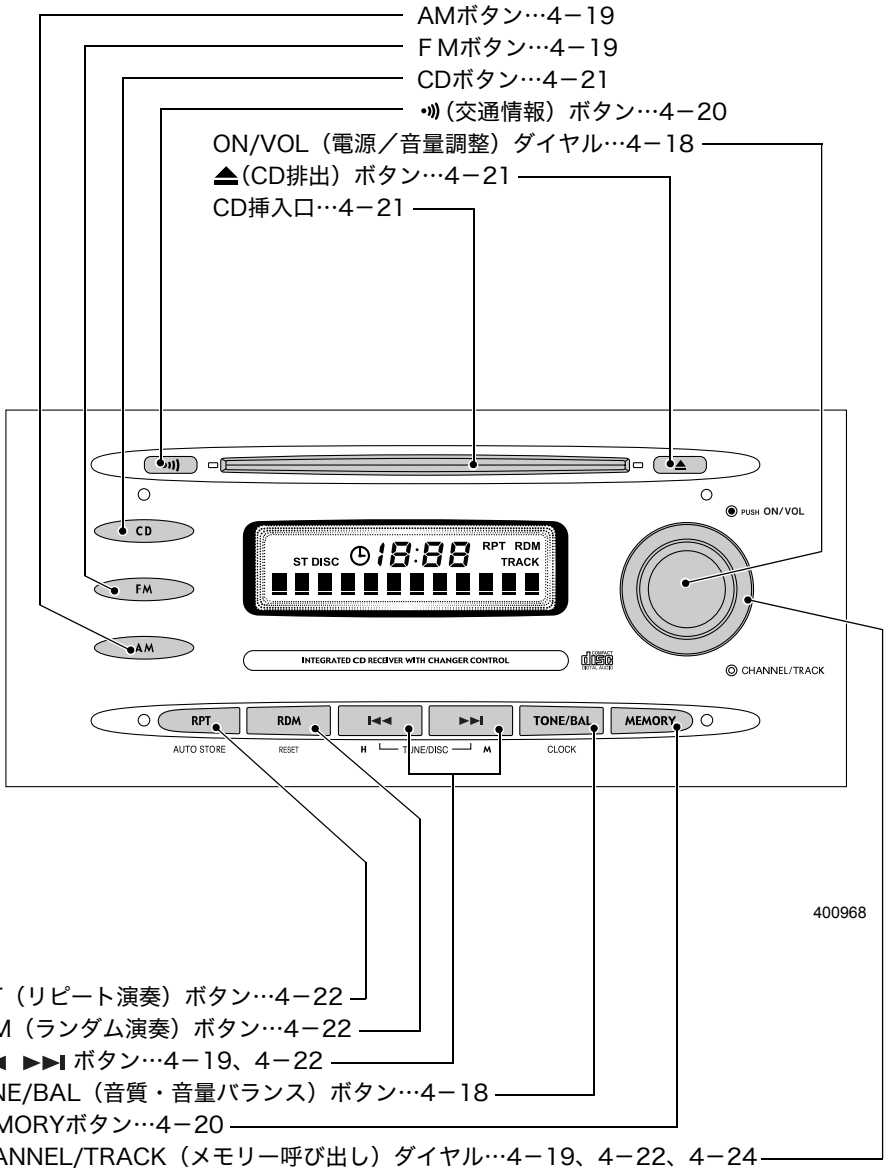
■MDについて

- MD のシャッターは開けられないようになっています。無理に開けるとカートリッジが損傷して使用できなくなります。シャッターが何らかの原因で開いてしまったときには、記録部分を指でさわらないようにしてください。記録部分に触れると使用できなくなったり、音飛びを頻繁に起こすようになります。

400834

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- カートリッジ表面の汚れやゴミは乾いた布で拭き取ってから使用してください。とくに油汚れが付いた状態で使用しますと、ディスクが引き込まれなかったり、取り出せなくなることがあります。また、お手入れするときは、シャッターを開けないようご注意ください。
- MDを長時間本体に入れたままにしないでください。また、取り出したMDは、MD専用ケースに入れて保管してください。
- MDを直射日光の当たる場所（ダッシュボードの上など）など温度が高くなるような場所に放置しないでください。MDのカートリッジが変形して使用できなくなります。
- ラベルのはがれかかったMDは使用しないでください。ラベルが浮いていたり、はがれかかっているMDを使用すると、本体の中ではがれて取り出せないなど故障の原因となります。
- レンズクリーナーは使用しないでください。故障の原因となります。

AM／FMマルチ電子チューナー・CDプレーヤー

■電源、音量・音質の調整

●電源を入れるとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、「ON/VOL」ダイヤルを押すごとに電源がON・OFFします。
電源がONになると、前に電源をOFFにしたときのモードになります。

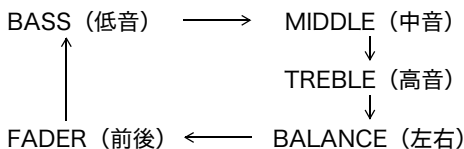
アドバイス

次の操作を行っても電源をONにすることができます。
- CDを挿入したとき
- 「CD」ボタン*、「FM」ボタン、「AM」ボタン、「•))」ボタンを押したとき
 ＊「CD」ボタンはCDが挿入されているとき

●音量を調整するとき

「ON/VOL」ダイヤルを回して調整します。
右に回す：音が大きくなります。
左に回す：音が小さくなります。

●音質と前後・左右の音量バランスを調整するとき

①「TONE/BAL」ボタンを押して調整モードを選択します。
ボタンを押すごとに

と、切り替わり、表示部に表示されます。

② |◀◀ ボタンまたは ▶▶| ボタンを押してお好みの位置に調整します。

モード（調整レベル表示）	|◀◀	▶▶|
BASS（低音）（－6～＋6）	低音減衰	低音強調
MIDDLE（中音）（－6～＋6）	中音減衰	中音強調
TREBLE（高音）（－6～＋6）	高音減衰	高音強調
BALANCE（左右）（L9～R9）	右側減衰	左側減衰
FADER（前後）*（R9～F9）	前側減衰	後側減衰

＊オプションのリヤスピーカーをつけたときの機能です。

調整時、5秒間操作を行わないと、通常表示に戻ります。

■ラジオを聞くとき

●FMを受信するとき

「FM」ボタンを押します。
ボタンを押すごとに

FM1 ⟷ FM2

と、切り替わり、表示部に表示されます。

●AMを受信するとき

「AM」ボタンを押します。

●選局するとき

「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを押します。

- 周波数に合わせて放送を聞くとき
  「⏮」ボタンを押す：
  ボタンを押すごとに周波数の低い方へ1ステップずつ切り替わります。
  「⏭」ボタンを押す：
  ボタンを押すごとに周波数の高い方へ1ステップずつ切り替わります。

- 自動的に放送局を探すとき
  「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを0.5秒以上押します。放送局が見つかると受信を始めます。
  「⏮」ボタンを押す：
  周波数の低い方へ放送局を探します。
  「⏭」ボタンを押す：
  周波数の高い方へ放送局を探します。

アドバイス

- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は表示部に“ST”が点灯します。

●記憶させた放送局を呼び出すとき

「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを回してチャンネル番号を選択します。

アドバイス

バッテリーを交換したときなどは記憶した内容が消去されます。この場合は再度記憶させてください。
☆4−20ページ参照

室内装備品の使いかた

R1 RJ1-017001～018400, RJ2-011001～011400

●交通情報を聞くとき

「•)))」ボタンを押します。
どのモードからでも自動的に切り替わります。
もう一度押すと、直前のモードに切り替わります。

■ラジオの放送局を記憶するとき

●手動で放送局を記憶するとき

①「FM」ボタンまたは「AM」ボタンを押してバンドを選択します。
②「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを操作し、記憶したい放送局を選択します。
③「MEMORY」ボタンを押し続けると選択した周波数が点滅し、その後「ch」が点滅します。
④「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを回して記憶したいチャンネル番号（1～6 ch）を選択します。
⑤「MEMORY」ボタンを2秒以上押します。
⑥ 以降、同様に②～⑤の手順を繰り返し、他のチャンネルに放送局を記憶できます。

各バンド（FM1、FM2、AM）で最大6局まで記憶できます。

●自動的に放送局を記憶するとき（AUTO STORE）

①「FM」ボタンまたは「AM」ボタンを押してバンドを選択します。
②「RPT」ボタン*を2秒以上押します。
受信可能な放送局が見つかると、チャンネル1から自動的に周波数の低い順に記憶されます。
＊ラジオ受信モードでは「RPT」ボタンが「AUTO STORE」ボタンとなります。

アドバイス

受信電波が弱いと自動的に記憶できないことがあります。

●交通情報局をかえるとき

①「•)))」ボタンを押して、交通情報を選択します。
②「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを押して選局します。
③「•)))」ボタンを2秒以上押すと、選局した交通情報局を記憶させることができます。

■CDを聞くとき

●CDを挿入する

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、CDを挿入することができます。
ラベル面を上にしてCD挿入口に差し込みます。CDを挿入すると演奏が始まります。CD演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

- CDが挿入されているとき
  「CD」ボタンを押すと演奏が始まります。CD演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

アドバイス

- CD が挿入されていないとき、CD 挿入口の両端の表示灯は点灯しています。CDを挿入すると表示灯は消灯します。
- 8 cm CDは8 cm CDアダプターを使用せず、そのまま挿入してください。アダプターを使用すると、ディスクが取り出せないなど、損傷の原因となります。
- 音楽用CD-R、CD-RWに記録された音楽データを再生できます。ただし、CDの録音条件、特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。ファイナライズ（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R、CD-RWは再生できません。
- CD-ROMやMP3＊、WMA＊で記録されたCDは再生できません。
- CD・TEXTについては対応しておりません。
- CDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“ERROR－○”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してCDを取り出してください。CDに傷や変形がないこと、またCDプレーヤーに対応しているCDが正しく挿入されていることを確認してください。CD が取り出せない場合、もしくはCD を交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。
  ＊音楽データを圧縮して記録する方式

●演奏を停止するとき

「ON/VOL」ダイヤルを押して電源を切るか、他のモードに切り替えます。

●CDを取り出すとき

「⏏」ボタンを押します。CDが排出され、前のモードに切り替わります。

アドバイス

- 排出された CD を 15 秒以上そのままにしておくと自動的に引き込まれます。(エンジンスイッチがAccまたはONの場合) この場合、CDの再生モードに切り替わらずそのままの状態です。CDを聞くときは再度「CD」ボタンを押してください。
- エンジンスイッチがOFFでもCDの排出をすることができます。
- CD が未挿入のときでも「⏏」ボタンを押すと、CD 排出機構が動作し、動作音が聞こえます。

●選曲するとき

「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを回します。

- 先の曲にするとき
  「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを右に回します。回すごとに先の曲を頭出しします。

- 手前の曲にするとき
  「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを左に回します。1回目で今聞いている曲の先頭に、回すごとに手前の曲の頭出しをします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを長めに押します。

- 早送り
  「⏭」ボタンを0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。

- 早戻し
  「⏮」ボタンを0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
②表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT」ボタンを押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RDM」ボタンを押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RDM」ボタンを押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

■オプションのCDチェンジャーを接続したとき

●演奏するとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき「CD」ボタンを押すと演奏が始まります。
表示部に“DISC”が点灯し、ディスク番号、トラック番号（曲番号）、演奏時間が表示されます。

アドバイス

- CDプレーヤー本体にCDが挿入されているときは「CD」ボタンを押すごとに、CDプレーヤーでの再生⇔CDチェンジャーでの再生に切り替わります。
- CDチェンジャーにマガジン*が装着されていないときは、“NO MAGAZINE”と表示します。マガジンにCDが挿入されていないときは、“NO DISC”と表示します。
  ＊マガジン：
  CDを入れる入れ物のことです。このマガジンにCDを入れ、CDチェンジャーに装着するとCDチェンジャーが使用可能となります。
- CDの再生はディスク番号1→2→3→4→5→6→1…の順で再生されます。また、CDの入っていないディスク番号は飛ばして再生します。
- CDチェンジャーが動作しなくなった場合は、表示部に“ERROR－○”と表示されます。表示された場合は、マガジンを取り出してください。マガジンに挿入されているCDに傷や変形がないこと、またCDチェンジャーに対応しているCDが正しく挿入されていることを確認してください。詳しくは、CDチェンジャーに付属している取扱説明書をご覧ください。

●演奏を停止するとき

「ON/VOL」ダイヤルを押して電源を切るか、他のモード（ラジオ、CD）に切り替えます。

●演奏するCDを指定するとき

「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを押します。

- 先のCDにするとき
  「⏭」ボタンを押します。押すごとに先のCDを再生します。
- 手前のCDにするとき
  「⏮」ボタンを押します。押すごとに手前のCDを再生します。

アドバイス

マガジンにCDが装着されていない番号を指定したときは次のCDを再生します。

●選曲するとき

「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを回します。

- 先の曲にするとき
  「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを右に回します。回すごとに先の曲を頭出しします。

- 手前の曲にするとき
  「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを左に回します。1回目で今聞いている曲の先頭に、回すごとに手前の曲の頭出しをします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを長めに押します。

- 早送り
  「⏭」ボタンを0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。

- 早戻し
  「⏮」ボタンを0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT」ボタンを押します。
②表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT」ボタンを押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RDM」ボタンを2秒以上押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RDM」ボタンを押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

●マガジンの取り扱い

マガジンのチェンジャーへの挿入、チェンジャーからの排出方法、マガジンへのCD挿入、マガジンからのCD排出方法、その他のCDチェンジャーに関する注意は、CDチェンジャーに付属している取扱説明書をご覧ください。

■時計

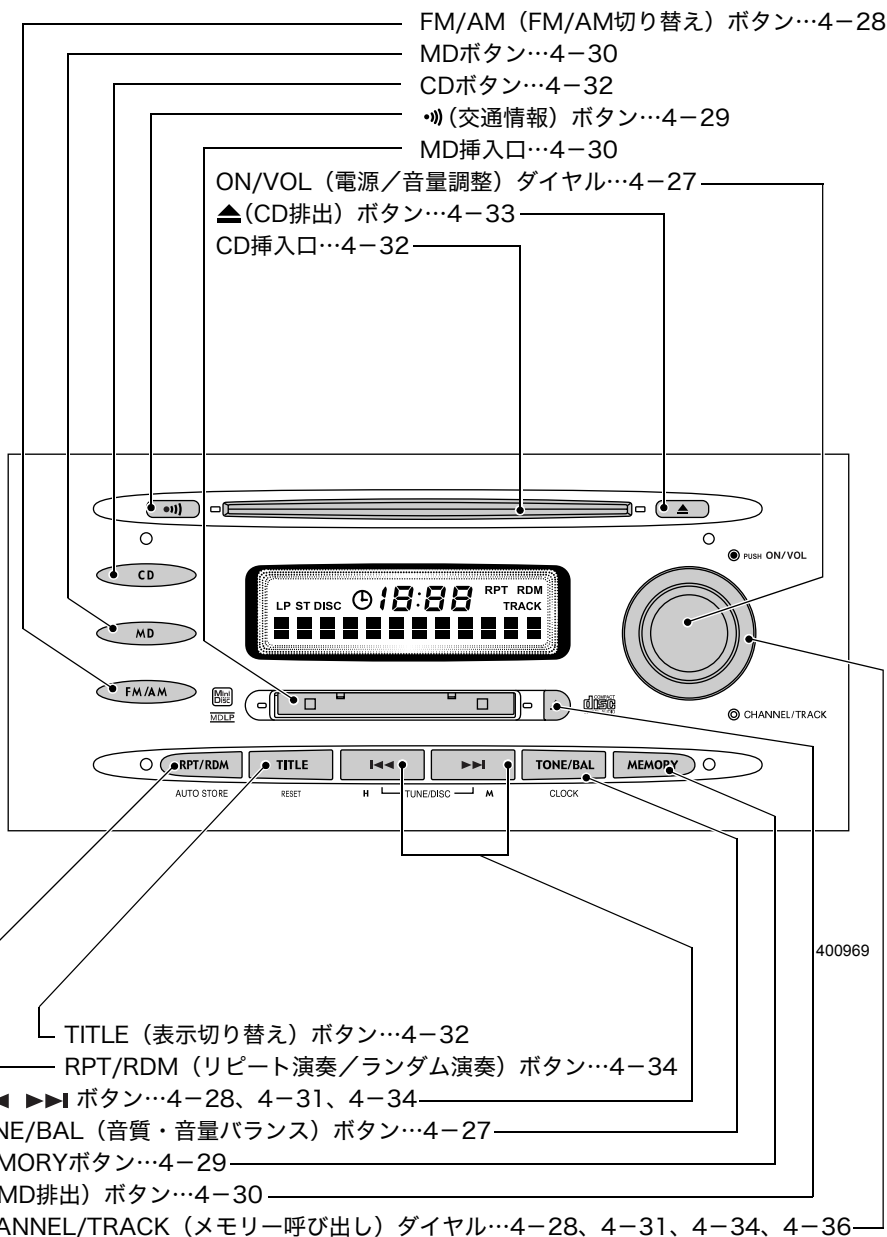
●時計を合わせるとき

「TONE/BAL」ボタン*を押しながら「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを押して、時刻を合わせます。
＊時計を合わせるときは「TONE/BAL」ボタンが「CLOCK」ボタンとなります。

時（H）の調整：「TONE/BAL」ボタンを押しながら「⏮」ボタンを押します。
分（M）の調整：「TONE/BAL」ボタンを押しながら「⏭」ボタンを押します。

- 時報に合わせて時刻を調整するとき
  時報と同時に「TONE/BAL」ボタンを押しながら「RDM」ボタン*を押します。

＊時計を合わせるときは「RDM」ボタンが「RESET」ボタンとなります。
（例）
11：30〜12：29 の場合…12：00
12：30〜１：29 の場合…１：00

AM／FMマルチ電子チューナー・CD・MDプレーヤー

■電源、音量・音質の調整

●電源を入れるとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、「ON/VOL」ダイヤルを押すごとに電源がON・OFFします。
電源がONになると、前に電源をOFFにしたときのモードになります。

アドバイス

次の操作を行っても電源をONにすることができます。
- CDを挿入したとき
- MDを挿入したとき
- 「CD」ボタン*、「MD」ボタン*、「FM/AM」ボタン、「•))」ボタンを押したとき

　*「CD」ボタンはCDが挿入されているとき
　　「MD」ボタンはMDが挿入されているとき

●音量を調整するとき

「ON/VOL」ダイヤルを回して調整します。
　右に回す：音が大きくなります。
　左に回す：音が小さくなります。

●音質と前後・左右の音量バランスを調整するとき

①「TONE/BAL」ボタンを押して調整モードを選択します。
　ボタンを押すごとに

　と、切り替わり、表示部に表示されます。
②「|◀◀」ボタンまたは「▶▶|」ボタンを押してお好みの位置に調整します。

モード（調整レベル表示）	|◀◀	▶▶|
BASS（低音）（−6〜+6）	低音減衰	低音強調
MIDDLE（中音）（−6〜+6）	中音減衰	中音強調
TREBLE（高音）（−6〜+6）	高音減衰	高音強調
BALANCE（左右）（L9〜R9）	右側減衰	左側減衰
FADER（前後）*（R9〜F9）	前側減衰	後側減衰

*オプションのリヤスピーカーをつけたときの機能です。

R1 RJ1-017001〜018400, RJ2-011001〜011400

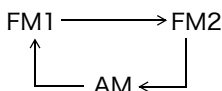
アドバイス

調整時、5秒間操作を行わないと、通常表示に戻ります。

■ラジオを聞くとき

●FM/AMを受信するとき

「FM/AM」ボタンを押します。

- バンドを切り替えるとき
  「FM/AM」ボタンを押し、バンドを選択します。
  ボタンを押すごとに

と、切り替わり、表示部に表示されます。

●選局するとき

「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを押します。

- 周波数に合わせて放送を聞くとき
  「⏮」ボタンを押す：
  ボタンを押すごとに周波数の低い方へ1ステップずつ切り替わります。
  「⏭」ボタンを押す：
  ボタンを押すごとに周波数の高い方へ1ステップずつ切り替わります。

- 自動的に放送局を探すとき
  「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを0.5秒以上押します。放送局が見つかると受信を始めます。
  「⏮」ボタンを押す：
  周波数の低い方へ放送局を探します。
  「⏭」ボタンを押す：
  周波数の高い方へ放送局を探します。

アドバイス

- AM放送はモノラル受信のみです。
- FMステレオ放送受信中は表示部に“ST”が点灯します

●記憶させた放送局を呼び出すとき

「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを回してチャンネル番号を選択します。

アドバイス

バッテリーを交換したときなどは記憶した内容が消去されます。この場合は再度記憶させてください。
☆4－29ページ参照

●交通情報を聞くとき

「•))」ボタンを押します。
どのモードからでも自動的に切り替わります。
もう一度押すと、直前のモードに切り替わります。

■ラジオの放送局を記憶するとき

●手動で放送局を記憶するとき

①「FM/AM」ボタンを押してバンドを選択します。
②「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを操作し、記憶したい放送局を選択します。
③「MEMORY」ボタンを押し続けると選択した周波数が点滅し、その後「ch」が点滅します。
④「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを回して記憶したいチャンネル番号（1～6 ch）を選択します。
⑤「MEMORY」ボタンを2秒以上押します。
⑥ 以降、同様に②～⑤の手順を繰り返し、他のチャンネルに放送局を記憶できます。

各バンド（FM1、FM2、AM）で最大6局まで記憶できます。

●自動的に放送局を記憶するとき（AUTO STORE）

①「FM/AM」ボタンを押してバンドを選択します。
②「RPT/RDM」ボタン*を2秒以上押します。
受信可能な放送局が見つかると、チャンネル1から自動的に周波数の低い順に記憶されます。
＊ラジオ受信モードでは「RPT/RDM」ボタンが「AUTO STORE」ボタンとなります。

アドバイス

受信電波が弱いと自動的に記憶できないことがあります。

●交通情報局をかえるとき

①「•))」ボタンを押して交通情報を選択します。
②「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを押して選局します。
③「•))」ボタンを2秒以上押すと、選局した交通情報局を記憶させることができます。

■MDを聞くとき

●MDを挿入する

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、MDを挿入することができます。MDのラベル面を上にし、シャッター面を右側にしてMD挿入口に入れます。MDを挿入すると演奏が始まります。MD演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

- MDが挿入されているとき
  「MD」ボタンを押すと演奏が始まります。MD 演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

アドバイス

- MD が挿入されていないとき、MD 挿入口の両端の表示灯は点灯しています。MDを挿入すると表示灯は消灯します。
- MDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“ERROR－○”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してMDを取り出してください。MD に傷や変形がないこと、また MD プレーヤーに対応している MD が正しく挿入されていることを確認してください。MD が取り出せない場合、もしくはMDを交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。

●MDLPを聞くとき

通常のMDと同じ操作で聞くことができます。

アドバイス

- MDLP再生中は表示部に“LP”が点灯します。
- データ用のMDは使用できません。音楽用のMDを使用してください。

●演奏を停止するとき

「ON/VOL」ダイヤルを押すか、他のモードに切り替えます。
または「⏏」ボタンを押してMDを排出します。

●MDを取り出すとき

「⏏」ボタンを押します。MDが排出され、前のモードに切り替わります。

エンジンスイッチがOFFでもMDの排出をすることができます。

●選曲するとき

「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを回します。

- 先の曲にするとき
  「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを右に回します。回すごとに先の曲を頭出しします。

- 手前の曲にするとき
  「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを左に回します。1回目で今聞いている曲の先頭に、回すごとに手前の曲の頭出しをします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを長めに押します。

- 早送り
  「⏭」ボタンを0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。

- 早戻し
  「⏮」ボタンを0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

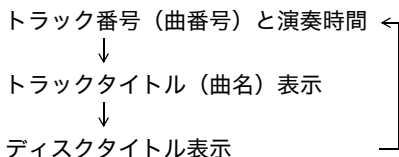
① 曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを押します。
② 表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③ 解除するには再度「RPT/RDM」ボタンを押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

① 曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを2秒以上押します。
② 表示部に“RDM”が点灯します。
③ 曲を自動的に選び演奏します。
④ 解除するには再度「RPT/RDM」ボタンを押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

●表示部の表示を切り替えるとき

MD再生時、「TITLE」ボタンを押すごとに表示の切り替えができます。

トラック番号（曲番号）と演奏時間 ←
↓
トラックタイトル（曲名）表示
↓
ディスクタイトル表示

アドバイス

- 漢字、ひらがなで入力されたタイトルは表示できません。
- タイトル文字は1回に12文字まで表示できます。
- タイトル名が13文字以上の場合、タイトル表示中に「TITLE」ボタンを2秒以上押し続けるごとに、13文字以降のタイトルを表示します。
- MD　にタイトルが記録されていない場合は表示しません。その場合“no name”と表示します。

■CDを聞くとき

●CDを挿入する

エンジンスイッチがAccまたはONのとき、CDを挿入することができます。
ラベル面を上にしてCD挿入口に差し込みます。CDを挿入すると演奏が始まります。CD演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

- CDが挿入されているとき
  「CD」ボタンを押すと演奏が始まります。CD演奏中はトラック番号（曲番号）と演奏時間を表示します。

アドバイス

- 8 cm CDは8 cm CDアダプターを使用せず、そのまま挿入してください。アダプターを使用すると、ディスクが取り出せないなど、損傷の原因となります。
- CD が挿入されていないとき、CD 挿入口の両端の表示灯は点灯しています。CDを挿入すると表示灯は消灯します。
- 音楽用CD-R、CD-RWに記録された音楽データを再生できます。ただし、CDの録音条件、特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。ファイナライズ（通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理）をされていないCD-R、CD-RWは再生できません。
- CD-ROMやMP3*、WMA*で記録されたCDは再生できません。
- CD・TEXTについては対応しておりません。
- CDプレーヤーが動作しなくなった場合は、表示部に“ERROR－○”と表示されます。表示された場合は、「⏏」ボタンを押してCDを取り出してください。CDに傷や変形がないこと、またCDプレーヤーに対応しているCDが正しく挿入されていることを確認してください。CD が取り出せない場合、もしくはCD を交換しても表示が消えない場合はスバル販売店で点検を受けてください。
  ＊音楽データを圧縮して記録する方式

●演奏を停止するとき

「ON/VOL」ダイヤルを押して電源を切るか、他のモードに切り替えます。

●CDを取り出すとき

「⏏」ボタンを押します。CDが排出され、前のモードに切り替わります。

アドバイス

- 排出された CD を 15 秒以上そのままにしておくと自動的に引き込まれます。（エンジンスイッチがAccまたはONの場合）この場合、CDの再生モードに切り替わらずそのままの状態です。CDを聞くときは再度「CD」ボタンを押してください。
- エンジンスイッチがOFFでもCDの排出をすることができます。
- CDが未挿入のときでも「⏏」ボタンを押すと、CD排出機構が動作し、動作音が聞こえます。

●選曲するとき

「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを回します。

- 先の曲にするとき
  「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを右に回します。回すごとに先の曲を頭出しします。

- 手前の曲にするとき
  「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを左に回します。1回目で今聞いている曲の先頭に、回すごとに手前の曲の頭出しをします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを長めに押します。

- 早送り
  「⏭」ボタンを0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。

- 早戻し
  「⏮」ボタンを0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを押します。
②表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT/RDM」ボタンを押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを2秒以上押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RPT/RDM」ボタンを押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

■オプションのCDチェンジャーを接続したとき

●演奏するとき

エンジンスイッチがAccまたはONのとき「CD」ボタンを押すと演奏が始まります。
表示部に“DISC”が点灯し、ディスク番号とトラック番号（曲番号）が表示されます。

アドバイス

- CDプレーヤー本体にCDが挿入されているときは「CD」ボタンを押すごとに、CDプレーヤーでの再生⇔CDチェンジャーでの再生に切り替わります。
- CDチェンジャーにマガジン*が装着されていないときは、“NO MAGAZINE”と表示します。マガジンにCDが挿入されていないときは、“NO DISC”と表示します。
  *マガジン：
  CDを入れる入れ物のことです。このマガジンにCDを入れ、CDチェンジャーに装着するとCDチェンジャーが使用可能となります。
- CDの再生はディスク番号1→2→3→4→5→6→1…の順で再生されます。また、CDの入っていないディスク番号は飛ばして再生します。
- CDチェンジャーが動作しなくなった場合は、表示部に“ERROR－○”と表示されます。表示された場合は、マガジンを取り出してください。マガジンに挿入されているCDに傷や変形がないこと、またCDチェンジャーに対応しているCDが正しく挿入されていることを確認してください。詳しくは、CDチェンジャーに付属している取扱説明書をご覧ください。

●演奏を停止するとき

「ON/VOL」ダイヤルを押して電源を切るか、他のモード（ラジオ、CD）に切り替えます。

●演奏するCDを指定するとき

「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを押します。

- 先のCDにするとき
  「⏭」ボタンを押します。押すごとに先のCDを再生します。
- 手前のCDにするとき
  「⏮」ボタンを押します。押すごとに手前のCDを再生します。

アドバイス

マガジンにCDが装着されていない番号を指定したときは次のCDを再生します。

●選曲するとき

「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを回します。

- 先の曲にするとき
  「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを右に回します。回すごとに先の曲を頭出しします。

- 手前の曲にするとき
  「CHANNEL/TRACK」ダイヤルを左に回します。1回目で今聞いている曲の先頭に、回すごとに手前の曲の頭出しをします。

●曲の早送り、早戻しをするとき

「⏮」ボタンまたは「⏭」ボタンを長めに押します。

- 早送り
  「⏭」ボタンを0.5秒以上押すと早送りされます。手を離したところから演奏を始めます。

- 早戻し
  「⏮」ボタンを0.5秒以上押すと早戻しされます。手を離したところから演奏を始めます。

●同じ曲を繰り返し聞くとき（リピートプレイ）

①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを押します。
②表示部に“RPT”が点灯し、演奏中の曲を繰り返し演奏します。
③解除するには再度「RPT/RDM」ボタンを押します。表示部の“RPT”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

●曲を自動的に選ばせて聞くとき（ランダムプレイ）

①曲の演奏中に「RPT/RDM」ボタンを2秒以上押します。
②表示部に“RDM”が点灯します。
③曲を自動的に選び演奏します。
④解除するには再度「RPT/RDM」ボタンを押します。表示部の“RDM”が消灯し、通常の演奏に戻ります。

●マガジンの取り扱い

マガジンのチェンジャーへの挿入、チェンジャーからの排出方法、マガジンへのCD挿入、マガジンからのCD排出方法、その他のCDチェンジャーに関する注意は、CDチェンジャーに付属している取扱説明書をご覧ください。

■時計

●時計を合わせるとき

「TONE/BAL」ボタン*を押しながら「 ⏮ 」ボタンまたは「 ⏭ 」ボタンを押して、時刻を合わせます。
＊時計を合わせるときは「TONE/BAL」ボタンが「CLOCK」ボタンとなります。

時（H）の調整：「TONE/BAL」ボタンを押しながら「 ⏮ 」ボタンを押します。
分（M）の調整：「TONE/BAL」ボタンを押しながら「 ⏭ 」ボタンを押します。

- 時報に合わせて時刻を調整するとき
  時報と同時に「TONE/BAL」ボタンを押しながら「TITLE」ボタン*を押します。

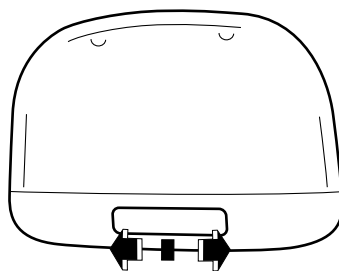
＊時計を合わせるときは「TITLE」ボタンが「RESET」ボタンとなります。
（例）
11：30〜12：29 の場合…12：00
12：30〜 1 ：29 の場合… 1 ：00

室内装備

室内の照明

■ルームランプ

車内の天井中央にあります。
スイッチの位置により切り替えができます。

ON　　：常に点灯します。
DOOR：ドアを開けると点灯し、閉めると一定時間点灯後消灯します。
OFF　：常に消灯します。

●オフディレイ機能

DOOR位置にしているとき、ドアを開けて閉めたときに約30秒間減光点灯し、徐々に消灯していきます。（オフディレイ機能）
この機能は、スバル販売店にて消灯までの時間を設定できます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆1－2ページ参照

●キー抜き連動機能

DOOR位置にしているとき、エンジンスイッチからキーを抜くと約30秒間点灯し、徐々に消灯していきます。

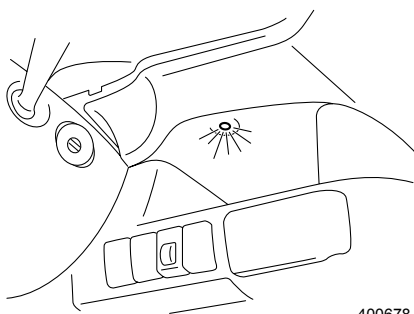
●バッテリー上がり防止機能

半ドアなどでルームランプが点灯し続けた場合、バッテリー上がりを防止するため、約30分後に自動的に消灯します。

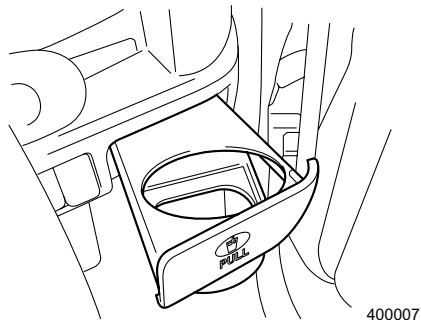
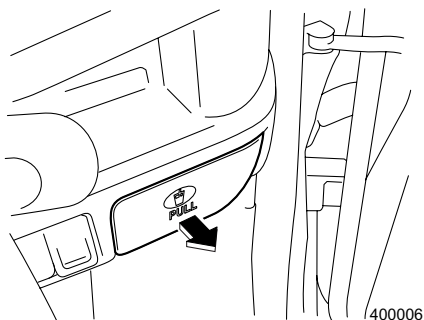
☆2－2ページ参照

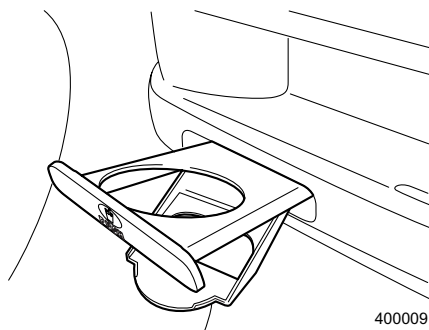
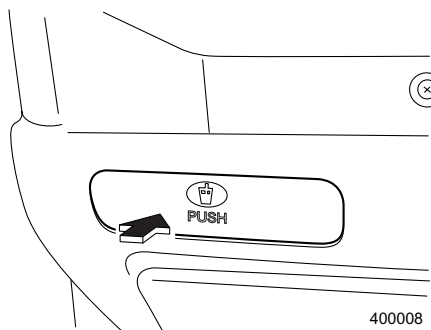
■インパネシャワーライト

インストルメントパネル左右のカップホルダーおよびポケット部を照らします。
ライティングスイッチを●または≣Dにすると常時点灯します。

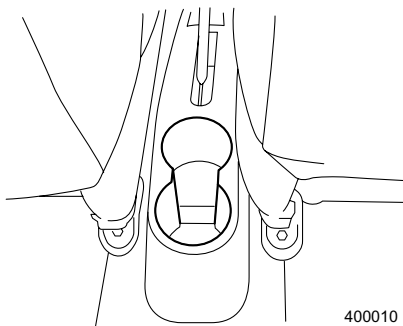
☆3－5ページ参照

カップホルダー

■運転席用

フタを引くとカップホルダーとして使用できます。

■助手席用

フタを押し、さらに引き出すとカップホルダーとして使用できます。

■後席用

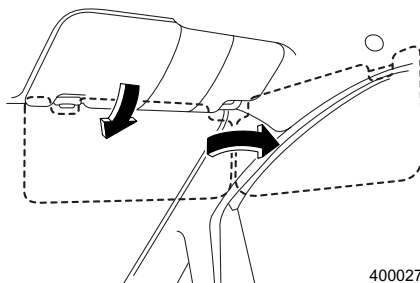
●センターコンソール

センターコンソール後方にカップ、コーヒー缶などを置くことができます。

400010

⚠ 警告

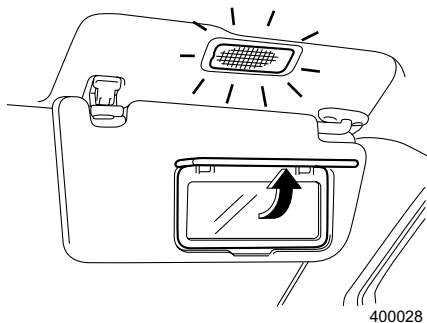
- 飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行ってください。走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物などはやけどのおそれがありますのでご注意ください。

サンバイザー

横に回すときはフックから外して使用します。
運転席側にはチケットホルダーが付いています。

400027

■照明付バニティミラー

運転席と助手席のサンバイザー裏側に鏡がついています。フタを開けると照明が点灯します。必要のないときは、必ずフタを閉めてください。

400028

⚠ 注 意

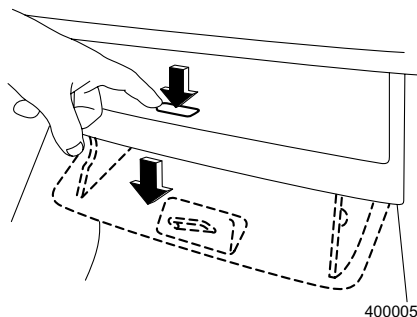
走行中は必ずフタを閉めてください。

小物入れ

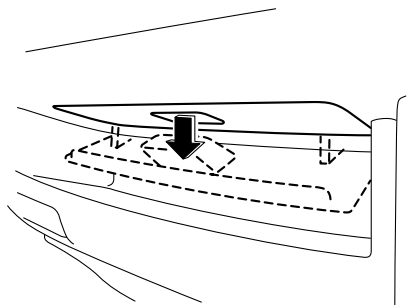
⚠ 注 意

走行中は必ず閉めておいてください。
万一の場合、フタに体が当たったり、中に入れたものが飛びだして思わぬけがをするおそれがあります。
炎天下での駐車は大変高温になりますので、メガネやライターなどを収納しないでください。

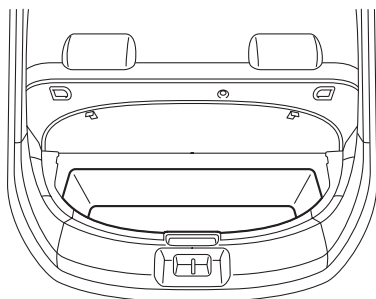
■グローブボックス

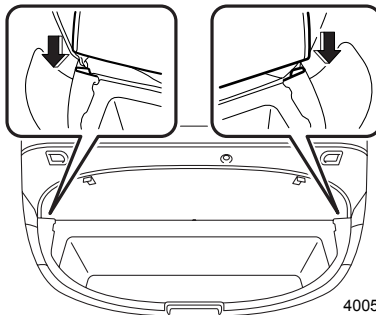
小物や書類を入れるのに使います。棚の中央にあるボタンを押すとフタが開きます。

400005

■車検証入れ

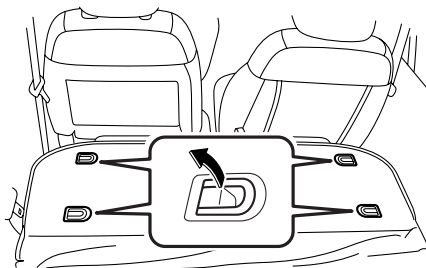
フタを引くと開きます。

400004

サブトランク

カーゴルーム床下に小さい荷物を収納することができます。三角停止表示板も収納できます。

400537

また、フタは立てかけて固定することができます。フタの両端を溝に差し込んでください。フタが確実に固定されているか確認してください。

400567

カーゴフック

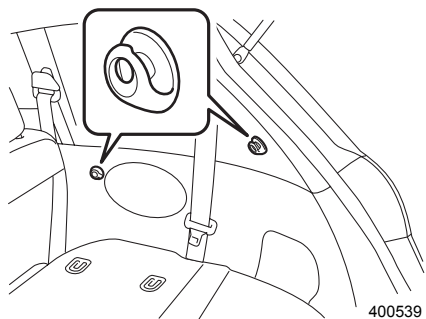
リアシート背当てに４か所取り付けてあります。
背当てを倒しカーゴルームを広げた場合、カーゴルームネットなどを引っかけるときに使用します。

400540

⚠ 注 意

カーゴフックはカーゴルームネットなどに軽量物の固定、引っかけの用途だけに限定してください。

許容引張り荷重	20 kg

買い物フック

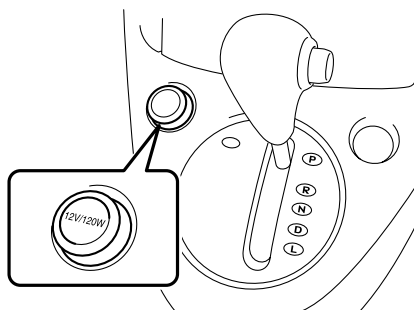
買い物袋などが転がらないようにするときに利用します。
袋の底を床につけ、手提げ部分をフックに巻きつけて利用してください。

400539

⚠ 注 意

このフックは買い物袋など軽量物の引っかけ用途だけに限定してください。

許容引張り荷重	5 kg

電源ソケット

エンジンスイッチが Acc または ON のとき12V直流電流が取り出せます。
自動車用電気製品の電源ソケットとしてご使用ください。

400544

⚠ 注 意

ソケットから電源を取るとき

スバル純正品の使用をお奨めします。
また、自動車用電気製品は必ず12V120W以下のものをご使用ください。

- タコ足配線はしないでください。発火することがあります。
- 銀紙、硬貨などの異物を入れないでください。
- 電源ソケットにプラグが合わない（ガタがあったり、きつくて入らない）場合は、接触不良や抜けなくなる原因となります。ソケットに合ったプラグをご使用ください。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますのでご注意ください。また、走行中の使用でも不要になったら切るように心がけてください。

5 寒冷地での使いかた

冬の前の準備、点検

■冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換

雪道や凍結路では、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着して走行してください。
雪道や凍結路の走行が事前に予測される場合には、あらかじめ冬用タイヤを装着しておいてください。

アドバイス

- 装着についての条例は地区によって異なることがあります。走行する地区の条例にしたがってください。
- 装着のときは、下記事項をお守りください。
  - ４輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

■タイヤチェーンの装着

- タイヤチェーンは予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常時のみ、前輪に装着してください。後輪にはタイヤチェーンを装着しないでください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
- タイヤチェーンは付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンを取り付けるときに着用する手袋なども準備しておくことをお奨めします。
- タイヤチェーンを装着しても路面の状況によっては極低速でスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
- アルミホイール、フルホイールキャップ装着車にタイヤチェーンを取り付けると、アルミホイール、フルホイールキャップが傷つく場合があります。

R1 RJ1-017001～018400, RJ2-011001～011400

⚠ 注 意

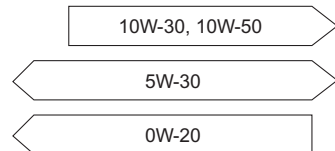
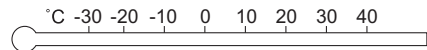
- タイヤチェーンを取り付けると前後輪の接地力のバランスが変わるため、後輪が比較的滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 乾いた路面を走行するとチェーンの寿命を短くします。できるだけ避けてください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、後輪タイヤをパンクした前輪に取り付け、後輪に応急用スペアタイヤを取り付けます。そして前輪にタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認してください。
- タイヤチェーン装着後はゆっくりと走行し（100 m程度）、異音やタイヤチェーンのゆるみなどを確かめてください。

■タイヤサイズに合ったものを使用してください

タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。
市販のゴムネットチェーンの中には装着できないものもあります。
詳しくは、スバル販売店にご相談ください。

タイヤサイズ	スバル純正タイヤチェーン			市販JIS チェーン
	スチール チェーン	スプリング チェーン	サイルチェーン	
155/60R15	装着不可	B3177KG010	装着不可	装着不可

■エンジンオイル

右図を参考に、外気温度に応じたエンジンオイルをご使用ください。

寒冷地での使いかた

アドバイス

エンジンオイルはスバル純正エンジンオイル0W-20（SM級）の使用をお奨めします。
☆8－2ページ参照

■冷却水の濃度点検

冷却水の凍結を防ぐため、スバル純正クーラント（希釈タイプあるいは濃縮タイプ）をお使いください。

- 希釈タイプは、そのままお使いください。
- 濃縮タイプは、濃度を50％の希釈割合（濃度）にしてお使いください。希釈に使用する水は、軟水または水道水をご使用ください。

■ウォッシャー液の濃度調整

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温度に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

⚠ 注 意

- 外気温度と希釈割合を合わせてください。希釈割合が適切でないとウインドゥに噴射した液が凍結し、視界不良になるおそれがあります。また、タンク内で凍結することがあります。
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物等が入らないように注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液補充後は、ウォッシャータンクからウォッシャーノズル間に残っている補充前の（濃度の低い）ウォッシャー液を除去するため噴射してください。濃度の低いウォッシャー液が残ったままだとノズルが凍結し、ウォッシャー液が出なくなる場合があります。

■バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。
必要に応じてバッテリー液の点検や補充をしてください。
別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。

■燃料タンクの水分除去

燃料タンク内の水分を除去するときは、スバル純正水分除去剤をお奨めします。

■寒冷地用ワイパーブレードの装着

- 寒冷地用ワイパーブレードは、ブレードの金属部分への雪の付着を防ぎ、降雪期の視界確保ができます。
- 寒冷地用ワイパーブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。

⚠ 注 意

高速走行時には、通常のワイパーブレードより拭き取りにくくなることがあります。その場合には、速度を落として走行してください。

アドバイス

寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時期は、通常のワイパーブレードに交換してください。

走行する前に

■足廻りの点検

車の下をのぞいて足廻り（ブレーキ廻り、ブレーキホース）に雪や氷のかたまりが付着していないか点検してください。
雪道を走行したり、吹雪の中に駐車したときは足廻りに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れやブレーキの効きが悪くなることがあります。付着している雪や氷を取り除いてください。

> ⚠ 注 意
>
> 雪や氷を取り除く場合は鋭利なものや硬いもので叩いたりして車を傷つけないでください。
> ABS装着車には各タイヤの内側にABSの車速センサーを取り付けています。これらに傷をつけないようにとくに気をつけてください。

■屋根の雪の除去

走行する前に屋根に積もった雪を取り除いてください。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。

■フロントガラス下側の雪の除去

雪がたまっているとワイパーブレードが定位置まで戻れず、作動し続けることがあります。作動し続けるとワイパーが損傷する場合がありますので、雪を除去してワイパーを使用してください。

■ガラス面の雪や霜の除去

プラスチックの板などを使用し、雪や霜を取り除いてください。

> アドバイス
>
> 金属製の板を使用するとガラスに傷がつくおそれがあります。

■ドアを開けるときには

ドアが凍結しているときに無理に開けると、ドア廻りのゴムがはがれたり、亀裂が発生することがあります。ぬるま湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。その後、すぐに水分を充分拭き取ってください。

> アドバイス
>
> ドアのキー穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

■乗るときには

靴についた雪や氷をよく落としてください。
ペダルを操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなってガラスが曇ることがあります。

■暖機運転中

アクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が円滑にできるかを確認してください。

■ワイパーなどの凍結

ワイパー、電動リモコンミラー、パワーウインドゥなどが凍って動かない場合は無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。
無理にワイパーを作動させるとワイパーブレードのゴムが切れることがあります。

ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。

- フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを (デフロスター)にしてください。
- リヤガラスは、リヤウインドゥデフォッガーを使用してください。

☆3−14、4−3ページ参照

走行するとき、駐車するとき、洗車するとき

走行するときは

■控えめな運転を心がけてください

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。なお、滑りやすい路面ではシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを避けてください。
タイヤがスリップするおそれがあります。

■ブレーキの効きを点検してください

ブレーキに雪や氷が付着して効きが悪くなることがあります。
走行を開始するとき、車や道路の状況に注意してブレーキの効きを確認してください。
効きが悪い場合には、回復するまでブレーキを軽く踏み続けてください。
ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ハンドルの切れを点検してください

走行中、足廻りに雪が付着するとハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき車を止め、足廻りを確認し、取り除いてください。
☆5－6ページ参照

■ヘッドランプを点検してください

ヘッドランプが汚れていると正常に照らせませんので、汚れを拭き取ってください。
HIDヘッドランプ装備車は、HIDランプの発熱量が少ないため雪が溶けにくい場合があります。雪を落として走行してください。

■積雪などにより、ワイパーが途中で止まったとき

車を安全な場所に停めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチをAccまたはLOCKにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

駐車するときは

■駐車ブレーキの凍結に気をつけてください

駐車ブレーキをかけておくと、駐車ブレーキが凍結することがあります。
次の要領で駐車してください。
- セレクトレバーを[P]に入れます。
- 輪止めをします。

■ボンネット側を風下に

風の当たる部分は、予想以上に低温となります。バッテリー上がりを防ぐためにもボンネット側を風下に向けて駐車してください。

■屋外に駐車するときは、ワイパーアームを立てておいてください

ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防ぎます。凍りつくとラバーにくせがつくことがあります。
ワイパーアームを立てるときは運転席側を先に起こしてから助手席側を立てます。戻すときは助手席側のワイパーアームを先に戻してから運転席側を戻してください。

洗車するときは

■凍結防止剤を散布した道路を走ったとき

早めに洗車してください。洗車するときは下廻りと足廻りも充分に洗ってください。
放置すると錆の原因となります。

■洗車のしかた

☆6−9ページ参照

■洗車後の注意

洗車後、ボディ廻りの水分をよく拭き取ってください。とくにドア廻りは凍結しやすいところです。
また、ブレーキも凍結することがありますので、後続車や道路の状況に注意して効きを確認してください。
☆6−9ページ参照

6 日常点検・車の手入れ

日常点検

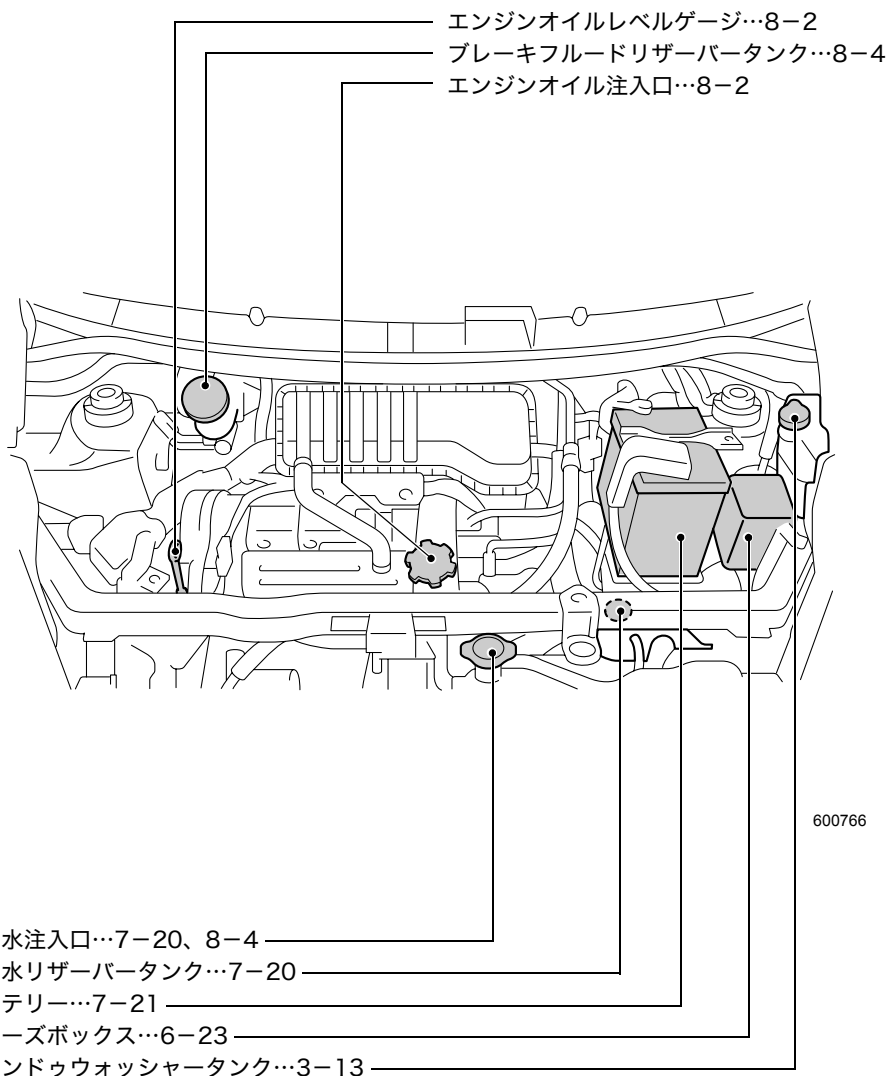
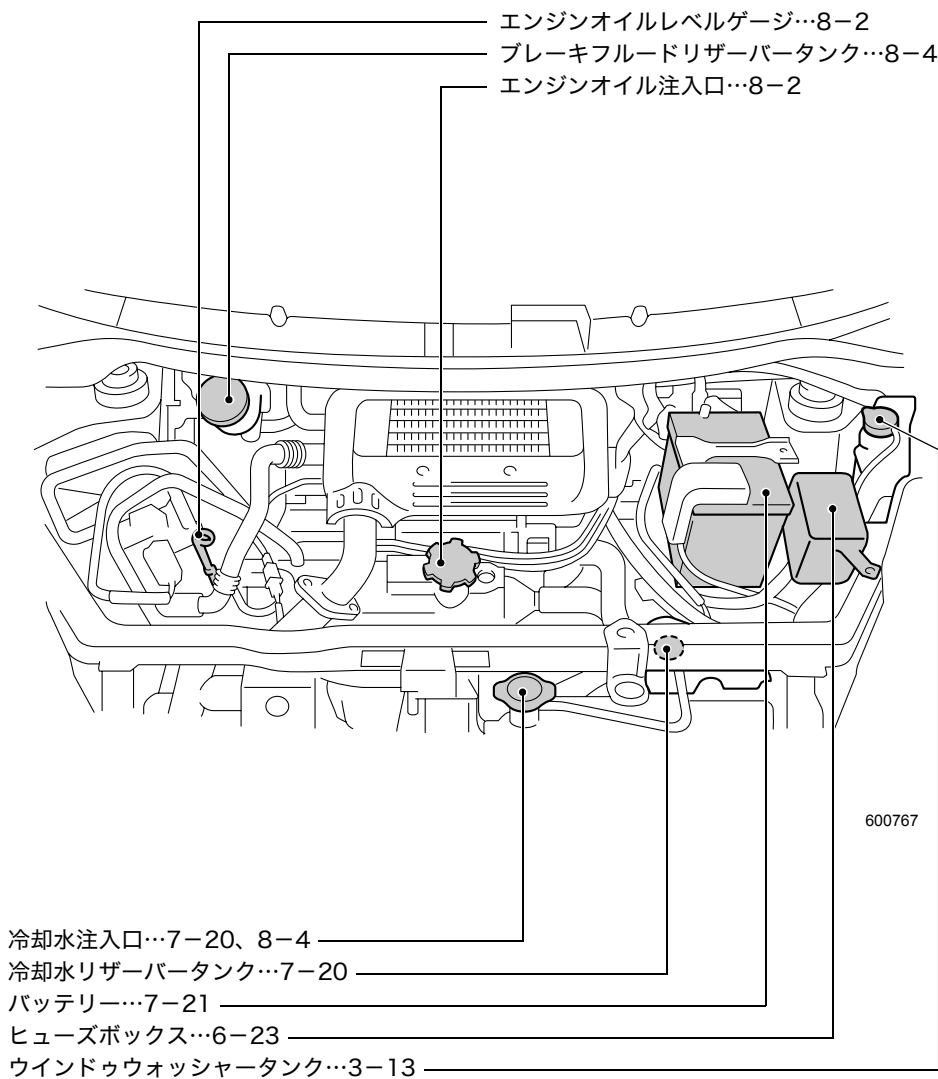
車の手入れ

日常点検

<R>

エンジンオイルレベルゲージ…8－2
ブレーキフルードリザーバータンク…8－4
エンジンオイル注入口…8－2
600766
冷却水注入口…7－20、8－4
冷却水リザーバータンク…7－20
バッテリー…7－21
ヒューズボックス…6－23
ウインドゥウォッシャータンク…3－13

<S>

エンジンオイルレベルゲージ…8−2
ブレーキフルードリザーバータンク…8−4
エンジンオイル注入口…8−2
600767
冷却水注入口…7−20、8−4
冷却水リザーバータンク…7−20
バッテリー…7−21
ヒューズボックス…6−23
ウインドゥウォッシャータンク…3−13

バッテリー液量の点検

■バッテリーの液量はときどき点検して

バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ないときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

☆7－21ページ参照

タイヤおよびホイール

■タイヤの点検

下記事項を日常的に点検してください。

- タイヤに大きな傷はないか
- くぎは刺さっていないか
- 石は噛み込んでいないか
- 異常な磨耗はないか

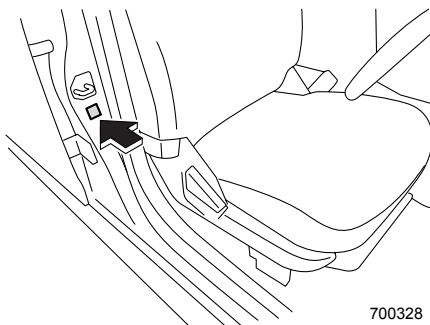
タイヤに損傷や異常摩耗が認められたときは、お近くのスバル販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

- 縁石にぶつかったときや荒れた路面を走行したときの衝撃でタイヤやホイールが目に見えない損傷を受けることがあります。縁石に乗り上げないように心がけてください。やむを得ず縁石に乗り上げる際はゆっくりと、直角に乗り上げるようにしてください。また、駐車するときはタイヤが縁石に押しつけられていないか確認してください。
- 走行中いつもと違う振動を感じたり、車両の直進性が悪いようであれば、いずれかのタイヤおよびホイールが損傷を受けている可能性があります。お近くのスバル販売店まで安全を確かめながら走行して点検を受けてください。

■タイヤ空気圧と摩耗

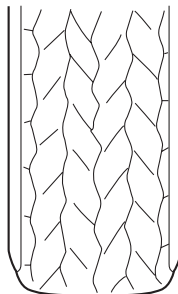
タイヤの空気圧を適正に保つことは、タイヤの寿命を延ばすだけでなく走行性能の点で非常に重要です。スペアタイヤを含むタイヤの空気圧は、最低でも月に1回は燃料補給の際等に点検し正しく調整してください。また、長距離走行の前にも必ず点検してください。

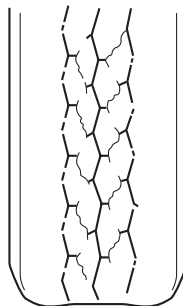
空気圧の点検は、タイヤが冷えている状態で実施してください。空気圧ゲージを使用し、タイヤ空気圧ラベルに記載されている指定値どおりに調整してください。
タイヤ空気圧ラベルは運転席側のドアを開けたボディ側に貼られています。
タイヤはわずかな距離を走っただけでも暖まり空気圧は上昇します。また、タイヤの空気圧は気温の影響も受けますので、空気圧の点検は屋外で運転開始前に行うのが最良です。
タイヤが暖まっているとタイヤの中の空気が膨張するために空気圧は高くなるので誤って空気圧を下げないでください。

700328

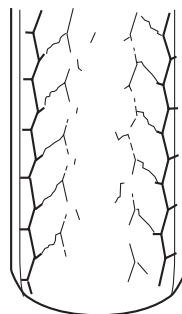
⚠ 注 意

- タイヤが暖まっているときは約 30 kPa（0.3 kgf/cm^2）空気圧が高くなります。
- タイヤが冷えている状態とは、車を３時間以上駐車しておくか、走行距離が1 km以下の走行を意味します。

タイヤ空気圧が適正でないと操縦性能や乗り心地を悪化させるとともにタイヤの偏摩耗や異常摩耗の原因となります。

- 空気圧が適正である場合…
  タイヤの接地面が均一に摩耗。
  路面との接地性が良くハンドル操作が正確になります。
  車輪の抵抗が減るため燃料消費量が減少します。

700019

- 空気圧が不足している場合…
  タイヤの接地面の端部が摩耗。
  車輪の抵抗が増えるため燃料消費量が増加します。

700020

- 空気圧が過大な場合…
  タイヤ接地面の中央部が摩耗。
  車の乗り心地が悪くなります。
  タイヤが路面の凹凸の影響を受けやすくなり、車両故障の原因になります。

700021

⚠ 警 告

とくに空気圧が低い状態のまま高速走行するとタイヤは極端に変形しタイヤ自体の温度が急激に高くなります。タイヤ温度の急激な上昇は、タイヤの接地面にセパレーション（剥離現象）を生じさせ、タイヤの破裂を引き起こす原因になることもあります。その結果、車両のコントロールを失い事故につながるおそれがあります。

■ホイールバランス

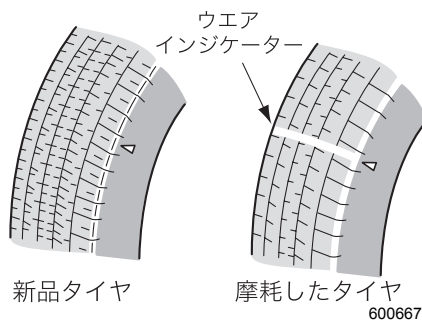
新車時、各ホイールのバランスは調整してありますが、しばらく使用するとタイヤの摩耗とともにホイールバランスが狂ってきます。
ホイールバランスが適正でないと特定の速度域でハンドルが小刻みに振動したり、直進性が悪くなったりするばかりか、ステアリング系統やサスペンションの故障およびタイヤの異常摩耗などの原因となります。ホイールバランスの狂いを感じたらスバル販売店でホイールバランスを点検・調整してください。
タイヤの修理をした際、またはタイヤを交換した際もホイールバランスの調整をしてください。

■ホイールアライメント

車両の直進性、旋回性を確保するため、あらかじめサスペンションに設定されている角度です。
縁石にぶつかったりするとホイールアライメントが狂うことがあります。

> ⚠ 注 意
>
> ホイールアライメントが狂っていると、タイヤの片側だけが摩耗したり走行安定性が低下します。タイヤの異常摩耗に気がついたらスバル販売店にご相談ください。

■ウエアインジケーター

タイヤには、ウエアインジケーター（摩耗状況を表示するもの）がついています。タイヤの接地面の溝の深さが 1.6 mm 以下になると現れます。
タイヤの接地面にウエアインジケーターが現れたときにはタイヤを交換してください。

> ⚠ 警 告
>
> ウエアインジケーターが現れたら、タイヤの摩耗が限度以上になっています。すぐにタイヤを交換してください。
> ウエアインジケーターが現れたままで雨天の高速走行をすると、ハイドロプレーニング現象*を起こしやすく、その結果車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。
> ＊水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象

> ⚠ 注 意
>
> 安全のためにタイヤの接地面を定期的に点検しウエアインジケーターが現れる前に新品と交換するよう心がけてください。

車の手入れ

日常の手入れ

■手入れのしかた

下記のような場所を走行した後や、塗装面に異物が付着した場合は、必ず洗車してください。
また、飛び石などにより、塗装面に傷がある場合、錆の原因となりますので早めに補修してください。

- 凍結防止剤を散布した道路や海岸地帯、ぬかるみ、砂地、砂利道を走行した後は、錆の原因となりますので車体の下廻り、足廻りを念入りに洗ってください。
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。

■保管のしかた

車の保管、長期間の駐車には次のような場所をお奨めします。

- 直射日光が当たらない風通しのよい場所。
- 鉄道線路わきや農薬などの化学薬品が飛散する場所、木のそばを避けます。
- いたずらされにくい場所。

アドバイス

- ラフロード等を走行し、泥や砂が床下部に付着したままで放置すると、錆の原因となります。ラフロード等の走行後には、床下部を洗車し堆積した泥や砂を洗い流してください。なお、洗車する場合は先の尖ったものや鋭利なものを使わないでください。ブレーキホースや配線等に傷をつけるおそれがあります。
- 夏期の屋外に車を止めると車内温度が非常に高くなります。可燃物（ライターやスプレー缶など）は置かないでください。また、インストルメントパネルの上、シートの上にゴム類を置かないでください。変色することがあります。
- 長い間車を使用しない場合には、駐車ブレーキを引かずにセレクトレバーを[P]に入れ、輪止めをして車が動かないようにしてください。
  また、ワイパーを立てておいてください。ブレード（ゴム）のくせ付きや汚れの付着を防止できます。
- ワイパーアームを立てるときは運転席側を先に立ててから助手席側を立てます。戻すときは助手席側のワイパーアームを先に戻してから運転席側を戻してください。
- ボディカバーについて、下記の点をお守りください。
  - スバル純正品の中から車に合ったものを選んでください。
  - ときどき水洗いして砂ぼこりなどを洗い流してください。
  - 風で飛ばされないように確実にかけてください。
  - 雨の後はボディカバーを外し、車とボディカバーを乾かしてください。

外装の手入れ

■洗車のしかた

- 水を充分かけながら洗車します。
- ボディは柔らかいスポンジやセーム皮を使って洗います。
- 足廻り、フェンダー内側、下廻りなどを洗うときはゴム手袋を着用し、ハンドブラシなどを使って洗います。泥や砂などをよく落としてください。
- 拭き残しがないようにきれいに水を拭き取ります。
- 汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。

⚠ 注 意

- エンジンルーム内には直接水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品、配線部、パワーステアリングの故障、クラッチ切れ不良、ブレーキの効き不良などの原因につながるおそれがあります。
- 洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。後続車に注意しながらブレーキの効き具合を確かめてください。

アドバイス

- スーパーチャージャー車において、ボンネットのエアインテークグリルには水をかけないでください。
- アルミホイールはセーム皮、スポンジなど柔らかいもので洗います。
  汚れがひどいときは、中性洗剤を使って洗い、ワックスがけをしてください。

●自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納してください。
- アンテナのロッドを取り外してください。
  取り付けたままだと、ルーフに傷がつく場合があります。

☆4−14ページ参照

- 自動洗車機の種類によっては、ブラシが引っかかりリヤワイパーを損傷させるおそれがあります。洗車前に自動洗車機の使いかたをよく確認し、リヤワイパーを損傷させるおそれがある場合はリヤワイパーをガムテープで固定してください。係員がいる洗車場では、係員の指示に従ってください。

●高圧洗車機を使うとき

- 洗車ノズルと車体との距離を充分離してください。(30 cm以上)
- 同じ場所を連続して洗浄しないでください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 汚れが落ちにくい場合は手洗いしてください。洗車機から噴射される温水は機種によっては高温・高圧のものがあるので、モールなど樹脂部分の変形、損傷や車内に水が入ることがあります。
- スーパーチャージャー車において、ボンネットのエアインテークグリルに洗車ノズルを近づけないでください。インタークーラーのフィンが曲がることがあります。

■ワックスのかけかた

洗車のあと、ボディの温度が体温以下のときワックスがけをします。

お使いになるワックス、コンパウンドの使用上の注意をよく読んでから使用してください。

■バンパー塗装面のお手入れ

バンパーの塗装面を末永くきれいな状態でお乗りいただくために、以下のような日常のメンテナンス方法をお奨めします。

①中性洗剤を用いてバンパーに付着した汚れをよく洗い落としてください。
②塗装表面に汚れが付着した状態で長期間放置すると、汚れが表面に固着して落ちにくくなりますので、こまめな洗車を行ってください。(少なくとも月に1回程度を目安とし、汚れが目立ってきたらその都度洗車してください。)
③洗車をしてもバンパーの汚れが落ちきらない場合は、微粒子コンパウンド、またはコンパウンド入りワックス(推奨品;サンジェット2000)を用いてのお手入れを行ってください。
④最後にワックス仕上げを行ってください。

【酸性雨に注意】
バンパーに限らず、雨(酸性雨)が降ったときは、出来る限り塗膜上の水分が蒸発する前の洗車をお奨めします。そのままの状態で時間が経過すると、塗膜が酸で侵される事があります。その他、鳥糞・虫・花粉・樹液などの付着は、放置されると塗膜を侵す原因となりますので早めに洗い落としてください。

■ガラスの手入れ

油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗浄剤を使ってきれいに落としてください。
ガラス洗浄剤はスバル純正品を使用してください。

アドバイス

- フロントガラスにワックスが付着したり、窓ガラス用水はじき剤を使用しますと、ワイパーのビビリの原因になります。
- フロントガラスにワックスが付かないよう注意してください。ガラスに被膜、油膜が付着していると、ワイパーの拭きが悪くなります。また、夜間の雨降りの場合、対向車のヘッドライトでガラスがぎらぎら光り大変危険です。
  このようなときは、油膜落とし専用のガラスクリーナーで除去してください。
- リヤガラス（電熱線）を車内から拭くときは、ガラス洗浄剤を使わず、柔らかい布などで軽く、電熱線に沿って拭いてください。洗浄剤を使うと、リヤウインドゥデフォッガーの電熱線を損傷することがあります。

内装の手入れ

① カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除きます。
② 水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
③ 直射日光を避け、風通しの良い日陰で乾燥させます。

警 告

- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤を絶対に使用しないでください。シートベルトの強度が低下し、衝突などのとき充分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 室内の清掃などで車内に水をかけないでください。
  オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると火災や故障の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やシミの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やシミ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。

■本革内装の手入れ

汚れ落としには、ウール用中性洗剤を5％濃度にうすめた液を柔らかい布に軽く含ませて拭いてください。
残った洗剤分は、真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、シミなどの原因になりますので使用しないでください。
- 本革内装表面に油汚れなどがつくとカビやシミなどの原因になります。早めに落としてください。
- 本革内装表面を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因になります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などにビニール類を本革内装の上に置かないでください。室内が高温になるとビニールが変質して本革内装に付着することがあります。

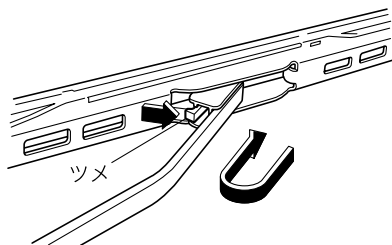
■その他の手入れ

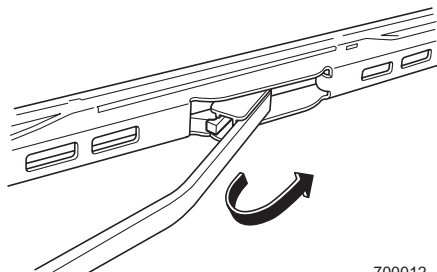
エアコン操作部、メーター、オーディオ操作部、インストルメントパネル、コンソールボックス、スイッチなどのプラスチック部品を清掃するときは、ぬれた柔らかい布を使用してください。
きれいで柔らかい布を水あるいはぬるま湯に浸し、汚れを軽く拭き取ります。

ワイパーブレードの交換

■ワイパー本体の交換

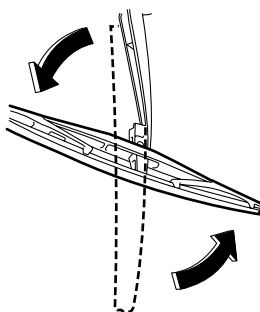
●フロント

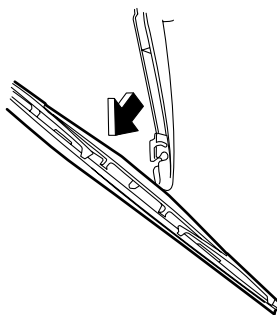
①運転席側のワイパーアームを起こしてから、助手席側のワイパーアームを起こしてください。
②ワイパーアームについているツメを押しながらブレードを矢印の方向に引いて外してください。

700370

③ ワイパーアームに新品のワイパーブレードを取り付けてください。このときブレードのフックが確実に固定されていることを確認してください。

700012

④ 手を添えながら助手席側のワイパーアームを元の位置に戻し、運転席側のワイパーアームも手を添えながら元の位置に戻してください。

●リヤ

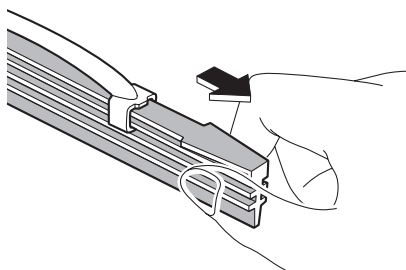
① ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを反時計回りに回してください。

700011

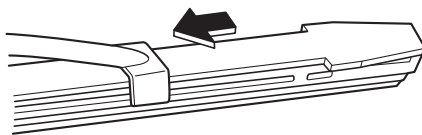
② ワイパーアームを手で支えながら、ワイパーブレードを手前に引き、取り外してください。

700013

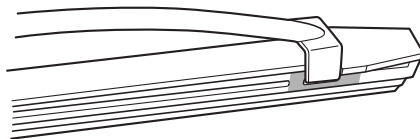
③ ワイパーアームに、新品のワイパーブレードを取り外しの逆手順で取り付けます。手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻してください。

■ブレードラバーの交換方法

●フロント

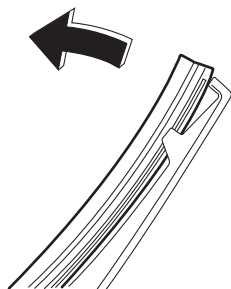
①古いブレードラバーを引き抜きます。図のように凸部分をつまんで引き抜いてください。

700014

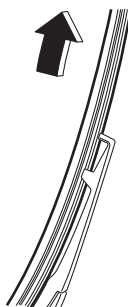
②新しいブレードラバーを挿入します。このとき、ラバーの溝を間違えないように挿入してください。

700015

③ブレードラバー先端のストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。
適切に挿入されていないとガラス面に傷をつけるおそれがあります。

700016

④確実に装着されているか、確認してからワイパーを作動させてください。
適切に装着されていないと、ガラス表面に傷をつけるおそれがあります。

●リヤ

①ブレードラバー端部をワイパーブレードから外してください。

700017

②ワイパーブレードのツメ部からブレードラバーを引き抜いてください。

700018

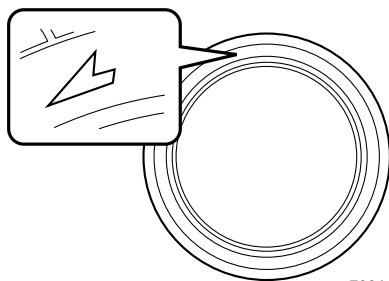
③ワイパーブレードに新品のワイパーブレードラバーを挿入してください。このとき、ブレードラバーの溝部にワイパーブレードのツメ部が挿入されていることを確認してからワイパーを作動させてください。適切に装着されていないと、ガラス面に傷をつけるおそれがあります。

アドバイス

- ワイパーブレード本体およびブレードラバー（ゴム）はスバル純正品をご使用ください。純正品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- ブレードラバーは交換部品です。傷んだままのブレードラバーを使い続けるとガラスに傷をつけるおそれがあります。払拭性能が落ちてきたり、スジつきが目立つようになったら早めに交換してください。
- ブレードラバーの寸法は下記のとおりです。
  フロント
  　運転席側：550 mm
  　助手席側：350 mm
  リヤ　　　：305 mm
- 起こしたワイパーを戻すときは、手を添えながら、ゆっくりとウインドゥガラス面へ戻してください。スプリングの力だけで離れた位置から戻すとワイパーアームの変形や、フロントガラスに傷がつくことがあります。

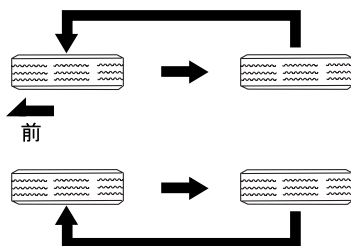
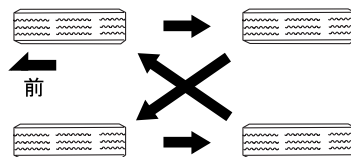
タイヤ・ホイールの交換

■回転方向指定タイヤ

回転方向が指定されているタイヤには回転方向マークが表示されています。タイヤを取り付けるときには回転方向マークを前進方向に合わせてください。左右を入れ替えないでください。

700419

■タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

タイヤの摩耗は、各タイヤごとで異なります。タイヤの寿命を延ばすには、タイヤの摩耗を均一にする必要があります。5,000 kmごとに前後のタイヤの位置交換を行うことが最善です。

〈回転方向指定タイヤの場合〉　**〈回転方向指定タイヤ以外の場合〉**

アドバイス

タイヤの位置交換をする際は、タイヤの偏摩耗や損傷を確認し、必要に応じてタイヤを交換してください。
タイヤの位置交換後、タイヤ空気圧を調整しホイールナットの締め付けを確認してください。
約 1,000 km 走行後にホイールナットの締め付け具合を点検してください。いずれかのナットがゆるんでいるようであれば締め付け直してください。

■タイヤの交換

ホイールおよびタイヤは単なる付属品ではなく、設計上でも大変重要な役割を果たしています。
車には、走行性能と乗り心地と寿命をバランスさせた、車の性格に最も合ったタイヤが標準装備として取り付けられています。タイヤを交換する際は、タイヤ空気圧ラベルに指定されているタイヤを使用してください。
タイヤを交換するときは、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

⚠ 警 告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着すると、車両の駆動系の損傷につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
  - 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
  - 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
  - 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
  - タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
  - 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

☆7－3ページ参照

なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

- ラジアルタイヤ以外は装着しないでください。操縦性を危険なものにし、事故につながるおそれがあります。

■ホイールの交換

- ホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のホイールを取り付けてください。
- ホイールのサイズはサービスデータをご覧ください。

☆8－6ページ参照

⚠ 警 告

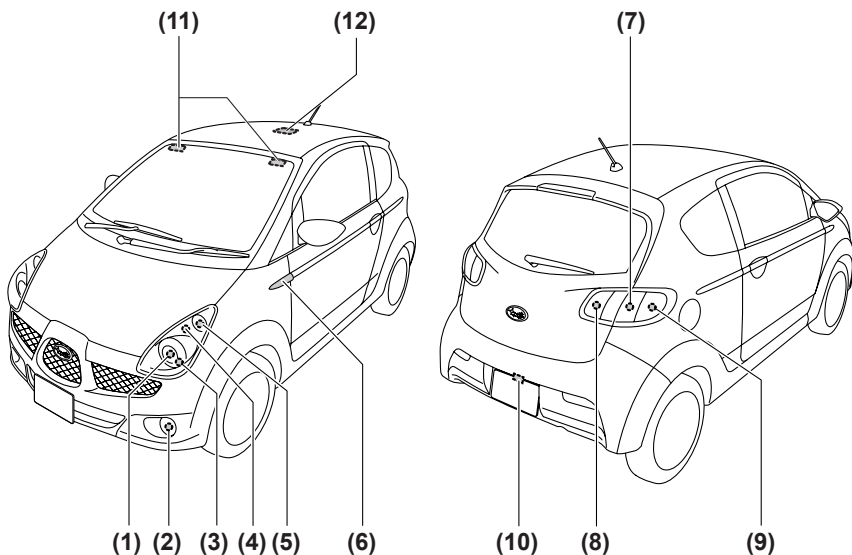
仕様違いのホイールを装着しないでください。ホイールがブレーキに接触したり、タイヤと車体とのすき間が変わることで操舵時にタイヤが車体に接触し、車両のコントロールができなくなり、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ホイールは、リムサイズやオフセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、スバル販売店にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限がありますので、交換するときはスバル販売店にご相談ください。
- タイヤやホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実にとってください。

R1 RJ1-017001～018400, RJ2-011001～011400

バルブ（電球）の交換

交換方法が記載されていない電球の交換につきましてはスバル販売店にご相談ください。

番号	バルブ（電球）		容量	バルブ形式
(1)	前照灯（ヘッドランプ）	ハロゲン装着車	12V-60/55W	HB2
		HID装着車	12V-35W	D2S
(2)	前部霧灯（フロントフォグランプ）		12V-51W	HB4
(3)	車幅灯（ポジションランプ）	ハロゲンバルブ装着車	12V-5W	W5W
(4)	車幅灯（ポジションランプ）	HIDバルブ装着車	12V-5W	W5W
(5)	前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯		12V-21W	WY21W
(6)	側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯		12V-5W	※
(7)	尾灯 兼 制動灯		12V-5W/21W	W21/5W
(8)	後退灯		12V-21W	W21W
(9)	後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯		12V-21W	WY21W
(10)	ライセンスランプ（番号表示灯）		12V-5W	W5W
(11)	バニティミラーランプ		12V-5W	舟形バルブ
(12)	ルームランプ		12V-8W	舟形バルブ

※バルブ交換時はランプASSY交換になります。
ハイマウントストップランプはLEDタイプとなります。交換はスバル販売店にご相談ください。

⚠ 警 告

HID ヘッドランプは高電圧を使用しています。不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。HID ヘッドランプのバルブ交換はスバル販売店にご依頼ください。

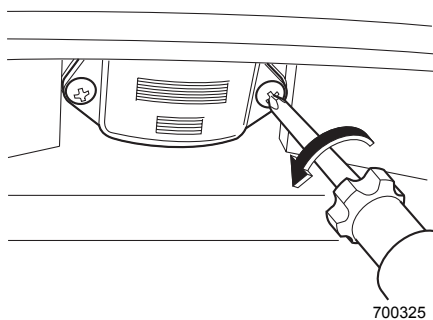
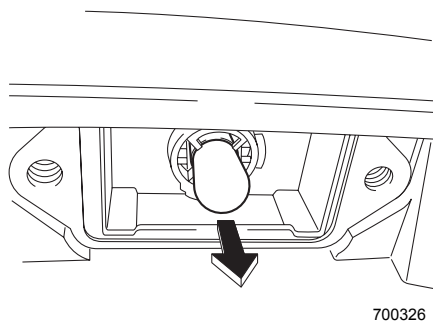
⚠ 注 意

- 定められたワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、車両火災の原因につながるおそれがあります。
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると損傷してガラスが飛び散ることがあります。取り扱いには充分に注意してください。
- ハロゲンバルブの電球の表面に手などが触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤のうすい水溶液を柔らかい布に含ませてよく拭き取ってください。

アドバイス

- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときや、ランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。
- 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。
  電球のソケットなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
- ヘッドランプを交換したときは法令で定められた光軸調整が必要となります。
  スバル販売店にご相談ください。
- マイナスドライバーを使用してレンズを取り外すときは、レンズを傷付けないために、ドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってください。
- レンズをネジで締め付けるとき、締め過ぎてレンズを割らないように気をつけてください。

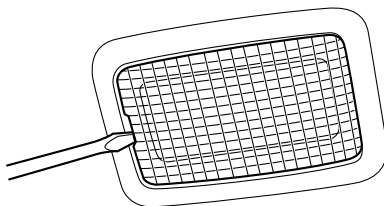
■ライセンスランプ（番号灯）

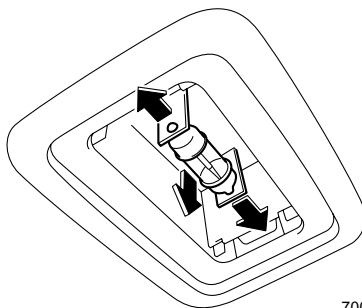
① ネジ（2本）をゆるめ、レンズを外します。

② ソケットから電球を引き抜きます。

アドバイス

レンズを外すとき

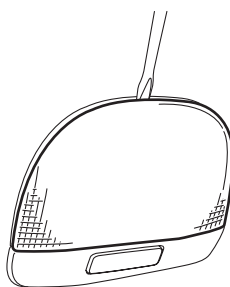
レンズを傷つけないよう、なるべく細いマイナスドライバーを使ってください。

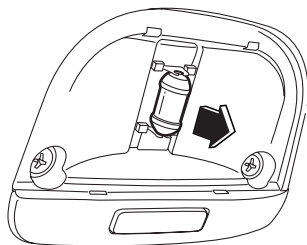
■バニティミラーランプ

①レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。

700006

②電球を取り外します。

700007

■ルームランプ

①レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。

700337

②電球を引き抜きます。

700025

■その他のランプ

電球交換の作業が難しいため、スバル販売店へ依頼してください。

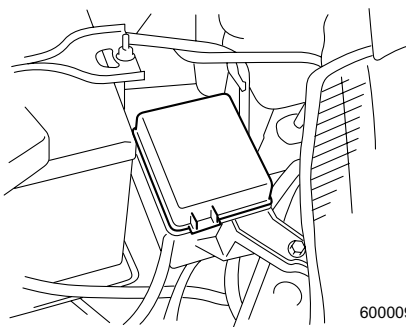
ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていないのに、ランプが点灯しない、電気装置が動かないときは、ヒューズ切れやバルブ（電球）切れが考えられます。
この場合、以下の手順で確認してください。
①エンジンスイッチを「LOCK」の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
- 故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスカバー、グローブボックス裏の表示で確認し、点検します。

③切れているときは、ヒューズを交換します。

■ヒューズボックスの位置

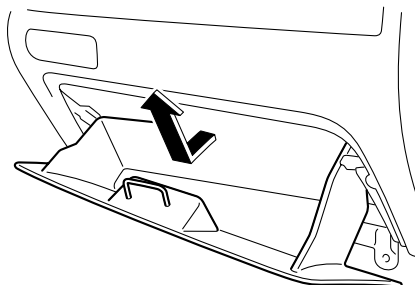
●エンジンルーム内

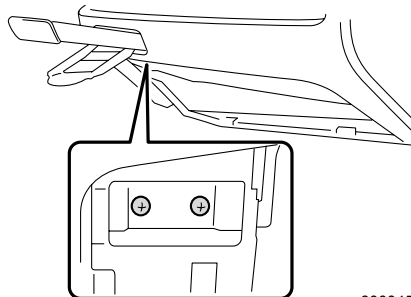
ボンネットを開け、ヒューズボックスカバーを取り外します。

600009

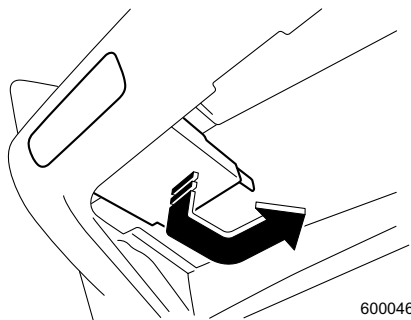
●室内

助手席側グローブボックスの奥にあります。

▼取り外し手順

①助手席側のグローブボックスを引き取り外してください。

600044

②カップホルダーを引き出し、カップホルダーの下側にある2本のネジを外します。

600045

③カップホルダーを一旦戻して、内側から図のように抜き取ります。

600046

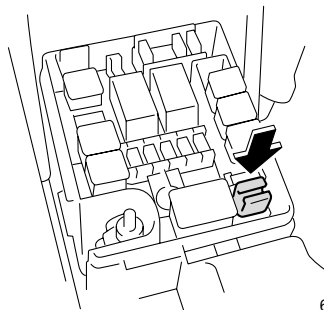
▼取り付け手順

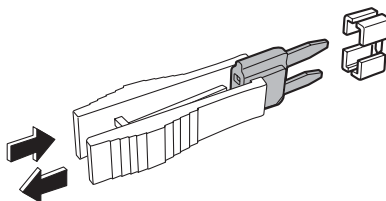
取り付け時は逆の手順で取り付けます。

■ヒューズの点検・交換

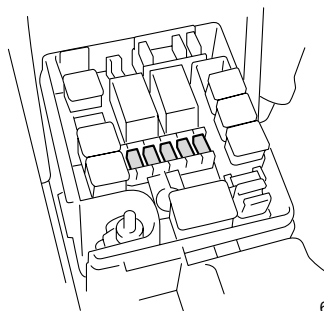
●ヒューズの外しかた

ヒューズボックスカバー、グローブボックス裏にヒューズが表示されています。故障の状況から点検すべきヒューズを確認します。

エンジンルーム内のヒューズボックスにあるヒューズプラーを抜き取ります。

600010

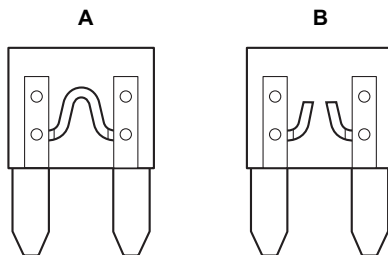
ヒューズプラーでヒューズをつかみ、抜きます。

600160

●ヒューズが切れているとき

ヒューズが切れているときは、エンジンルーム内のヒューズボックスにあるスペア(7.5A、10A、15A、20A、30A各1個）と交換してください。

600043

次ページへ ⇒

⇒前ページより

切れたヒューズと同じ容量（アンペア数）のヒューズと交換してください。

切れていない状態　切れている状態

⚠ 注 意

ヒューズを交換するとき

- 必ずエンジンスイッチをLOCKにしてください。ONやAccの場合、ショートするおそれがあり危険です。
- 指定容量のヒューズに交換してください。
  指定以外のヒューズを使うと故障につながります。
- ヒューズの代わりに針金や銀紙などは絶対に使わないでください。配線の過熱や焼損の原因になります。

アドバイス

- ヒューズが切れた場合は、電気系統の異常が考えられます。交換後は、スバル販売店で点検を受けてください。
- スペアヒューズと交換した後は、スバル販売店でスペアヒューズの補充をしてください。

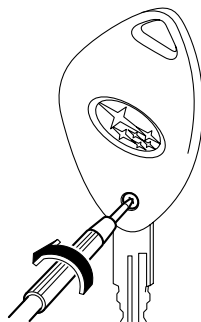
●ヒューズが切れていないとき

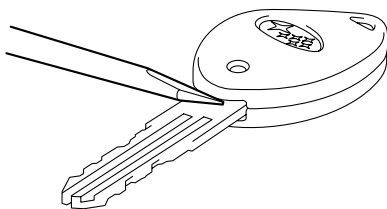
- ライト類が点灯しないときは、電球を点検し、切れているときは交換してください。
  また、電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

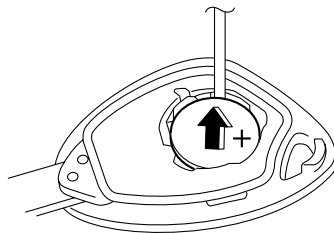
リモコンキーの電池交換

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

使用電池……ボタン電池CR1620

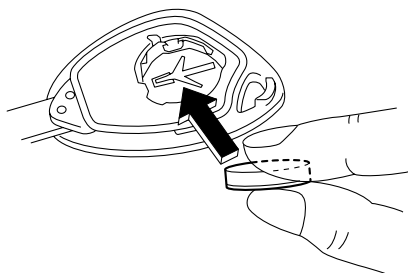
①スクリューを1本外します。

200024

②溝部にマイナスドライバーを差し込み、カバーを外します。

200025

③電池とリモコンケースの間に絶縁テープなどを巻いたドライバーを差し込んで図のように取り出します。

200795

次ページへ ⇒

⇒前ページより

④新しい電池を⊕極を上にして図のように挿入し、カバーを確実に取り付けてください。

200117

⚠注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにとくにご注意ください。

アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。故障の原因となりますので、次のことに注意してください。
  - 端子部分などを曲げない
  - 水、油などでぬらさない
  - ゴミなどの異物を入れない
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

7 万一のとき

ジャッキ、工具、スペアタイヤ

ジャッキ、ジャッキハンドル

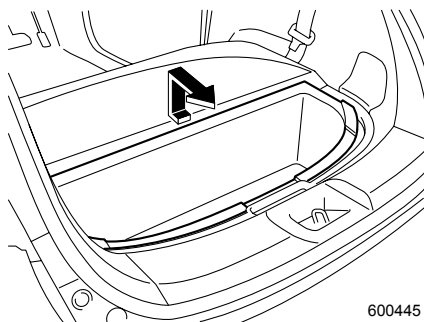
■ジャッキ

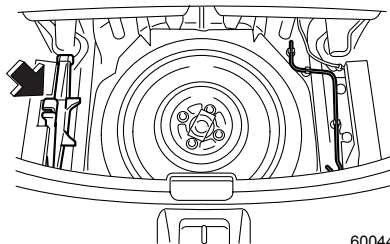
荷室の床下に格納されています。

①リヤシートを倒します。

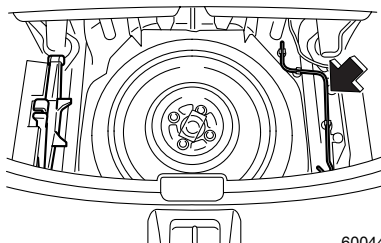
☆2－26ページ参照

②荷室床のフタを開けます。

③矢印の方向に動かし、サブトランクを取り出します。

600445

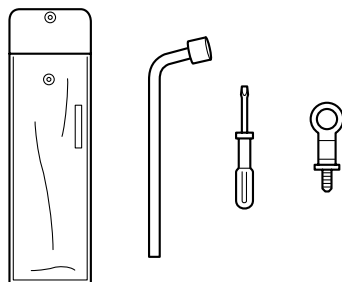
④荷室左側の床下に格納されています。ジャッキを縮めて（左回し）取り出します。

600446

■ジャッキハンドル

荷室右側の床下に格納されています。サブトランクを取り外してからジャッキハンドルを取り出してください。

600448

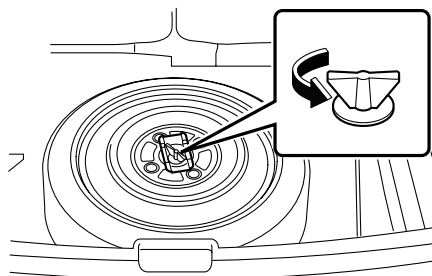
工具

工具は定めた場所に置いておくと、万一のときすぐに取り出しやすく、また、ご自分で必要と思われる工具もそろえておくと点検や手入れのとき役立ちます。

- ツールバッグ
- ドライバー（+、−両方に使えます）
- けん引フック
- ホイールナットレンチ

600006

応急用スペアタイヤ

■スペアタイヤ

荷室内のフロア部に格納されています。固定ネジをゆるめて取り外してください。

600447

⚠ 注意

応急用スペアタイヤは標準タイヤがパンクしたとき応急用としてのみ使用するタイヤです。応急用スペアタイヤのホイールに貼ってある注意書をよく読み、使用するときは次のことを守ってください。

- 応急用スペアタイヤは後輪のみ装着してください。
- 前輪がパンクしたときは、後輪のタイヤを前輪につけ、後輪に応急用スペアタイヤを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、80 km/h以下の速度で走行してください。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は空気圧ゲージを使用して必ず点検してください。（月1回程度）空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
  空気圧：420 kPa（4.2 kgf/cm^2）（走行前のタイヤが冷えているとき）
- 指定（車載）の応急用スペアタイヤを使用してください。
  この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用しないでください。
- 応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは直ちに修理し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結道路で前輪がパンクした場合も同様に応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは、標準タイヤ装着時よりも車高が低くなります。突起物などを乗り越えるときは、同じ感覚で運転すると下部をぶつけるおそれがあります。
- スリップサインが現れたら新品の応急用スペアタイヤと取り替えてください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときはスバル販売店にご相談ください。

パンクしたタイヤの交換

⚠ 警 告

- エンジンをかけたままのジャッキアップや、ジャッキアップしてからのエンジン始動などをしないでください。車が発進する場合やジャッキが外れるなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしたときは車内に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキが外れることがあり危険です。
- ジャッキアップしたときは車両の下にもぐり込まないでください。
  ジャッキが外れると重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他の車のジャッキは使わないでください。車載のジャッキ以外のものを使用した場合、ジャッキが外れたり、車体を変形させるおそれがあります。また、車載されたジャッキは他車には使わないでください。
- ジャッキはタイヤ交換あるいはタイヤチェーンの脱着以外に使わないでください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
- ジャッキ使用前に駐車ブレーキを引き、セレクトレバーを[P]にしてください。
- 輪止めなどをして車を固定してください。
- 同乗者は必ず車から降ろしてください。
- ジャッキと車両の間に台やブロックなどを挟まないでください。
- タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の力で締め直してください。

☆7−9ページ参照

- 車体に振動がでたときはスバル販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。

アドバイス

ガレージジャッキ等を使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。

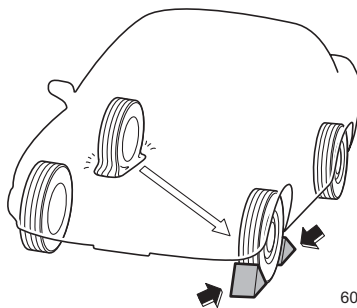
タイヤ交換手順

☆6－17ページ参照

■交換前にすること

①交通のじゃまにならず、安全に作業ができる場所に車を止め、エンジンを止めます。

安全な場所を選んでください
地面が平坦で硬く、車が安定する場所を選んで止めてください。

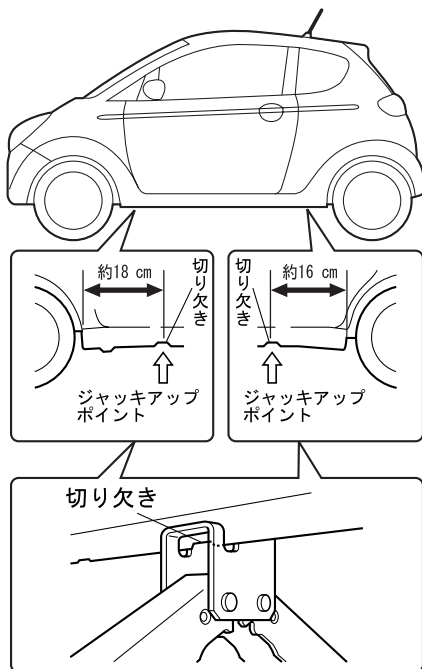
②駐車ブレーキレバーを確実に引きます。
③セレクトレバーをPに入れます。
④非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（停止表示灯）を使用します。
⑤車が動き出さないように交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。
（図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。）
⑥ジャッキハンドル、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、工具を取り出します。

☆7－2ページ参照

⑦応急用スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。

アドバイス

輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

■ジャッキアップするとき

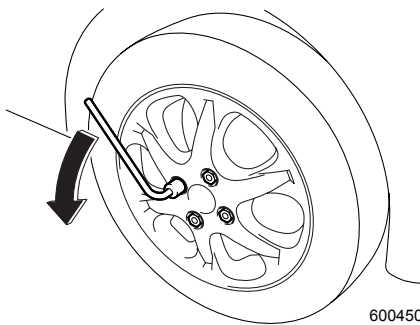
①交換するタイヤに近いジャッキアップポイントの下にジャッキを置き、ジャッキ頭部が車体のジャッキアップポイントにはまるまでジャッキを手で回します。

⚠ 注 意

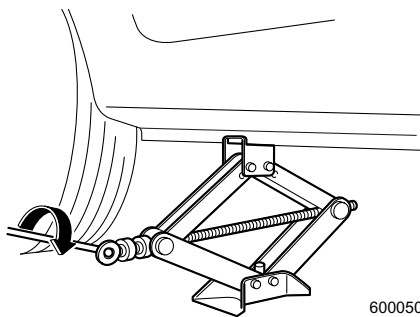
ジャッキが確実に車体のジャッキアップポイントにかかっていることを確認してください。
ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっているとジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷つけるおそれがあります。

次ページへ ⇒

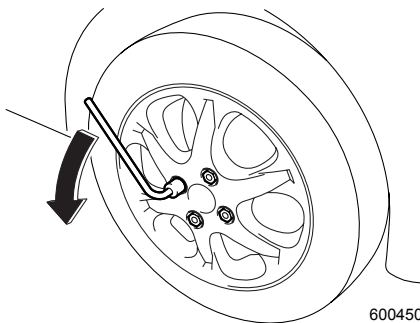
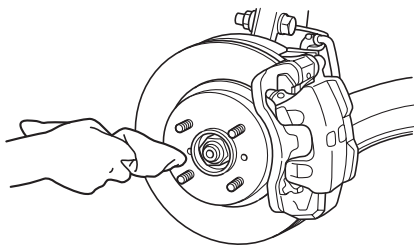
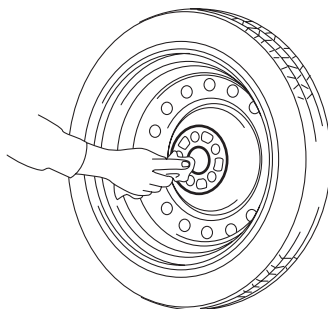
⇒前ページより

②ホイールナットレンチを使い、全てのホイールナットを約半回転ゆるめます。

600450

③ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。ジャッキハンドルを回し、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。

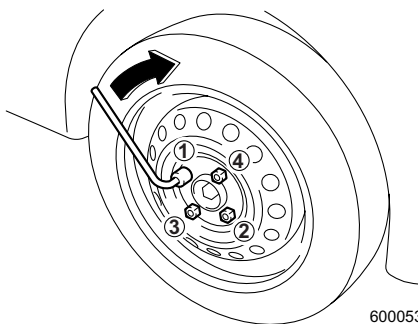
600050

■タイヤ交換

①ホイールナットを外します。

600450

② タイヤを着け替えます。
このとき、ホイール取付部とホイールの接触面の汚れを拭き取ってください。

600027

600162

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

③ ホイールナットを手で回して取り付けます。その後ホイールがガタつかない程度までホイールナットをホイールナットレンチで仮締めします。
④ ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。
⑤ ホイールナットレンチを使用して、図の順番に2、3回にわけてホイールナットを締め付けます。

600053

レンチの柄の先端にかける力	締付トルク（参考）
400〜500 N（40〜50 kg）	80〜100 N･m（8〜10 kg･m）

注 意

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
- ナット、ホイールの座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにしてください。油がついていると締め過ぎの原因になります。

■パンクしたタイヤの格納

スペアタイヤが格納されていた場所にしまいます。

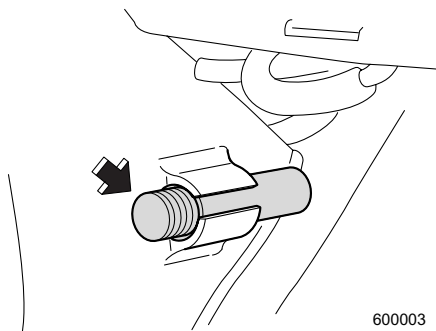
■タイヤ交換後

- ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを元の場所へ戻します。

☆7−2ページ参照

- 最初はゆっくり走り、異音や振動がないか確かめます。
- パンク修理後はすみやかに応急用スペアタイヤから標準タイヤ（修理したタイヤ）に交換してください。

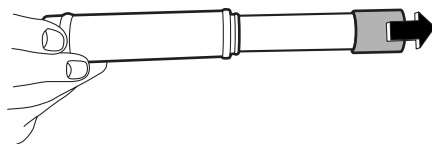
発炎筒について

グローブボックス左下に備えつけてあります。
使用方法は発炎筒の外筒に書いてありますので、あらかじめ確認しておいてください。

600003

■発炎筒の使いかた

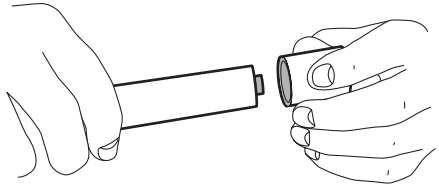
①ケースをひねり、ケースを取り外します。

600029

②ケースを本体の後部に取り付け、白いキャップを取り外します。

600030

次ページへ ⇒

⇒前ページより

③本体の先端に、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。

600031

⚠ 警 告

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、やけどや火災につながるおそれがあります。
- 燃料など可燃物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 筒先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中で使わないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅灯を使用してください。

☆3－14ページ参照

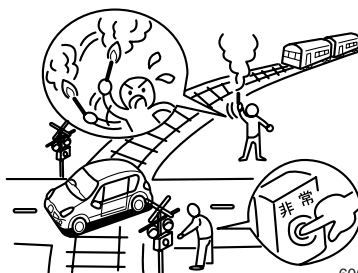
アドバイス

発炎筒はすぐに使えるようにしておいてください

発炎筒には有効期限が明示されています。有効期限が切れる前にスバル販売店でお求めください。

故障したとき

踏切で動けなくなったとき

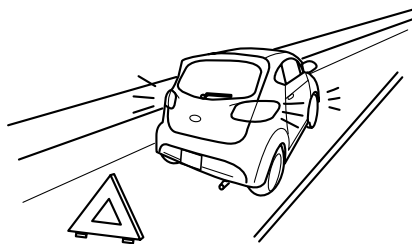
脱輪などで脱出できないとき、非常ボタンがある踏切では、非常ボタンを押してください。非常ボタンがない、位置がわからない、緊急を要するときは、発炎筒を使い合図をしてください。

600451

アドバイス

エンジンスイッチをスタートの位置で保持して（スターターを回している状態）、一時緊急的に車を動かすことはできません。

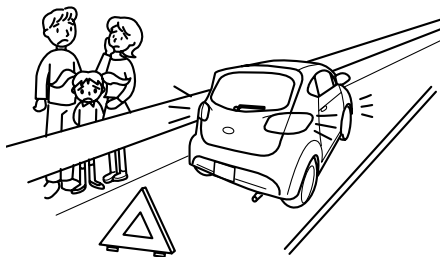
- セレクトレバーがPおよびN以外ではスターターが回りません。

高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

① 車を路肩など安全な場所に止め、非常点滅表示灯を点滅させ、車の後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。

600452

次ページへ ⇒

⇒前ページより

②全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。

600453

③安全を確保後、救援をたのみます。

アドバイス

- 停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。
- 停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備しておいてください。

路上で動けなくなったとき

①あわてず、もう一度エンジンをかけてみてください。
②エンジンがかからないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所へ移動してください。
そのとき、セレクトレバーはNにします。
☆3−32ページ参照

故障時の対応方法と連絡先

①車を安全な場所に移動するなど、可能な範囲で安全を確保してください。
②最寄りのスバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡し、ご相談ください。
③スバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡が取れない場合は JAF ロードサービスに連絡し、ご相談ください。

アドバイス

- スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は別冊の「スバルサービスネットワーク」に記載されています。
- 万一のために、JAFに入会されることをお奨めします。

R1 RJ1-017001～018400, RJ2-011001～011400

けん引のとき

車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。旅先では、別冊の「スバルサービスネットワーク」を参考に、スバル販売店、スバル指定サービス工場、JAFロードサービスに依頼してください。

けん引してもらうとき

■けん引方法の違い

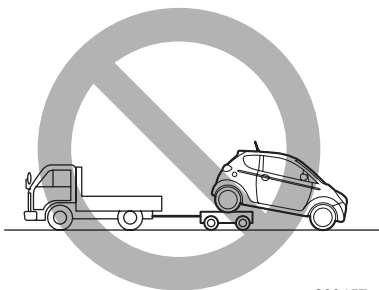
車の仕様によりけん引方法が違います。

- 車載（4輪持ち上げ）の場合
  トランスミッション（変速機）や駆動装置が故障したと思われる場合は車載してください。
- ロープけん引の場合
  次の条件をお守りください。お守りいただかないと、駆動装置が損傷するおそれがあります。
  – 速度30 km/h以下で走行してください。
  – 走行距離は30 kmを超えないでください。
- 前輪持ち上げけん引の場合
  2WD車の場合は可能です。

⚠ 注 意

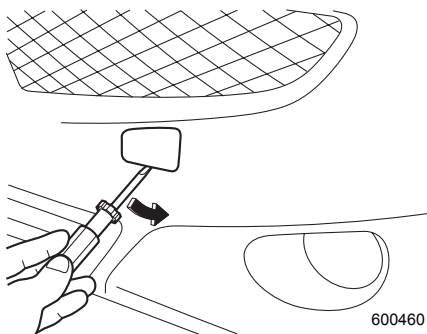
- AWD 車の場合、前輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛びだすことがあります。

600458

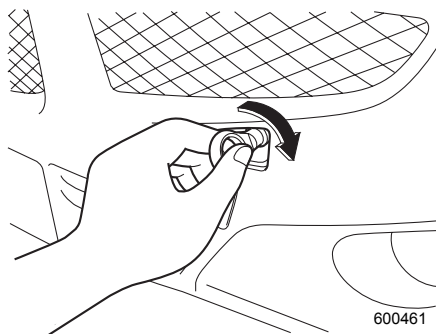
- 全車後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛びだすことがあります。

600457

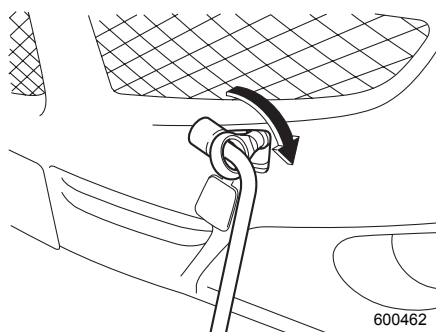
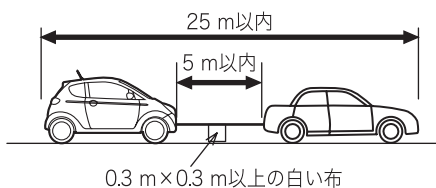
■ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。
けん引時は、指定のフックにソフトロープをかけて行ってください。

① バンパーに傷がつかないようマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの縁に差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。

600460

②けん引フックをツールバッグから取り出し、取付部にねじ込んでください。

600461

③ホイールナットレンチなどを使って、確実にけん引フックを締め付けてください。

600462

④ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3 m×0.3 m以上）をつけます。

600459

⑤セレクトレバーを N にします。
⑥エンジンスイッチをONの位置にします。
⑦駐車ブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⚠ 警 告

- エンジンスイッチをLOCKの位置にしたり、キーを抜いたりしないでください。ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外してください。そのままにしておくと前面に衝撃を受けたときエアバッグが正常に作動しないことがあります。

⚠ 注 意

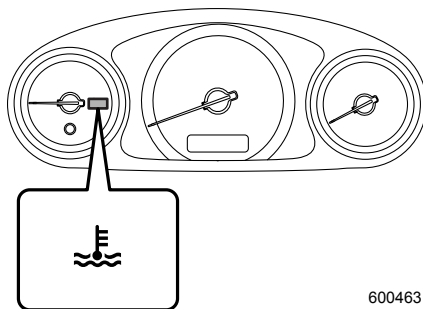
- セレクトレバーを[N]にしてください。
- エンジンスイッチをONの位置にしてハンドルが自由に動くことを確認してください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載（4輪持ち上げ）を依頼してください。ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などロープに衝撃を与えないよう運転してください。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が起きます。充分注意して操作してください。
  - ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
  - パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- 駐車ブレーキを確実に戻してください。
- トランスミッション（変速機）および駆動装置が故障したと思われるときは必ず車載（4輪持ち上げ）してください。
- 故障の内容によりけん引できない場合があります。
- この車は他車をけん引することができません。
- 車両後方下側にフックがありますが、車両輸送時の固定用です。けん引には使用しないでください。
  （けん引に使用すると、バンパー等を損傷させるおそれがあります。）

アドバイス

ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引してもらうときは、車体に当たる部分に布を巻くなどして行ってください。
そのままけん引してもらうと、バンパーを損傷するおそれがあります。

オーバーヒートしたとき

下記の場合は、オーバーヒートです。
- 水温表示灯／水温警告灯が赤色に点灯している。
- エンジンの力が急に落ちる。
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

☆3－25ページ参照

■対処のしかた

①後続車に注意し、安全な場所に車を止めます。

エアコンを使用している場合はエアコンを止めてください。

②エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがないときは、エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。
このとき、冷却ファンが回っていることを確かめてください。
ファンが回っていないときは、エンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。

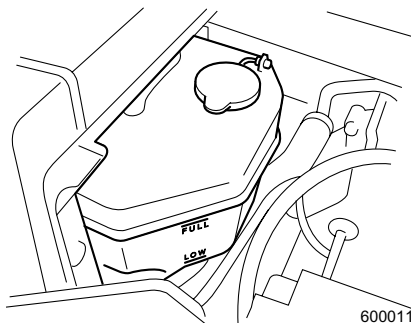
エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、後続車に注意し、車を安全な場所に止め、すぐにエンジンを止めてください。
スバル販売店に連絡してください。

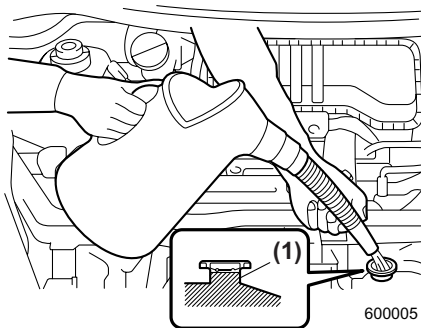
③水温表示灯／水温警告灯が消灯したらエンジンを止めます。
④エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

⑤ リザーバータンク内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、補充します。
☆6－2、6－3ページ参照
- リザーバータンクの FULL 位置まで補充します。

600011

⑥ ラジエター内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、ラジエターキャップの口元（1）まで補充します。

600005

⚠ 警 告

- エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるとき、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンが高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ラジエターが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエターが充分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

アドバイス

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが充分に冷えてからゆっくりと入れてください。
- 冷却水がない場合は、応急的に水を補充します。補充する水は、軟水または水道水をご使用ください。

⑦ 直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

バッテリーが上がったとき

下記の場合は、バッテリー上がりです。
- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからないとき。
- ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき。

■対処のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

⚠ 警 告

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下で充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、以下を必ずお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。
  - プラス端子とマイナス端子を間違えないでください。
  - プラス端子とマイナス端子を接触させないでください。
  - 自車のバッテリーのマイナス端子にケーブルを接続しないでください。
- バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、全てのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮ふに付くと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で使用を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。

⚠ 注 意

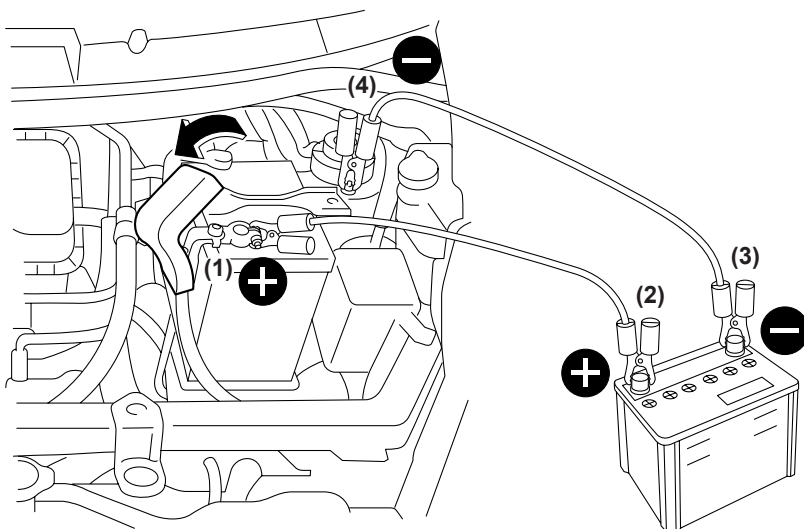
ブースターケーブルを接続するときは次の項目をお守りください。
- 12Vのバッテリーを装着している車両と接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器が損傷するおそれがあります。

<ブースターケーブルの接続手順>

①カバーを外し、赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーのプラス端子（1）につなげます。
②赤いブースターケーブルのもう一方を救援車のバッテリーのプラス端子（2）につなげます。
③黒いブースターケーブルの一方を救援車のバッテリーのマイナス端子(3)につなげます。
④黒いブースターケーブルのもう一方を自車の車体（バッテリーから離れたボルトなど）(4）につなげます。
⑤救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
⑥自車のエンジンをかけます。
⑦ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。

アドバイス

早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

☆8−2ページ参照

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

①続発事故の防止につとめてください

他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。

②負傷者の救護につとめてください

負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

③警察へ届け出をしてください

事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。

④相手方の確認とメモをおとりください

相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。
同時に事故状況もメモしておいてください。

⑤スバル販売会社と保険会社へ連絡してください

ご購入されたスバル販売会社と加入の保険会社へ連絡をします。

8 サービスデータ

サービスデータ

交換時期については、舗装路を1年に10,000 km程度走行する車を前提に定めてあります。走行距離の多い車や未舗装路を走行するなど厳しい使われかたをした車については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

<table>
<tr><td rowspan="4">スパークプラグ</td><td colspan="2">指定スパークプラグ
車種</td><td>品番</td><td>メーカー</td><td colspan="2">電極すき間</td></tr>
<tr><td colspan="2">R</td><td>LKR7AI</td><td>NGK</td><td colspan="2">0.8〜0.9 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">S</td><td>KR8BI</td><td>NGK</td><td colspan="2">0.7〜0.8 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">交換時期</td><td colspan="4">20,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキペダル</td><td colspan="2">遊び</td><td colspan="2">指で引いたとき</td><td colspan="2">0.5〜2 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2">踏み込んだときの
床板とのすき間</td><td colspan="2">約300 N（約30 kgf）
の力で踏み込んだとき</td><td colspan="2">65 mm以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">駐車ブレーキの引きしろ</td><td colspan="2">約200 N（約20 kgf）の
力でゆっくり引いたとき</td><td colspan="2">3〜5 ノッチ</td></tr>
<tr><td colspan="3">タイヤ空気圧</td><td colspan="4">8−6ページ参照</td></tr>
<tr><td colspan="3">ウォッシャータンク容量</td><td colspan="4">1.5 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="3">燃料タンク容量</td><td colspan="4">約30 ℓ</td></tr>
<tr><td colspan="3">使用燃料</td><td colspan="4">無鉛レギュラーガソリン</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">エンジンの
タイミングベルト</td><td>使用ベルト</td><td colspan="4">専用タイミングベルト</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">100,000 kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">エアクリーナー
エレメント</td><td>使用部品</td><td colspan="4">純正エアクリーナエレメント</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">40,000 kmごと</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="3">バッテリー型式</td><td colspan="2">標準仕様</td><td colspan="2">26B17L（12V-21AH）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">寒冷地仕様</td><td>R</td><td colspan="2">38B19L（12V-28AH）</td></tr>
<tr><td>S</td><td colspan="2">44B20L（12V-34AH）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="6">エンジンオイル※</td><td rowspan="4">使用オイル</td><td colspan="3">スバルモーターオイル SM 5W-30</td><td>5W-30（SM級）</td></tr>
<tr><td colspan="3">スバルモーターオイル SM 0W-20</td><td>0W-20（SM級）</td></tr>
<tr><td colspan="3">FREEDOM</td><td>10W-30</td></tr>
<tr><td colspan="3">エルフ SM 10W-50 レ・プレイアード</td><td>10W-50（SM級）</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="4">約2.4 ℓ（オイルフィルター交換なし時）
オイルフィルター交換時は約0.2 ℓ多く
補充してください</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="4">10,000 kmごと、または12か月ごと
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
</table>

※エンジンオイル消費量は新車時から数千km走行すると安定しはじめます。
また、厳しい運転条件（悪路、山道、登降坂路、交差点等での急加減速の繰り返し、またはエンジンの高回転使用頻度が高い等）での走行時は、通常に比べてエンジンオイルの消費が早くなることがあります。このような使用の頻度が高い場合、1000km 走行あたり0.5L〜1L消費する場合もあります。早めの点検・補充をお奨めします。

R1 RJ1-017001〜018400, RJ2-011001〜011400

<table>
<tr><td rowspan="2">エンジンの
オイルフィルター</td><td>使用部品</td><td colspan="2">純正オイルフィルター</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">10,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="2">フューエルフィルター</td><td>使用部品</td><td colspan="2">純正フューエルフィルター</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">100,000 kmごと</td></tr>
<tr><td rowspan="4">トランスミッション
フルード</td><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルi-CVT・FG</td></tr>
<tr><td rowspan="2">規定量</td><td>FWD*1</td><td>約4.7 ℓ～5.0 ℓ</td></tr>
<tr><td>AWD*2</td><td>約5.5 ℓ～5.8 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください</td></tr>
<tr><td rowspan="4">リヤデファレンシャル
オイル
(AWD*2車)</td><td>量の判定基準</td><td colspan="2">フィラープラグ穴下端より
0～－5 mm間にあること</td></tr>
<tr><td>使用オイル</td><td colspan="2">スバルギヤオイルエクストラS
75W-90（GL-5相当）</td></tr>
<tr><td>規定量</td><td colspan="2">約0.6 ℓ</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="2">40,000 kmごと</td></tr>
</table>

＊1：前輪駆動車

＊2：全輪駆動車

サービスデータ

<table>
<tr><td rowspan="5">冷却水</td><td>使用冷却水</td><td colspan="3">スバルクーラント</td></tr>
<tr><td rowspan="2">規定量</td><td>R</td><td colspan="2">約3.8 ℓ</td></tr>
<tr><td>S</td><td colspan="2">約3.7 ℓ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">交換時期</td><td>1回目</td><td colspan="2">40,000 kmごと、または3年目
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td>2回目以降</td><td colspan="2">40,000 kmごと、または2年ごと
（どちらか早いほうで実施）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキフルード</td><td>使用フルード</td><td colspan="3">スバル純正ブレーキフルード（DOT3）
（銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと）</td></tr>
<tr><td>交換時期</td><td colspan="3">初回3年、以降2年ごと</td></tr>
<tr><td>ディスクブレーキのパッドの摩耗限度</td><td>前輪</td><td colspan="3">標準厚さ：9.0 mm、使用限度：1.5 mm</td></tr>
<tr><td>ドラムブレーキのシューのライニング摩耗限度</td><td>後輪</td><td colspan="3">標準厚さ：3.9 mm、使用限度：1.0 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">点火時期
（アイドリング時エアコンOFF）</td><td colspan="2">R</td><td>BTDC10°/700 rpm</td></tr>
<tr><td colspan="2">S</td><td>BTDC10°/750 rpm</td></tr>
<tr><td rowspan="4">弁すき間（冷態時）</td><td rowspan="2">R</td><td>吸気</td><td colspan="2">0.10 mm</td></tr>
<tr><td>排気</td><td colspan="2">0.19 mm</td></tr>
<tr><td rowspan="2">S</td><td>吸気</td><td colspan="2">0.15 mm</td></tr>
<tr><td>排気</td><td colspan="2">0.30 mm</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="4">ベルト中央部を約100 N（約10 kgf）の力で押したときのたわみ量</td></tr>
<tr><td colspan="2">スーパーチャージャー車以外</td><td colspan="2">スーパーチャージャー車</td></tr>
<tr><td colspan="2">ALT
TEN
CRANK
A/C
800000</td><td colspan="2">ALT
TEN
TEN
MSC
A/C
CRANK
800001</td></tr>
<tr><td colspan="4">上図 ← 指示位置はたわみ量確認位置です</td></tr>
<tr><td colspan="2">エアコン、オルタネーター用ベルト</td><td colspan="2">エアコン、オルタネーター用ベルト（実線）</td></tr>
<tr><td></td><td>たわみ量</td><td></td><td>たわみ量</td></tr>
<tr><td>新品</td><td>5.5～6.5 mm</td><td>新品</td><td>4.5～5.5 mm</td></tr>
<tr><td>継続</td><td>6.5～7.5 mm</td><td>継続</td><td>5.5～6.5 mm</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4"></td><td colspan="2">スーパーチャージャー用ベルト（点線）</td></tr>
<tr><td></td><td>たわみ量</td></tr>
<tr><td>新品</td><td>5.5～7.0 mm</td></tr>
<tr><td>継続</td><td>7.0～8.5 mm</td></tr>
</table>

<タイヤ・ホイール>

- 標準装着タイヤ、応急用スペアタイヤおよび装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。
- 参考：標準装着タイヤおよび応急用スペアタイヤ（車種・グレードによって異なります）

▼ホイールサイズ

タイヤサイズ	ホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	オフセット量
155/60R15	15×4 1/2J	100	45
T115/70D15	15×4T	100	35

▼タイヤ空気圧

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa（kgf/cm²）	
	前輪	後輪
155/60R15	220（2.2）	210（2.1）
T115/70D15	420（4.2）	

▼タイヤの位置交換と交換時期

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）時期	5,000 kmごと
タイヤの溝の深さ	1.6 mm以下

さくいん

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

て

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

め

ゆ

ら

り

る

ろ

わ

R1 RJ1-017001～018400,RJ2-011001～011400

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項
　型式・車台番号・登録番号・登録年月日
②走行距離
③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール　0120－052215

受付時間　9:00～17:00(平日)、土日祝は9:00～12:00、13:00～17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
(1) ご意見／ご感想／ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）
(2) お問合せ／ご相談
※平日の12:00～13:00および土日祝は（1）のインフォメーションサービスのみとなります。

富士重工業株式会社
スバルカスタマーセンターお客様相談部
〒160-8316　新宿区西新宿1-7-2（スバルビル）

編集・発行　富士重工業株式会社

スバルカスタマーセンター
カスタマーセンター企画部

R1 RJ1-017001～018400,RJ2-011001～011400